

完了報告書

記入年月日 2026年2月16日
採択団体名 久留米市コミュニティ防災教育推進協議会

■事業概要

基本情報	
事業名	住民を中心に多様な主体と協働で地区防災計画をつくるコミュニティ防災教育事業
事業内容	事業内容①:地区防災計画ワークショップ(各モデル校区) 事業内容②:防災教育プログラム 事業内容③:防災教育コーディネーターの実践型育成 事業内容④:成果整理・普及
事業背景	<p>近年、自然災害の頻発・激甚化により、地域防災力の向上が重要な課題となっている。特に中核市においては、人口集積や地域コミュニティの希薄化、災害時要配慮者の増加などにより、行政主導のみでは十分な対応が難しく、地域主体による地区防災計画の策定と実践が求められている。</p> <p>久留米市においても、地区防災計画の重要性は認識されているものの、住民参加や実効性の確保が課題となってきた。また、防災教育についても、単発的な講座や訓練にとどまり、地域の合意形成や具体的な計画づくりへ十分に結びついていない現状がある。特に、高齢者、障がい者、乳幼児、医療的ケアを必要とする方など、災害時要配慮者への対応については、地域全体での共有や事前の準備が十分とは言えない状況であった。</p> <p>本事業では、防災教育を計画づくりと一体的に進め、多様な主体が地域課題や災害リスクを共有しながら、実効性の高い地区防災計画を策定することを目的としている。</p>
コミュニティ 設立の経緯	<p>本事業では、地区防災計画を実効性あるものとするため、地域住民に加え、企業、社会福祉法人、医療機関、大学、課外学習施設など多様な主体と連携する防災教育コミュニティを設立した。連携団体の選定にあたっては、災害時の役割が想定できることに加え、平時から地域と関わりを持ち、継続的な参画が可能である点を重視した。</p> <p>本コミュニティは、これまでの防災教育の取組において、学びが地域全体の合意形成や計画づくりへ十分につながっていなかったという課題を踏まえ、防災教育を「学習」から「実践」へ発展させることを目的に形成した。地区防災計画の策定を共通目標とすることで、教育と計画を一体的に進める体制を整えた。</p> <p>コミュニティの立ち上げにあたっては、モデル小学校区を単位とし、既存の地域活動や課外事業と連携することで、参加者の負担を抑えた運営を工夫した。また、子どもから高齢者まで多世代が参加できる防災教育を実施し、災害時要配慮者への対応についても当事者や支援者の意見を計画に反映するよう努めた。</p> <p>一方で、中核市という都市的特性から関係主体が多く、防災に対する意識や優先度の違いを調整する必要があったが、ワークショップ等を通じて地域課題を可視化し、「地区防災計画の策定」という明確な目的を共有することで、協働体制の構築につなげることができた。</p>


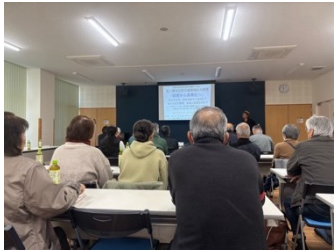
<p>本事業に関する過去の取り組み内容</p>	<p>「そなえるくるめ」は、2021年に福岡県久留米市で開始した、地域に根ざした防災・共助の取組である。自然災害が頻発する中、災害時に支援が届きにくい人々への対応を地域全体で見直し、日常的な住民同士のつながりを通じて「備える」ことを重視してきた。2024年度からは休眠預金を活用した事業として再編され、これまでの理念と成果を継承・発展させる後継事業として位置づけられている。</p> <p>本取組では、平時に育まれた関係性が災害時に自律的に機能する「キドウ(起動・機動)」する地域づくりを目指し、住民同士の学びや交流を重ねてきた。</p> <p>具体的には、市内約60か所に平時と災害時の相互扶助の起点となる「小さな拠点」を整備し、イベントや研修を通じて顔の見える関係性の構築を進めている。また、地域ごとに12名の地域コーディネーターを配置し、企画・調整の中心として伴走支援を行ってきた。</p> <p>さらに、医療的ケア児や障がい者など災害時要配慮者への支援について、地域主導で計画策定や訓練を行う先進的な取組を実践している。これらの実績を基盤に、本事業では地区防災計画と防災教育を一体的に進め、地域主体の持続可能な防災文化の定着を目指す。</p>
<p>事業体制</p>	<p>事業内容①:地区防災計画ワークショップ 各7校区 (竹野校区、宮の陣校区、金丸校区、日吉校区、西国分校区、安武校区、山川校区)</p> <p>事業内容②:防災教育プログラム 5事業企画運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練(障害者・外国人対象) ・ 子ども・親子防災キャンプ ・ 炊き出し講座 ・ 赤ちゃん防災講座 ・ 防災講座(専門家) <p>事業内容③:防災教育コーディネーターの実践型育成</p> <p>事業内容④:成果整理・普及 コンソーシアム企画開催(4回)</p>
<p>全体スケジュール</p>	<p>事業内容①:地区防災計画ワークショップ(各モデル校区)</p> <p><9月~10月中旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校区にて、地域へ説明会開催 ・ ワークショップ開催に向けて準備 <p><11月下旬~12月下旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各校区にて、ワークショップ開催 <p>事業内容②:防災教育プログラム</p> <p><9月~10月中旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 炊き出し講座……………篠山校区 <p><11月下旬~12月下旬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練(障害者・外国人対象)・さわるハザードマップ作成(視覚障害者向け) ・ 子ども・親子防災キャンプ……LEDバットボトル、簡易トイレ作成、キッズ防災土育成、防災クエスト ・ 炊き出し講座……………かなまるシェ、旧青峰小学校、ガス炊飯訓練、竹野校区、くるめウス、みずま総合支所 ・ 防災講座(専門家)……………防災授業 <p>事業内容③:防災教育コーディネーターの実践型育成</p>

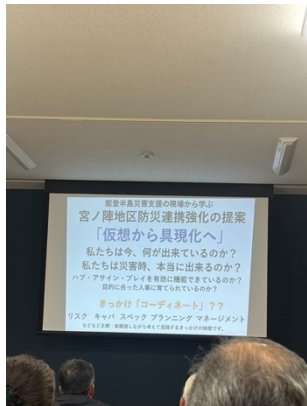
	<p>事業内容④:成果整理・普及</p> <p>令和7年11月 4日 第1回 官民協働コンソーシアム開催</p> <p>令和7年12月24日 第2回 官民協働コンソーシアム開催</p> <p>令和7年 1月10日 第3回 官民協働コンソーシアム開催予定</p> <p>令和7年 2月27日 第4回 官民協働コンソーシアム開催予定</p>
<p>事業目標・事業成果</p>	
<p>事業目標全般 (教育提供者側)</p>	<p>防災教育の提供者(採択団体等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災計画ワークショップを 7 校区において各校区で複数回(2~3 回)実施する (竹野校区、宮の陣校区、金丸校区、日吉校区、西国分校区、安武校区、山川校区) ・ 各校区において、地域住民、企業、社会福祉法人、医療機関、大学等が参加する多主体協働型の防災教育の場を構築する ・ 防災教育コーディネーターを実践型で一定教育成し、地域での活動につなげる ・ 防災教育を、知識提供にとどまらず、地区防災計画の策定・見直しにつなげる実践型プログラムとして確立する ・ 多様な主体の役割や強みを整理し、災害時の連携体制が可視化された計画づくりを支援する ・ 中核市・久留米市における都市型地区防災計画の推進モデルを整理・蓄積し、他校区・他自治体への展開につなげる
<p>事業成果全般 (教育提供者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災計画ワークショップについては、久留米市内 7 校区(竹野・宮の陣・金丸・日吉・鳥飼・安武・山川)を対象に実施体制を整備し、複数校区において第 1 回目のワークショップを開催した。各地区によって開催回数や課題は異なるが、地域の状況に合わせて進行中。 ・ 各校区において、地域住民に加え、企業、社会福祉法人、医療機関、大学等の参加を想定した多主体協働型の防災教育の場づくりに着手した。一方で、校区によっては多様な参加者の選定や参画調整に時間を要しており、地域特性に応じた関係構築の重要性が明らかになった。 ・ 防災教育を単発の学習機会に終わらせず、地区防災計画の策定・見直しにつなげる実践型プロセスとして設計し、ワークショップを通じて地域課題や災害時の役割分担を可視化する取組を開始した。 ・ ワorkshopの中で、多様な主体の役割や強みを整理し、災害時の連携体制を意識した意見整理・合意形成の手法を蓄積している。 ・ 防災教育コーディネーターについては、今後の育成を見据え、求められる役割や活動像を明確化し、実践型育成プログラムの設計段階に入った。 ・ 中核市である久留米市の都市的特性を踏まえ、多主体が関与する地区防災計画推進の進め方や課題を整理し、今後の他校区展開や他自治体への応用に向けた基礎的知見を蓄積している。

<p>事業目標全般 (参加者側)</p>	<p>防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7校区それぞれにおいて、住民、関係団体等が参加する地区防災計画ワークショップに一定数以上の参加を確保する ・ 高齢者、障がい者、乳幼児、医療的ケアを必要とする方など、災害時要配慮者の視点を反映した意見収集を各校区で実施する ・ 防災教育への参加を通じ、7校区すべてで地区防災計画の策定または更新に住民が参画する ・ 住民が地域の災害リスクや課題を自ら認識し、防災を「自分ごと」として捉える意識を醸成する ・ 災害時要配慮者への対応について、支援する側・される側が共に考える関係性を地域内に形成する ・ 地区防災計画を基に、避難訓練や日常の地域活動へと防災の取組が継続的に展開される状態を目指す
<p>事業成果全般 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 久留米市内 7 校区において実施している地区防災計画ワークショップには、地域住民、自治会関係者、関係団体等が参加し、各校区で一定数以上の参加を確保できており、防災をテーマとした対話の場が形成されている。 ・ ワorkshopへの参加を通じて、住民が自らの居住地域における災害リスクや課題について意見を出し合い、防災を「自分ごと」として捉える意識の醸成が進みつつある。 ・ 災害時要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児、医療的ケアを必要とする方等)への対応については、当事者視点を計画に反映する重要性に関する説明や問題提起を実施しており、参加者の理解促進と意識づけが図られている。一方で、具体的な意見収集や反映については、今後のワークショップでの実施を予定している。 ・ 防災教育への参加をきっかけに、住民が地区防災計画の策定・更新プロセスに関心を持ち、計画づくりに参画する主体としての意識が芽生え始めている。 ・ 災害時要配慮者への支援について、「支援する側」「支援を受ける側」という一方向の関係ではなく、地域全体で共に考える必要性が共有され始めている。 ・ 地区防災計画を起点として、今後は避難訓練や日常の地域活動へと防災の取組を展開していくことについて、参加者間で共通認識が形成されつつある。
<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<p>本事業の取組から、防災教育を単発的な講座として実施するのではなく、地区防災計画の策定を見据えた対話のプロセスとして位置づけることが、住民参加や主体性を促す一助となることが見え始めている。また、モデル小学校区を単位とし、既存の地域活動と連携することで、都市部・中核市においても無理のない形で防災教育を展開できる可能性が示唆されている。多主体協働においては、災害時の役割を起点に関係者を巻き込むことが、参加のきっかけづくりとして有効である場面が見られている。</p>
<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>地域で防災教育を進めるにあたっては、知識の提供にとどまらず、地域課題を共有し合意形成へつなげる視点が重要であることが改めて認識されている。また、誰もが参加しやすい場づくりや、既存の地域の枠組みを活用する工夫により、継続的な取組につながりやすくなる。さらに、災害時要配慮者への対応については、早い段階から地域全体のテーマとして扱い、段階的に理解と関係性を深めていく視点が不可欠である。</p>

<p>残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区ごとに事業の進捗や参加状況に差が見られており、地域特性や成熟度の違いを踏まえながら、それぞれに応じた支援や進め方を整理していく必要がある。 ・ 多主体協働の実現に向け、企業や医療・大学等の関与を広げるため、参加の意義や災害時に想定される役割をより具体的に示していくことが課題である。 ・ 災害時要配慮者の視点を具体的に計画へ反映する段階には至っておらず、当事者や支援者が無理なく関われる参加方法や、段階的な意見収集の進め方を検討していく必要がある。 ・ 防災教育コーディネーターの育成は今後本格化する段階であり、実践を通じた育成と、活動を継続できる環境づくりをどのように両立させるかが今後の展望である。
-------------	--

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(宮の陣校区)		
事業内容①目標 (提供者側)	<p>宮の陣校区において、これまでの防災活動の蓄積を踏まえた地区防災計画の策定につなげる</p> <p>校区の地理的条件や災害の歴史を踏まえ、地域特性を反映した防災教育プログラムの知見を整理・蓄積する</p> <p>既存の地域主体の活動の中に、防災計画の視点を組み込む手法を検討する</p>	
事業内容①目標 (参加者側)	<p>自身の生活圏において、どこにどのような災害リスクがあるのかを改めて考える機会とする</p> <p>これまで行われてきた防災活動や取り組みを振り返り、強みや課題を整理する</p> <p>宮の陣校区における防災を、過去の経験と現在の暮らしをつなげて考える視点を持つ</p>	
事業内容① 実施内容 A (実施日:10/6)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>第1回開催 キックオフ</p> <p>地区防災計画ワークショップ(宮の陣校区)</p> <p>実施日:2025年10月6日</p> <p>宮の陣校区における地区防災計画づくりのキックオフとして、これまで校区で取り組まれてきた防災活動の振り返りを中心としたワークショップを実施した。</p> <p>校区では、平成24年度以降、校区自主防災会を軸に各自治会が避難訓練を実施し、平成28年度からは体制強化を進めてきた。熊本地震発生時には自治会間で被災状況を共有し、その後も防災行政無線・防災メールを活用した訓練や、防災資機材を用いた校区全体での総合訓練を継続している。</p> <p>令和2年度には校区防災士会を組織し、令和6年4月時点で防災士11名、防災リーダー27名の計38名が活動している。また、令和6年度には宮の陣小学校と連携し、避難ルートや危険箇所の踏査を行い、児童による防災マップ作成につなげるなど、学校との協働も進めている。</p> <p>本ワークショップでは、これらの取組を整理・共有し、今後の地区防災計画策定に向けた基礎的な整理と共通理解を図った。</p>	<p>写真・図など</p> 
事業内容① 実施内容 B (実施日:11/29)	<p>地域防災勉強会(地区防災計画ワークショップ・宮の陣校区)</p> <p>(宮の陣校区の災害の歴史)</p> <p>実施日:2025年11月29日</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>宮の陣校区における地区防災計画づくりの初期段階と</p>	<p>写真・図など</p> 

	<p>して、地域防災勉強会を実施した。筑後川や橋の名称、地名の由来などを手がかりに、地域がこれまで経験してきた災害の歴史を学び、現在の地域環境と照らし合わせながら災害リスクについて共有した。また、これまで校区で行われてきた防災活動を振り返り、今後の地区防災計画につなげるための意見交換を行った。</p> <p>■成果(参加者側)</p> <p>地域の災害の歴史を知ることで、自分たちの暮らす地域特有のリスクへの理解が深まり、防災を「自分ごと」として捉えるきっかけとなった。あわせて、これまでの防災活動を整理し、地区防災計画としてまとめていく必要性について、参加者間で認識を共有することができた。</p>	
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>既に一定の防災活動の経験がある参加者が多く、地区防災計画という新たな枠組みとの関係性が分かりにくい場面があった。</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>これまでの取り組みを否定せず、「これまでの活動をどう計画として整理するか」という視点で説明や進行を工夫した。</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>地域主体の会合や集まりの中で防災の話題を取り上げることで、幅広い住民に情報を届けることを意識した。新たな場を設けるのではなく、既存の地域活動と連動させることで、参加のハードルを下げた。</p>	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの防災活動の内容を、地区防災計画としてどのように整理・位置づけるかが今後の課題 ・ 防災に関わる担い手が固定化しており、若い世代や新たな層の参画促進が必要 ・ 災害の歴史を踏まえた気づきを、具体的な行動や役割分担へどう落とし込むか検討が必要 ・ 今後のワークショップでは、計画策定を見据えたより具体的な議論の場づくりが求められる 	

「これまで」の防災活動のふりかえり

校区自主防災会
総務 岡田 一俊

・H24年度から校区自主防災会に関わる

各自治会では地域に即した避難訓練等を行う
28年災害を想定した訓練する

・H28年度から校区自主防災会の総務を担当する

H28年4月14日「熊本地震」が発生する
各自治会長よりそれぞれの被災状況報告を受ける

・H28年～29年は久留米市防災行政無線・防災メールによる訓練

・H30年は久留米市から支援された防災関係資材を使った訓練をする

校区全体で活動している団体と「総合訓練」をする

・R2年度「校区防災士会」を組織する

防災士 11名 防災リーダー 27名 の38名で活動する
(R6年4月現在)

・R6年度は宮ノ陣小学校の「フィールドワーク計画」に防災士会と 校区9自治会の避難ルートや危険箇所を踏査する

4年生が作成した「防災マップ」に取りまとめ、授業参観で発表
してくれた

・校区自主防災会では、2回／年行っている

校区の病院関係や企業が訓練に参加いただいている

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(宮ノ陣校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>〔定量目標〕</p> <p>地域住民・入居者を含む 20 名以上の参加による実践訓練の実施</p> <p>建物キャパシティ・動線・設備活用の検証項目を 5 項目以上整理</p> <p>関係機関(行政・社会福祉法人等)との連携実績を構築</p> <p>〔定性目標〕</p> <p>指定避難所外施設での受入訓練モデルを構築する</p> <p>福祉施設と地域住民の協働型訓練の実践知を蓄積する</p> <p>「訓練」ではなく「継続的サークル活動」としての防災意識向上の枠組みを試行する</p>
事業内容①目標 (参加者側)	<p>〔定量目標〕</p> <p>年齢層を超えた多世代参加(8 歳～91 歳)による共同訓練の実施</p> <p>参加者全員が「自分にできること」を 1 つ以上言語化する</p> <p>避難所設営・炊出し・点呼など複数の役割体験を実施</p> <p>〔定性目標〕</p> <p>災害時に安全に避難できる近隣施設を認識する</p> <p>「支援される側/する側」という固定観念を超えた役割意識を持つ</p> <p>防災を特別な活動ではなく、日常の延長として捉える</p>
事業内容① 実施内容 C (実施日:1/6)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>指定避難所ではなく、福祉施設を活用した小規模共同避難訓練を実施した。</p> <p>筑後川流域に位置し、水害リスクを抱える地域特性を踏まえ、「浸水時に遠方の指定避難所へ移動する困難さ」という住民の声を出发点とした。</p> <p>訓練は「大規模訓練」ではなく「少人数サークル形式」とし、以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物キャパシティおよび設備スペックの検証 ・ 点呼および健康状態確認 ・ 避難所設営体験 ・ 炊出し体験 ・ ディスカッション(自分にできることの共有) <p>災害時の役割を、日常生活の延長(家事手伝い・準備片付け等)として捉え直す工夫を行った。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>多世代が同じ空間で避難体験を共有し、「自分にもできる役割がある」という意識が生まれた。</p> <p>入居者からは「子どもの話し相手ができる」との発言があり、子どもからは「お母さんの手伝いを頑張る」とい</p>

写真・図など



	<p>った声が挙がるなど、支援の双方向性が確認することができた。</p> <p>防災を“特別な行為”ではなく、“日常の延長”として捉える視点が参加者間で共有された。</p> <p>■成果(提供者)</p> <p>指定避難所外の福祉施設で受入訓練を行う際の課題(人的負担・備品不足・運営調整)を具体的に把握することができた。</p> <p>行政(久留米市防災対策課)や社会福祉法人との連携により、実践的な協働モデルを構築。</p> <p>「サークル形式」という心理的ハードルを下げた手法の有効性を確認した。</p>	
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>入居者を抱える福祉施設における訓練は、職員負担や通常サービスとの両立が大きな課題であることが判明。</p> <p>避難所設営用テント等の備品が施設内に整備されていなかった。</p> <p>若い世代の参加拡大が難しい。</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>久留米市防災対策課より避難所テントを借用</p> <p>社会福祉法人拓くより炊出し道具を借用</p> <p>実施前に利用場所・参加人数・段取りを丁寧に調整</p> <p>「訓練」ではなく「サークル活動」として位置付け、心理的ハードルを下げた</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「初級編」と位置付け、難易度を下げた設計 ・ 炊出し=家事手伝い、設営=準備片付けと日常行動に置き換え ・ 少人数で語り合える規模に限定 ・ 役割体験を通して“当事者意識”を醸成 	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>■中間報告時点での残タスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的なサークル活動としてのカリキュラム設計(初級・中級・上級等) ・ 福祉施設での受入基準・運営マニュアル整理 ・ 若年層参加拡大の仕組みづくり <p>■明らかになった課題(制度・人材・運営体制等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉施設における訓練実施時の職員負担の大きさ ・ 指定避難所外施設の物資整備体制不足 ・ 若い世代の時間的制約による参加難 ・ 防災士・防災リーダーの現場経験機会の不足 <p>■今後に向けた計画変更・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サークル認定制度やコンテスト等による参加価値の向上 ・ 防災士・防災リーダー向け実践型プログラムの開発 	

	<ul style="list-style-type: none">・ 校区単位の防災連携モデルとして発展させる・ 指定避難所外施設の活用可能性を地区防災計画に位置付ける
--	--



防災サークル活動

@宮ノ陣町

防災サークル部 第一回 初級編

「防災の経験・知識を普段の生活に活かす」

2026年1月6日(火)

会場 こがケアアベニュー宮ノ陣 福岡県久留米市宮ノ陣4-30-10

受付9:30 開始10:00 終了14:00

【設定】水害・5~10m浸水・近隣周辺家族を収容定員20名を想定

【20名限定/要申込み】

初めての方、気になっていた方などお気軽にご参加（申込み）ください。



こがケアアベニュー宮ノ陣（指定避難所外・福祉施設）ご年輩の方々が安心して暮らせる入居&デイサービスの施設。地域とのつながりイベントを主催されるなど地域密着型の事業所。災害を想定し入居者のいらっしゃる中での訓練を行わせて頂きます。私たちの大切な人の為に近くにあってほしい場所・方法などを訓練から学ぶ活動に快くご協力頂いています。ありがとうございます。

ミッション①「炊出しのお手伝いに挑戦」

災害時の状況の中で、たくさんの人たちのご飯を作るお手伝いをする事で、普段の水・火・電気・食の大切さを学び、災害時の備えの必要さを身近に感じる機会になります。



ミッション②「避難所作りのお手伝いに挑戦」

災害時は多くの人たちが色々な事を手伝っています。自分が出来る事を探したり、協力し合ったり、多くの事を学ぶきっかけになります。




ミッション③「ディスカッションで話し合い」

いのちの大切さや助け合いを考える機会になり、家族の絆や地域コミュニティ役に立ちます。



お問合せ先：担当 権藤デボラ和尊 090-2512-1613

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(山川校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山川校区において、地域の実情を踏まえた地区防災計画の策定に向けたプロセスを構築する ・ 災害時要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児、医療的ケアを必要とする方等)について、把握方法、支援の考え方、避難先確保の方向性を整理する ・ ワークショップ運営を通じて、都市部校区における地区防災計画策定の進め方に関するノウハウを蓄積する
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の生活圏において、どこにどのような災害リスクがあるのかを考え、共有できるようになる ・ 地域にある防災備品やその保管場所、鍵の所在等について、平時から把握する意識を高める ・ 地区防災計画づくりを、行政任せではなく地域全体で考えるものとして捉えるようになる
事業内容① 実施内容 A (実施日:12/16)	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>山川校区において、地区防災計画策定に向けたキックオフとして第 1 回ワークショップを実施した。事業の趣旨や地区防災計画の位置づけを共有した上で、校区内の地理的特徴、過去の災害事例、災害時に想定されるリスクについて意見交換を行った。また、防災備品や避難場所の現状について確認し、今後の検討に向けた論点整理を行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p>地域内の災害リスクや防災体制について改めて認識し、「自分たちの校区の防災をどう考えるか」という共通の問題意識が形成され始めた。地区防災計画づくりへの関心が高まり、継続的な参加意欲が見られた。</p> </div> <div style="flex: 1; text-align: center;"> <p>写真・図など</p>  </div> </div>
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>初回のワークショップでは、参加者の防災に関する知識や経験に差があり、議論が抽象的になりやすい場面が見られた。</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>重ねるハザードマップや具体的な地域事例を用いて話題を具体化し、参加者が自身の生活と結びつけて考えられるよう進行方法を工夫した。</p>
事業内容①を実施する上で工夫した点	<p>既存の地域活動や顔の見える関係性を活かし、参加や発言しやすい雰囲気づくりを重視した。また、専門用語を避け、日常生活の延長として防災を考えられるよう配慮した説明と進行を行った。</p>
事業内容① 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災計画としての具体的な整理には至っておらず、今後、意見を構造化し計画案としてまとめる作業が残っている ・ 災害時要配慮者の把握やマッチング、避難先確保については、個人情報の取扱いや関係機関との連携方法を含めた検討が必要 ・ 医療・福祉・企業等の多主体参画が十分とは言えず、次回以降のワークショップで関与拡大が課題 ・ ワークショップの成果を、避難訓練や日常の地域活動へどのようにつなげていくかについて、具体的な展開方法を検討する必要がある

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(山川校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山川校区において、地域の実情を踏まえた地区防災計画の策定に向けたプロセスを構築する ・ 災害時要配慮者(高齢者、障がい者、乳幼児、医療的ケアを必要とする方等)について、把握方法、支援の考え方、避難先確保の方向性を整理する ・ ワークショップ運営を通じて、都市部校区における地区防災計画策定の進め方に関するノウハウを蓄積する
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の生活圏において、どこにどのような災害リスクがあるのかを考え、共有できるようになる ・ 地域にある防災備品やその保管場所、鍵の所在等について、平時から把握する意識を高める ・ 地区防災計画づくりを、行政任せではなく地域全体で考えるものとして捉えるようになる
事業内容① 実施内容 A B 2025年12月16日(第1回ワークショップ) 2026年1月28日(第2回ワークショップ)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>山川校区において、地区防災計画策定に向けたキックオフとして第1回ワークショップを実施した。事業の趣旨および地区防災計画の位置づけを共有した上で、校区内の地理的特徴、過去の災害事例、災害時に想定されるリスクについて意見交換を行った。あわせて、防災備品や避難場所の現状確認を行い、今後の検討に向けた論点整理を行った。</p> <p>その後、2026年1月28日には、山川校区の関係者とともに、いちょうの杜山川において地区防災計画作成に向けた打ち合わせを実施した。打ち合わせでは、前回ワークショップに参加したメンバーが分担して確認した事項について報告を行い、小学校・中学校・コミュニティセンターにおける備蓄品の所在や管理方法等について情報共有を行った。</p> <p>また、避難所開設時の運用を見据え、鍵の管理方法や開錠者の役割、災害時の連絡体制など、事前に調査・確認した内容をもとに、現状で見えてきた課題を整理することができた。</p> <p>さらに今後に向けては、年2回実施している自主防災活動について、役員以外の住民も含めたより多くの参加につなげる工夫や、地域イベント等の機会を活用しながら防災の取組を具体化していく方向性について意見交換を行った。これまでの検討や確認の蓄積を活かし、地区防災計画に必要な事項を一つずつ実務に落とし込み、次の取組につなげていくことを関係者間で共有する場となった。</p>

写真・図など



	<p>■成果(提供者・参加者)</p> <p>ワークショップおよびその後の打ち合わせを通じて、地域内の災害リスクや防災体制についての理解が深まり、「自分たちの校区の防災を自分たちで考える」という共通の問題意識が醸成された。</p> <p>また、備蓄品管理や避難所運営など、これまで十分に整理されていなかった具体的事項が可視化され、地区防災計画策定に向けた検討が段階的に前進した。継続的な話し合いへの参加意欲も確認でき、計画づくりを進めていくための土台形成につながった。</p>	
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>初回のワークショップでは、参加者の防災に関する知識や経験に差があり、議論が抽象的になりやすい場面が見られた。</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>重ねるハザードマップや具体的な地域事例を用いて話題を具体化し、参加者が自身の生活と結びつけて考えられるよう進行方法を工夫した。</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>既存の地域活動や顔の見える関係性を活かし、参加や発言しやすい雰囲気づくりを重視した。また、専門用語を避け、日常生活の延長として防災を考えられるよう配慮した説明と進行を行った。</p>	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災計画としての具体的な整理には至っておらず、今後、意見を構造化し計画案としてまとめる作業が残っている ・ 災害時要配慮者の把握やマッチング、避難先確保については、個人情報の取扱いや関係機関との連携方法を含めた検討が必要 ・ 医療・福祉・企業等の多主体参画が十分とは言えず、次回以降のワークショップで関与拡大が課題 ・ ワークショップの成果を、避難訓練や日常の地域活動へどのようにつなげていくかについて、具体的な展開方法を検討する必要がある 	

地区防災計画ワークショップ（山川校区）
（久留米市コミュニティ防災教育推進事業）

次 第

日時：2025年12月16日（火）
19：00～20：30
会場：いちょうの杜山川

1. 開会挨拶
2. 自己紹介
3. 地区防災計画の基本解説 ～みんなで作る地区防災計画～
4. 山川校区の災害リスクを考える
5. 今後どのような取り組みが考えられるか？
6. その他

次回：2026年 月 日（ ） : ~ :

場所：いちょうの杜山川

1. 当日はまず、地区防災計画について私から簡単にご説明させていただく予定です。

地区防災計画は計画書を作成すること自体も重要ですが、実際にどのような行動をとるのか、その行動に向けてどのような準備や体制づくりを行うのかを考えていくことが重要である点をお伝えしたいと考えております。計画書そのものについては、必要な情報が揃えばこちら側で一定程度形にすることが可能であるため、皆さまには備蓄品の状況や連絡体制など、地区の実情に関する資料や情報のご提供をお願いできればと存じます。

2. 次に、山川校区の災害リスクを考えるため、「重ねるハザードマップ」を活用しながら、ハザードマップをもとに皆さまと意見交換を行いたいと考えております。

山川校区においては、特に洪水に関するリスクが大きいと想定されるため、その点に注目しながら、どの地域にどのような危険が想定されるのか、また避難にあたって課題となりそうな点などについて、参加者の皆さまと一緒に確認していければと思っております。

3. その後、実際に地区防災計画に基づいた活動として、どのような取り組みが考えられるかについて、こちらからいくつか事例を交えてご提案させていただく予定です。

例えば、12月5日に諏訪中学校で実施したような、クロスロード(今回は水害をテーマ)によるワークショップや、実際に地域を歩きながら危険箇所や気になる点を確認する街歩き、要配慮者のお試し避難などが考えられます。これらの例を参考にしながら、山川校区ではどのような活動が現実的に実施できそうか、また、どのような取り組みから始めるのがよいかについて、皆さまと意見交換ができればと考えております。

地区防災計画ワークショップ（山川校区）

（久留米市コミュニティ防災教育推進事業）

次 第

日時：2026年1月28日（水）
19:00～20:30
会場：いちょうの杜山川

1. 東京海上からのご提案
2. 前回のWSでお願いしていた内容の共有
3. 地区防災計画（素案）を作成するにあたり確認したい事項
 - ・ 現時点で把握されている「災害時要支援者」の情報（おおまかな人数）
 - ・ 山川校区で過去に発生した災害の概要（いつ、どこで、どのような被害があったか）
 - ・ 校区自主防災会などの組織体制（組織図、連絡網、名簿など）
 - ・ 校区内で平時に実施している活動の記録（画像、文書など）
4. その他


次回：2026年 月 日（ ） : ~ :

場所：いちょうの杜山川

山川小学校にある防災備蓄品

名称	数量	保管場所	備考
スケットイレ用便座	1 個	特別活動室	
非常用臭わないトイレセット	100 回分	〃	
アルファ米(五目ご飯)	100 食	〃	50×2
救急セット		〃	
救急カレー	520 食	〃	40×13
扇風機	3 台	〃	
水 500ml	72 本	視聴覚室	24×3
アルファ米(わかめご飯)	100 食	〃	50×2
災害救助用毛布	10 枚	〃	
折畳み式アルミマット	20 枚	〃	10×2

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(西国分校区)		
事業内容①目標 (提供者側)	<p>地区防災計画策定に向けた検討の出発点をつくる 避難所運営に関する課題(要配慮者対応・情報共有・役割分担)を整理し、計画化の論点を抽出する 大学・地域連携による防災教育ノウハウを蓄積する</p>	
事業内容①目標 (参加者側)	<p>地域に潜む災害リスクや避難所運営上の課題に気づく これまでの防災活動を振り返り、今後の備えを考える視点を持つ 多様な避難者(障害者・外国人・車椅子利用者等)への配慮の必要性を理解する</p>	
事業内容① 実施内容 A (実施日:10/28)	<p>避難訓練事前打ち合わせ・資機材体験(西国分校区) (実施日:2025年10月28日)</p> <p>■具体的な取り組み内容 西国分小学校で実施される避難訓練に向け、校区コミュニティセンターにて事前打ち合わせを実施した。 地域住民と久留米大学生 6 名が参加し、ダンボールベッド・パーティションの作成実演を行うとともに、避難訓練の流れや避難所運営の考え方について意見交換を行った。</p> <p>■成果 【参加者側】 身近な資材が防寒やプライバシー確保に有効であることを具体的に理解できた 避難訓練を「行事」ではなく「運営の準備」として捉える視点が共有された</p> <p>【提供者側】 学生参加による体験型防災教育の有効性を確認できた 避難所運営に関する課題を事前に整理する機会となった</p>	—
事業内容① 実施内容 B (実施日:12/6)	<p>避難所体験研修 (実施日:2025年12月6日)</p> <p>■具体的な取り組み内容 西国分小学校(体育館)を会場に、避難所体験研修を実施した。 障害者、外国人、車椅子利用者、車中泊希望者、ペット同行避難者等を想定したケーススタディを用い、グループごとに対応方法や配慮点について議論を行った。また、プライバシー確保、食事配分、情報格差・デマ対応と</p>	<p>写真・図など</p> 

	<p>いった運営上の課題についても検討した。</p> <p>■成果</p> <p>【参加者側】 要配慮者対応や情報伝達の難しさを具体的に理解できた 「公平」よりも「納得感」を重視した運営の重要性に気づいた</p> <p>【提供者側】 地区防災計画に反映すべき具体的論点(人員配置、動線、情報管理等)が明確になった 実践的ケースを用いた研修手法の有効性を確認できた</p>	
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 地区防災計画とのつながりが参加者に十分伝わらず、体験中心の理解に留まる場面があった 人材や役割分担が整理されておらず、対応が属人的になりやすいことが明らかになった</p> <p>■乗り越えた方法 振り返りの中で「計画にどう反映するか」を言語化し、論点整理を行った 次回以降の計画化を前提とした記録を残した</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>西国分まちづくり協議会と合同開催とし、地域行事として位置づけた 学生を運営側に組み込み、地域だけでは出にくい視点を取り入れた</p>	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>地区防災計画としての構成整理・文書化が未着手である 防災人材(住民・学生・関係者)の役割や連携体制の可視化が必要 今後は、抽出した課題をもとに優先順位を整理し、計画案作成へ移行する必要がある</p>	



地域で学ぼう！

令和7年度
西国分校区



防 災 訓 練

～避難所体験研修～

地震や台風などの自然災害が多発しています。避難所ってどんなところ？
もしもの時に、地域のみなさんと一緒に落ち着いて行動できるよう、防災について
楽しく学びませんか？

日時

12月6日 土 10:00～12:00

会場

西国分小学校 体育館

参加費

無料

定員

100名

(事前申し込み制)

対象

西国分校区にお住まいの方

小学生は保護者同伴での参加が必要です。
(未就学のお子さんの見学も可能)
参加者は自治会のブロック分けを行います。
返信用のメールアドレスを必ずご記入ください。
申込み受付後、ブロックをご案内いたします。

親子や
ご家族での
参加大歓迎

お申込は
こちらから



申込締切

11月25日(火)まで

内容

- ※ 久留米大生による防災LINEの使い方レクチャー
- ・ 蓄電池でスマホを充電してみよう
- ・ 段ボールでパーテーションを作ってみよう！
ブロック対抗のコンテストもあるよ☆
- ・ 簡易トイレや段ボールベッドを体験
- ・ 非常食(アルファ化米)体験



持ち物

室内履き・水筒・ハンカチ(タオル)など
体育館は冷えますので、防寒具が必要な方はお持ち下さい(カイロなど)

お問い合わせ・詳細

西国分校区まちづくり委員会

☎0942-33-4529

<https://www.nishikokubu.jp>

毎月様々なイベントを開催しています！



Follow
me



令和7年度西国分校学区避難所体験研修 シナリオ

時間	次第	担当	内容	備考
09:00	スタッフ集合		設営、役割確認	
09:10	地震発生		地震発生 停電、断水、下水管にも被害があり、まもなく流せなくなる可能性あり。道路にも一部被害がある。	
09:11	施設点検	まちづくり委員会 防災士・防災リーダー会 防犯協会 防災リーダー (A班・B班)	西国分小学校の体育館の被災状況を確認する(ガラス飛散、天井・壁崩落の有無等) A班、B班配置についておく	土屋会長 松田会長 和泉田、森山、 内田 防災リーダー A班 (宮川、山村、 中村、大島) 受付B班 (玉置、坂井、 緒方、高田)
09:13	避難所開設	まちづくり委員会 防災士・防災リーダー会 市防災対策課	市役所と協議し、西国分小学校体育館において指定避難所開設決定 ※訓練当日は防災対策課職員にTELして確認する。実際は、市役所側から連絡がくると思われるが、こちらでも準備体制を整えておく。 ※ポータブル電源でのスマホ充電 ※パソコン動作の確認	土屋会長 松田会長 市防災対策課 猪口、野田、 巽、吉田
09:15	本部設置	まちづくり委員会 防災士・防災リーダー会	西国分小学校体育館に指定避難所の本部を設置する。 ※受付体制確認 A班、B班配置についておく	土屋会長 松田会長 受付A班 (宮川、山村、 中村、大島) 受付B班 (玉置、坂井、 緒方、高田)
09:16	避難所開設 連絡 避難所開設 情報 SNS 発信	まちづくり委員会	まちづくり事務局で、本部→各ブロック長へ(LINEで連絡) まちづくり事務局で、本部→SNS 西国分校学区公式LINE&Instagramにて、 訓練とわかる形で、避難所開設情報を送信 避難所開設情報を訓練とわかる形で連絡 「(例)これは訓練です。地震により被災された方々のために、西国分小学校体育館に自主避難所が開設されました。来所の際は周囲の状況に十分注意してください。」 ※タブレット使用 ※マンションのユーハイム自治会へも連絡	野田、巽、吉田

09:20	避難所開設 確認	まちづくり委員会	まちづくり事務局で、各ブロック長→本部 (LINE で連絡) 避難所開設情報確認の返信 「(例)指定避難所開設情報を確認しまし た」 ※本来はブロック長が日常のグループ LINE などを使用しブロック内の自治会長 等にさらに周知することを想定 ※ユーハイムのみ 10 時訓練開始なので、 時間を遅らせて共有	野田⇄ ブロック長
09:30 ～	受付開設 避難者受付	まちづくり委員会 防災士・防災リーダー会	9：30～受付を開始してよい。	箕、吉田 受付 A 班 (宮川、山村、 中村、大島) 受付 B 班 (玉置、坂井、 緒方、高田)
10:00	避難者受付	まちづくり委員会 防災士・防災リーダー会	※受付をする前に体育館入り口前でまず検 温、手指消毒後入館 受付開始、名簿記入、資料配布、案内開始 ※受付にあるパソコンなどは、ポータブル 電源&太陽光パネルで(雨天の場合は展示 のみ)	箕、吉田 受付 A 班 (宮川、山村、 中村、大島) 受付 B 班 (玉置、坂井、 緒方、高田)
	避難者案内	まちづくり委員会 防災士・防災リーダー会 ブロック長	避難者体育館内各場所に集合 受付した避難者を各ブロックへ配置させる	
		司会者(野田)	※受付した避難者がそれぞれのブロックに ついたので受付確認して みなさん、おはようございます。 本日はお集まりいただき、ありがとうございます。 ただいまより令和7年度西国分校区防災訓 練を開催いたします。 始めさせていただく前に、本日は訓練の様 子などを記録に残すために、久留米大の学 生さんとまちづくり委員会の事務局員が写 真撮影をいたします。SNS などにも UP 致しますので、ご都合の悪い方はスタッフ までお知らせください。 では、まずはじめに、西国分校区まちづく り委員会 土屋会長、ごあいさつをお願い いたします。	
10:10	開会あいさつ	まちづくり委員会 土屋会長	(挨拶) ※スタンドマイクで。	
		司会者(野田)	つづきまして、防災士、防災リーダー会 松田会長、ごあいさつをお願いいたしま す。	

10:13	開会あいさつ	防災士・防災リーダー会 松田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・防災体験研修のねらい ・避難所のレイアウトとその趣旨の説明などを説明してもらう 	
		司会者（野田）	<p>ありがとうございました。 それでは、内容のほうを進めていきたいと思えます。 本日の研修内容の説明を松田会長よりお願いいたします。</p>	
10:20	研修実施内容の説明	防災士・防災リーダー会 松田会長 久留米大学生 竹之下さん まちづくり委員会 猪口さんが近藤さん	<ul style="list-style-type: none"> ・ポータブル電源と太陽光パネルの説明：「今回、太陽光発電とセットになったポータブル電源を設置しています。スマホの充電をしたい方は、活用して下さい。」 ●ブロック内担当（物資・備品管理、保健・衛生等）の説明：「ブロック単位でそれぞれ物資・備品管理の担当者と保健・衛生の担当者を決めてもらいます。各ブロック長さんの進行をお願いします。役割を説明します。物資・備品管理担当者は、支援物資や備品について、意見をまとめて実行する役割をします。保健・衛生担当者は、病人や怪我人への対応、トイレなどの衛生面の意見をまとめて実行する役割をします。担当になった方は役割が表示されているピスを着用してください。」 ※時間の関係で、あらかじめ担当者を誰にするか決めておくスムーズです。決まらない場合、ブロック長が担当者の役割を担うこともあります。 ・災害時の情報発信の在り方：「今回の訓練では、災害時の情報発信の在り方についても訓練しています。西国分公式 LINE や Instagram でも情報発信をしています。本日受付でお渡ししている資料を見ただき、見方が分からない場合は、学生ボランティアや運営スタッフに声をかけて下さい。」 	蓄電池 猪口さんが近藤さん
		司会者（野田）	つづきまして、ミッション①に入ります。松田会長ご説明をお願いいたします。	
10:25	ミッション①課題の説明	防災士・防災リーダー会 松田会長 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者：藤田さん ⇒1ブロックへ ・外国人：久留米大学生 ⇒2ブロックへ ・車いす：久留米大学生 ⇒3ブロックへ ・車中泊希望者：久留米大学生 ⇒4ブロックへ ・ペット同伴の避難希望者：久留米大学生 ⇒5ブロックへ 	本部から全体 「まもなくそれぞれ課題がある避難者（or 避難者役）が6名現れます。運営の安全誘導担当と各ブロックの保健・衛生担当は準備をお願いします」 「課題のある避難者は各ブロックに1人と福祉避難コーナーに1人います。受け入れ方の検討をお願いします。」 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難コーナー：怪我人 ・ブロック：①障がい者、②外国人、③車いす、④車中泊希望者、⑤ペット同伴の避難希望者 ※運営側には、事前に課題を共有	事務局員で ミッション回答のボードを配布 車中泊希望者とペット同伴希望者へピスを渡す

		司会者（野田）	けがをされた方が出たようです！ ・最初に怪我人到着 ※全体で 「避難所にいる避難者が転倒し、腕を骨折しました。病院に行く前に、福祉避難コーナー②で対応をお願いします。各ブロックの参加者は担架搬送と三角巾の措置についての実演がありますので福祉避難コーナー②にお集まりください。」	
10:26	ミッション① 実行 担架搬送 止血、三角巾 実演	消防第7分団 （出田分団長、原団員、 元山団員） まちづくり委員会副会長 白水 女性防火クラブ （岡、栗林、三原、野 口、鬼木、江藤、中村）	怪我人：安全誘導担当（特に消防団員） によって担架で福祉避難コーナーへ 受け入れ後に怪我人はあらかじめ設置され ている段ボールベッドに横になる。安全誘 導担当（消防団と女性防火クラブ）によっ て担架と三角巾などの指導を受ける。 ※消防団は棒と毛布で簡易担架の制作 実演。 ※白水副会長、女性防火クラブで止血、三 角巾の仕方を実演。	毛布、棒2本、 担架
		司会者（野田） or 防災士・防災リーダー 会 松田会長	それでは各ブロックにお戻りください。 先ほどのそれぞれ①障害者、②外国人、③ 車いす、④車中泊希望者、⑤ペット同伴の 避難希望者をブロックで受入れていただき ます。 受け入れ方について、受け入れた後の対応も 含めて話し合ってください。10:40 までを 一つの区切りとします。 話し合った内容については後ほど 11:30 頃に各ブロックの保健・衛生担当者の方に 1分程度で発表していただきます。保健・ 衛生担当者は、あらかじめ発表する内容を 考えておいて下さい。お願いします。	※福祉避難コー ナーにあった段 ボールベッド は、段ボールベ ッドのないブロ ックの区画に移 動(5個しかない ため当初未配置)
		司会者（野田）	つづきまして、子ども達の順番です。 段ボールパーティション作りをしたいと思います。 ブロック単位でのコンテスト形式です。 仲良く作成してくださいね。 それでは説明を久留米大の方をお願いします。	
10:40	段ボールパー ティションコ ンテスト説明	久留米大学生 (担当：福井・石塚)	段ボールパーティションコンテスト説明 「それではただ今から段ボールパーティ ションコンテストについての説明をします。 パーティションとは避難所でプライバシー を保つための扉、仕切りのことです。これ らの段ボールを利用して子どもさんを中心	スクリーンと プロジェクター を準備

			<p>に大人は支援する立場で一緒になって組み立ててもらいます。そして飾りつけに絵をかいてもらって、出来栄をブロック単位で競うものです。</p> <p>審査員4名が、プライバシーが確保できるかどうか、強度があるかどうか、デザイン性で評価します。優勝ブロックには、お菓子の入った防災グッズをプレゼントします。段ボールパーティションのサンプルは中央においています。同じ形でなくていいですよ。それでは今から30分間の11:10までをお願いします。道具は各ブロックの机の上に置いています。はい、始めてください。</p>	<p>※親子中心ですが、みんなで参加</p> <p>※離脱して他のコーナーに行くことを妨げない。</p>
		司会者（野田）	<p>段ボールパーティションづくり、頑張ってくださいね。</p> <p>パーティション作りの途中ですが、他のコーナーも紹介させていただきます。簡易トイレがトイレ前にあります。段ボールベッドについては、各ブロックに既製品と学生ボランティアが作成したベッドがございます。それぞれご覧いただき、体験して下さい。</p> <p>※保健・衛生担当と学生ボランティアからも、パーティションづくりに参加していない方に体験を促す。</p> <p>説明は久留米大の学生さんをお願いします。</p>	
10:50	簡易トイレ・テント・ベッドの説明	(担当：大坂)	簡易トイレ・テント・ベッドの説明	
11:10	パーティション作り終了	<p>司会者（野田）</p> <p>※審査員4名(土屋会長、荒木会長、市防災対策課、久留米大学生)</p>	<p>説明ありがとうございました。</p> <p>パーティション作りをストップして下さい。今の状態をこれから審査員が審査します。</p> <p>※ミッション②実施の時間中に審査員が審査</p>	審査用紙（バインダー）の準備
		司会者（野田）	ミッション②を行いますので、皆さんそれぞれのブロックにお戻りください。	
11:11	ミッション②実施	防災士・防災リーダー会 松田会長	<p>ミッション②</p> <p>「支援物資として非常食が50個分届きました。現時点で避難してきた方は、100名います。また、自主避難所を選択したユース・ハイム自治会からも支援物資分配の申し出がございます。各ブロックで、物資・備品管理担当者を中心に話し合っ、この50個おにぎりをどう分配するか話し合ってください。」</p>	

			「15分後の11:25から壇上でミッション①の発表を保健・衛生担当者にしていただきますが、引き続きこのミッション②について物資・備品管理担当者に発表してもらいます。それぞれ1分程度、両方合わせて2分程度でお願いします。」	
11:25	ミッション①②発表 (担当：松田会長)	防災士・防災リーダー会 松田会長 司会者（野田）	各ブロックの保健・衛生担当者と物資・備品管理担当者が発表 「1ブロック2分以内で発表して下さい」 残り時間内で松田会長がコメント 最後に「より詳しいそれぞれの課題に関する説明は、補足資料を配布物の中に設置しています。」 最後に、より詳しいそれぞれの課題に関する説明は、補足資料を配布物の中に設置しています。	
11:40	非常食の配布・分配 (担当：松田会長)	司会者（野田）	それでは物資・備品管理担当者に物資を配布したいと思います。 受付まで取りに来られて下さい。	※ユーハイムの担当者も受け取りに来る。 (指定避難所と自主避難所の連携訓練を兼ねている。)
		司会者（野田）	それではまとめに入ります。 段ボールパーテーションコンテストの結果もでたようです。 松田会長、お願いいたします。	
11:45	まとめ	防災士・防災リーダー会 松田会長 久留米大学生 (担当：福井・石隈)	では段ボールパーテーションコンテスト結果発表です。 優勝は、Oブロックです！ (ここでの言い回しは臨機応変に) 学生よりプレゼント贈呈してもらおう。 振り返り、アンケートの案内、閉会	優勝：青リュック 以下はくるっばの白い袋
12:00	閉会		※アンケート回答（学生ボランティアのサポートあり、特に子どもに）	
		司会者（野田）	アンケートに答えていただき、退館となります。 お忘れ物がないようお願いします。 お帰りの際はお茶等も配布しておりますので、お持ち帰り下さい。	※13:00から体育館を別の団体が使用するのですみやかに撤収。

□避難所体験研修における課題関連資料

<ミッション関連ケース>

ミッションケース①：障害者とのコミュニケーション

- ・ 避難者：当事者です。麻痺があり、動きにくく、話にくそうに見えます。人によっては、声が聞き取りにくいと言う人もいます。一人でなんでもされる方です。できる範囲内でボランティア活動を熱心にされています。避難所でも役に立ちたいと思っておられます。
- ・ 状況：障害者のことがまだ理解できてなくて、どう対応してよいのかわからない状況です。しかし、本人は、世話をしてもらうよりは、役に立ちたいと思っています。どこまでお願いしてよいの定かでない状況です。
- ・ 課題：長期になるほど「孤立感」「役割喪失感」が増す可能性あり。情報伝達が「揭示中心」の避難所で、気づいてもらえないケースもある。
- ・ 話し合いのポイント：
 - 障害について理解する
 - 「出来ること」と「出来ないこと」の境界線、「お願いできること」と「お願いできないこと」の境界線の確認
 - 精神的負担への配慮
- ・ グループの意見・対応案：
 - 障害者に理解がある住民がサポート役になる。
 - 障害を理解し上で、上記の境界線は丁寧に説明する。

ミッションケース②：外国人避難者とのコミュニケーション

- ・ 避難者役：担当者は、徹底して日本語が分からないふりをします。また、日本語を徹底して話しません。
- ・ 状況：外国人の避難者が数名おり、日本語が話せません。避難所のルールや物資の配布方法がうまく伝わらず、混乱が生じています。
- ・ 課題：言葉や文化の違いがある中で、どうやって円滑な避難所運営を行うか。地域としてどんな備えができるか。
- ・ 話し合いのポイント：
 - 翻訳や通訳の工夫は？
 - 多文化共生の意識づけは？
- ・ グループの意見・対応案：
 - 翻訳アプリや簡易な多言語掲示物を活用。
 - 英語や他言語が話せる住民がサポート役になる。
 - 文化的背景を尊重し、ルール説明は丁寧に行う。

ミッションケース③：車椅子の避難者とのコミュニケーション

- 避難者役：担当者は、車椅子でないとは移動できない想定です。トイレも介助が必要
- 状況：体育館床が滑りやすい、マットや養生材で車椅子が引っかかる。
- 課題：トイレ・洗面への動線が長く、疲労や危険が増える。
- 話し合いのポイント：
 - 家族以外が介助する場合のサポート体制
 - 入口に近い場所・トイレに近い場所を確保できるか。
 - 通路幅（90cm以上）が確保できるか。
 - 一次避難所に留めるか、早期に福祉避難所へ移すか。
- グループの意見・対応案：
 - 動線をテープなどで明示し、荷物を置かないルール化。
 - 車椅子が回転できるスペース（直径150cm程度）を確保。
 - 簡易トイレとポータブルトイレを設置し、カーテンで仕切る。

ミッションケース④：車中泊希望者の避難者とのコミュニケーション

- 避難者役：担当者は、人が多いところが苦手で、さらに、家が倒壊したので、建物中にいると恐怖を感じる。車で避難してきて指定避難所近くの車中泊を強く望んでる。
- 状況：避難者は、日中は、支援物資と受け取りと情報収集の為に避難所内に少しだけ来る。自分だけ情報が来ていない、支援物資がもらえなかったと不満を持っている。
- 課題：車中泊者の健康被害。ドアの開閉音やエンジン音で周囲に迷惑をかける。
- 話し合いのポイント：
 - 車中泊専用の避難所を案内するかどうか
 - 協定によって久留米市内の大学の駐車場が開設される可能性あり
※災害規模によって決まるので、すべて開設されるかどうかは定かではない。今回は、久留米大学の駐車場が車中泊専用駐車場になっている想定で話し合ってください。
 - 名簿登録を促す方法
 - 車両位置の管理
 - 支援物資分配のルール
- グループの意見・対応案：
 - 避難所受付で「車中泊希望者」も必ず名簿登録
 - 車ナンバーと駐車位置を管理
 - 巡回スタッフを配置して声かけ。
 - 情報を掲示板・放送・SNSで多層的に伝える。

ミッションケース⑤：ペットの受け入れと衛生問題

- 避難者役： 盲導犬や介護犬ではないペットと一緒に避難してきた家族のケース。普通のペットだけど、避難者役は、「家族なので、一緒にいたい」と強引に主張します。
- 過去の事例：ある避難者が犬を連れて避難してきましたが、他の避難者から「吠える音がうるさい」「毛が気になる」と苦情が出ています。避難所にはペット用スペースがありません。
- 課題：ペットと避難する人の権利と、他の避難者の安心・衛生をどう両立させるか。
- 話し合いのポイント：
 - ペット用スペースの確保方法は？
 - 飼い主の責任範囲は？
- グループの意見・対応案：
 - ペット連れの避難者には別室や屋外の一角などを一時的に確保。
 - 他の避難者には事情を説明し、理解を求める。
 - ペットの管理（鳴き声、排泄など）は飼い主の責任で徹底。
 - ペット同伴避難所の案内
※災害が起こったらすべて開設される訳ではない。今回は、1が開設されている想定で案内して下さい。
 1. サイクルファミリーパークわんぱく童夢館
 2. 久留米ふれあい農業公園
 3. 西部地区体育館

<企画関連ケース>

ケースA：プライバシーの確保と配慮

- 状況：避難所では多くの人が体育館などの広い空間で雑魚寝状態になります。ある高齢者が「人目が気になるので、仕切りが欲しい」と訴えていますが、仕切りの数には限りがあります。
- 課題：どのようにプライバシーを確保し、誰に優先的に仕切りを提供すべきか、住民同士でどう話し合うべきか。
- 話し合いのポイント：
 - 配慮が必要な人の基準は？
 - 仕切りが足りない場合の代替案は？
- グループの意見・対応案：
 - 仕切りは高齢者、乳幼児連れ、障害者など「特に配慮が必要な人」に優先的に提供。
 - 残りは希望者同士で話し合い、譲り合いの精神で調整。
 - 仕切りがない人には毛布や段ボールなどで簡易的な工夫を促す。

ケースB：食事の配分とアレルギー対応

- ・ 状況：炊き出してカレーが提供されましたが、ある子どもが「アレルギーで食べられない」と言っています。代替食は限られており、他にも「カレーが苦手」という人がいます。
- ・ 課題：限られた食料をどう公平に配分するか。配布の方法が曖昧で「受け取れていない人」「複数回受け取る人」が出た。アレルギーや嗜好への対応はどこまで可能か。
- ・ 話し合いのポイント：
 - 公平より納得してもらえる分配
 - アレルギーと嗜好の違いをどう扱う？
 - 代替食の優先順位は？
- ・ グループの意見・対応案：
 - 高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児を優先
 - チケット制
 - アレルギーのある人には代替食を優先的に提供。
 - 嗜好による拒否は原則対応しないが、可能な範囲で配慮。
 - 食事前にアレルギー表示や注意喚起を行い、自己申告を促す。

ケースC：情報格差とデマの拡散

- ・ 状況：避難所内で「〇〇地区のダムが決壊したらしい」「支援物資がもう来ないらしい」といった未確認情報が飛び交い、不安が広がっています。一部の人はSNSで情報を得ており、他の人は携帯が使えず情報が入ってきません。
- ・ 課題：情報の正確性をどう確認し、避難所内でどのように共有すべきか。情報弱者への配慮はどうか。
- ・ 話し合いのポイント：
 - 情報源の信頼性をどう判断する？
 - 情報弱者への伝達方法は？
- ・ 対応例
 - 情報は自治体職員や避難所運営者が「公式情報」として定期的に掲示・放送。
 - SNS情報は「未確認」として扱い、拡散を控えるよう呼びかけ。
 - 情報弱者には紙の掲示や口頭での伝達を工夫。

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(竹野校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>地域主導の地区防災計画作成に向けた対話型ワークショップ運営ノウハウの蓄積</p> <p>住民主体の継続的防災活動推進の手法を検証・整理</p> <p>災害経験をもとにした地域課題の抽出と議論のファシリテーション技術を向上</p>
事業内容①目標 (参加者側)	<p>自分たちの地域で起こり得る災害やリスクを把握し、地域防災計画策定への関心を高める</p> <p>避難行動や連携体制について話し合い、住民間の共通認識を深める</p> <p>地域の交流・協力の重要性を理解し、日常的なコミュニケーションの必要性を実感する</p>
事業内容① 実施内容 A (実施日:10/24)	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>(実施日:2025年10月24日)</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>竹野校区コミュニティセンターにおいて「第1回竹野校区コミュニティ防災推進会議」を開催。</p> <p>九州大学杉山先生による地区防災計画の基礎解説</p> <p>まちづくり振興会矢野副会長からの過去の防災活動振り返り</p> <p>河川氾濫リスクや今年8月の豪雨時の対応状況を踏まえた課題共有</p> <p>住民間での災害時コミュニケーションの仕組みについて議論</p> <p>コミュニティセンターを活用した日常的な防災対話の重要性の共有</p> <p>会議後の懇親会による交流促進</p> <p>■成果(提供者/参加者)</p> <p>【提供者側】</p> <p>地域主体の防災計画づくりに向けたファシリテーション手法を確認</p> <p>災害対応課題の抽出や議論の進行方法に関するノウハウを蓄積</p> <p>【参加者側】</p> <p>災害リスクや避難行動に関する共通認識を形成</p> <p>地域内のコミュニケーションや協力の重要性を理解</p> <p>将来的な防災計画作成に向けた主体的参加意欲を醸成</p> </div> <div style="flex: 1; vertical-align: top;"> <p>写真・図など</p>     </div> </div>
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>過去の災害体験に基づく具体的事例が少なく、議論が抽象的になりやすい</p> <p>議論時間が限られ、全員の意見を十分に聞き取ることが難しい場面があった</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>河川氾濫リスクマップや豪雨時の対応表を用いて、参加者が災害を想像しやすい工夫を実施</p> <p>小グループ討議を組み合わせ、発言機会を確保</p>

事業内容①を実施する上で工夫した点	災害対応だけでなく、地域の日常活動や交流との関連を意識して議論を設計 会議後に懇親会を設け、住民間のつながりを強化
事業内容① 残課題等	災害時対応のシナリオをより具体化し、次回以降の議論に活かす必要がある 参加者全員の意見を反映できる記録・共有方法の整備 継続的に地区防災計画を更新する体制の構築 制度面や人材確保、運営体制の整備

第1回竹野校区コミュニティ防災推進会議

10月24日(金曜日)・18:30~20:00

久留米市 竹野校区コミュニティセンター／久留米市田主...

○概要＝地域主導での地域防災計画づくりのためのワークショップ

○参加団体＝竹野校区まちづくり振興会、久留米市コミュニティ防災教育推進協議会、久留米市社会福祉協議会

○タイムテーブル

18:30～開会の挨拶 竹野校区まちづくり振興会会長
中村誠治 3分

18:33～久留米コミュニティ防災教育推進協議会会長
馬場敦子 3分 会の趣旨、スケジュールの説明

18:38～全員の自己紹介 5分

18:43～九州大学杉山先生 地域防災の基礎解説 5分

18:48～これまでの防災活動の振り返り 竹野校区自主
防災会会長 矢野井史 15分

19:03～取水期を振り返り感じた現状の課題の共有 三
明寺区自治会長 吉岡秀蔵 10分

19:13～

富本区自治会長 宮崎利清 10分

19:23～1年間の三明寺地区への伴奏での気づきの共有
YNF吉田 5分

19:28～書き出した「取り組み」と「課題」をもとに意
見交換 20分

19:48～次回の目標調整
5分

19:53～まとめ・閉会の挨拶 竹野校区まちづくり振興
会副会長 矢野井史 5分

アンケート調査
大雨被害での避難行動
令和七年八月十日

特別区自主防衛隊による「緊急避難」
令和七年8月10日大雨被害での避難行動アンケート調査

※アンケート調査は、8月10日～11日の大雨被害での避難行動について、避難した方の避難行動や、避難しなかった方の避難行動について、アンケート調査を行いました。以下のアンケート調査の結果を公表いたします。

1. 避難指示が発令された事を知っていましたか？
 知っていた 知らなかった

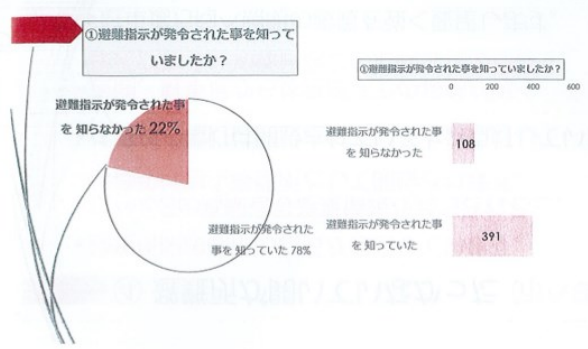
2. 8月10日～11日にかけて避難されましたか？
 避難した 避難しなかった

3. 避難された際の避難先を教えてください。
 自宅の2階 自治会施設 防災倉庫 避難所 その他

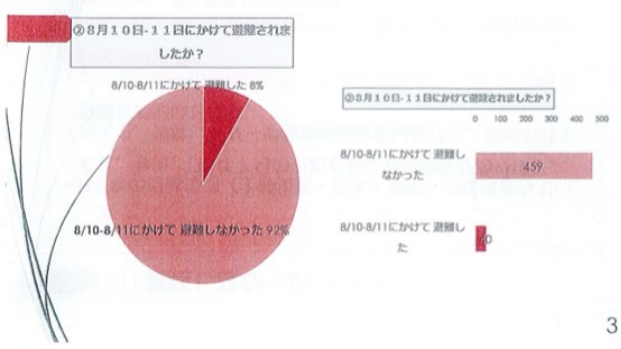
4. 避難しなかった理由を教えてください。
 大丈夫だと思うから 避難しなくて良いと判断したから 避難所までの移動手段がないから 夜間だったので その他

5. ご協力ありがとうございました。その他、ご意見やご感想がありましたらこちらにお書き下さい。

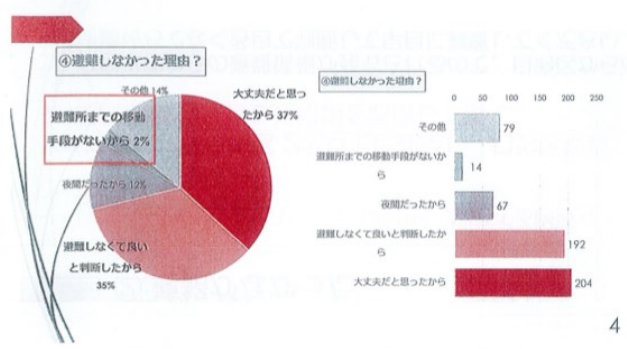
1



2



3



4

- ① 避難しなかった・・・
- 山側と川側では、避難の対応が変わるとおもいます。共通するのは、雨が止んだあとにも留意してください。
 - R7年の自然災害（土砂災害・洪水・地震）の状況をみていくと、今後、R5年7月の災害を超える可能性があります。
 - 各人で、雨雲レーダーや積算降雨量を見ながら、早めの自主避難をお願いします。
 - また、久留米市東部に位置する田主丸町は、うきは市の情報収集も必要です。
 - 巨瀬川の水位には警戒が必要です。巨瀬川上流にある藤波ダムの放流時は、特に留意してください。

5

- ② 連絡がなかった・・・（改善点1）
- 自治会長さんが対応できない状況を、想定する必要があります。
 - 今後は、各自治区2名以上に連絡し、自治区担当者で情報を共有し連絡網を活用して頂く。
 - 久留米市からの避難情報が発令されるので、自治区からの連絡待ちでなく各自で判断して早目に避難してください。

6

- ③ 夜間、雨の中での避難・・・
- 避難することの方が危険・無理だと判断したら、身を守る行動を行ってください。
 - 例えば、山と反対側、二階以上、隣り近所へ避難しましょう。
 - また、親戚や知人と状況の連絡を取り合しましょう

7

- ④ 避難所が開いていなかった（市へ要望1）
- 避難所開設は市の職員が担当しています。
 - レベル3の高齢者等避難情報が発令されると、体育館は自主避難所として開設されます。
 - 体育館の電灯は開設されているとき点灯しています。
 - 夜間、駐車場から体育館までの移動が暗く、また段差があるため転倒などの危険性があります。
 - 駐車場方向へ照明の設置を強く要望します。

8

⑤ 要支援者への支援（高齢者を含む）

- 各自治区、改めて要支援者への対応を検討する必要があります。
- 民生委員、自治会長、支援者さんと呼びかけや避難行動支援の確認をお願いします。

9

⑥ 独自避難所（竹野小学校体育館は不安）（市へ要望2）

- 西郷公民館以外はレッドゾーンまたはイエローゾーンの土砂災害警戒区域に指定されています。
- 台風などの1次的避難所としての利用は可能です。
- 今日の異常気象が発生している状況を考えると、新たな避難所が必要です。
- 久久線とお鷹の道の間で避難所の設置を検討していく必要があります。
- また、竹野小学校体育館の避難所に避難希望者全員は難しいと考えます。
- 親戚や知人の家、旅館やホテルのなどへの分散避難をお願いします。

10

⑦ 自主避難・・・

- 避難の連絡を待っての避難では状況が悪化している可能性があります。
- 各自で久留米市からの避難情報を収集して、早めの避難をお願いします。
- 携帯電話をお持ちの方は安心メールやLINE等を登録していただくをお願いします。
- 安心メールやLINE等の登録については、竹野校区コミセンでも行っています。ご相談下さい。

11

⑧ ペットとの避難・・・

- 久留米市が開設しているペットとの避難場所は、近くでは農業公園があります。
- 草野・山本地区を通りますので、早目の避難をお願いします。

12

⑨ その他

- 避難所である竹野小学校体育館は、照明・冷暖房の自家発電設備があります。
- 大雨と雷の音で聞き取りにくい場合があります。
- このような時は、避難などの連絡とと考えていただき、テレビやLINEでの情報確認をお願いします。
- R7.8.10の避難状況は、アンケート結果の2・3をご覧ください。
- なお、竹野小学校体育館は8世帯11名、ゆうかり学園は1世帯2人の方が避難されました。
- 大雨で動揺しているなか、防災隣組班長さんから連絡があり、心が和みました。

13

■ アンケート結果から見てきたこと（1/2）

- 各自治会長さん、隣組長・班長さんご協力ありがとうございました。また、緊急の依頼にもかかわらず、75.7%の回答をいただきありがとうございました。
- まず、皆さんの防災への意識が高いことがわかりました。しかしながら、意識と認識及び避難行動には、相違いがあることが見て取れます。
- 具体例の一つに、各自の情報をつかむ対策が求められます。そこで、各自治区ごとに、説明会が必要であると考えます。
- 内容はR7.8.10のアンケート結果説明と今後の校区や自治区ごとの自主防災の取組についてです。
- 併せて、避難行動要支援者への対応について確認していくことが求められます。

14

■ アンケート結果から見てきたこと（2/2）

- 一方、市への要望については早急に提出していく必要があります。（夜間照明、避難先の新設）併せて、校区自主防災の短期・中期ランニングプランを検討する必要があります。
- 地震災害への対応も具体的に検討していく必要があります。
- また、避難所での困りごとの整理も必要です。
- さらに、竹野校区の5年後を想定した、高齢化等への対策も求められます。

15

今後の取組

- 各自治区での説明会（12月11日～）
+ 校区安心メールの登録
- 避難行動要支援者への対応
+ 各自の避難行動計画の作成
- 各自治区ごとの防災組織の構築
+ 防災・減災・避難訓練の実施

16

(質問5) 意見や感想等・・・ (分類別一覧)

■ 避難しなかった。(大丈夫と思った、自宅の方が安全)
<ul style="list-style-type: none"> ● 2年前の時も家までは来なかったので大丈夫と思ったから ● 家の横を流れる谷の水の増水量が丈夫と判断したから ● 自宅のほうが安全と思うことが多い ● 自分の地域が雨よりもミナリの方がひどくて避難する程ではないと判断した。防災グループ(自治区)の活動の在り方が難しいですね。 ● 大雨水害の場合は、避難するより、自宅2階の方が安全と思います。 ● 避難しなかった理由として、避難所は山間にあるため自宅の方が安全だと考えたから。土砂崩れが心配です。 ● 防災マップを確認して、自宅が安全だと判断しました ● 令和5年の大雨災害を基準に考えて行動しています。 ● 1時間ほどおさまるようだったので避難しませんでした。夜間の雨は決断が難しい ○ 避難場所が悪い。(途中の道が悪い) この方が安心。
△ 山間と川側では、避難の対応が変わるとおもいます。共通するのは、雨が止んだあとにも留意してください。7月の自然災害(土砂災害・洪水・地震)の状況を見ていくと、今後、05年の災害を超える可能性があります。各人で、雨量レーダーや積算降雨量を見ながら、早めの自主避難をお願いします。また、久留米市東部に位置する田主丸町は、うきは市の情報収集も必要です。巨勢川の水位に警戒が必要です。巨勢川上流にある藤波ダムの放流時は、特に留意してください。
■ 連絡がなかった。(連絡網)
<ul style="list-style-type: none"> ● TVやケータイを確認しながら過ごしていた時、会話の中で防災連絡網で連絡があるかと思っていたが、無かったことで練習しても活用できなかった。連絡網の意味は無いのでは・・・ ● “避難指示が発令されたことを知ったのは娘の携帯に久留米市からの連絡が入り知りました。竹野校区の連絡網はありませんでした” ● 連絡網からの指示はなかった ● 避難指示が発令されたにもかかわらず地区の連絡がなかったことをとても疑問に思いました何のためのものか！！早めの準備、早めの行動を意識し指示待ちではなく自主的に心をけます” ○ 警戒レベル4発令時では雷のみがひどく雨は降ってなかったものの災害経験有りのため一旦避難しましたが周りの家はどこも在宅のようでも避難場所の体育館は電気がついておらずまた防災の連絡網の電話がかかってこなかったということもあり大丈夫なのでは、様子を見ようと思ひ帰宅しました ○ “久留米市からの避難指示のあと体育館が開いてなかった。地域の連絡網からも何も指示がないため迷いました”
△ 自治会長が対応できない状況を想定する必要があります。今後は、各自自治区2名以上に連絡し、自治区担当者で情報を共有し連絡網を活用して頂く。また、久留米市からの避難情報が発令されますので、自治区からの連絡待ちでなく各自で判断して早目に避難してください。(改善点D)
■ 夜間の雨の中の避難。(避難所までの安全)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 自宅のほうが安全と思うことが多い ● ペットがいる避難はできにくい・避難所に行くまでに危険な場所を通らなくてはいけない 以上の為に避難はしていない ● 暗くなってからの避難は危険だと感じたので自宅に居ることを選びました ● 避難指示が発令された後、実際どれ程の雨量が降っているのか私自身が感じる事が必要でした。何故なら「山しお」直接的理由は降雨量で「警戒レベル4」の意味が具体的に理解出来なからです。それから水平避難はしたくない。 ● “避難所まで行く道のりが山からの水で冠水しているところや、雨風でかえって危ないと思う。” ○ 避難場所が悪い。(途中の道が悪い) この方が安心。
△ 避難することの方が危険・無理だと判断したら、身を守る行動を行ってください。例えば、山と反対側、二階以上、降り近所へ避難しましょう。また、親戚や知人と状況の連絡をとり合いましょう。
2025/12/12 PAGE1
■ ペットとの避難
<ul style="list-style-type: none"> ○ ペットがいる避難はできにくい・避難所に行くまでに危険な場所を通らなくてはいけない 以上の為に避難はしていない ● ペット(犬)を飼っている家庭は、どのように(どこに)避難をしたら良いのでしょうか。 ● 今回のことでもっと自分から動いていくことを感じました △ 久留米市が開示しているペットの避難場所は、近くでは農業公園があります。草野・山本地区へ通りますので、早目の避難をお願いします。
△ その他
<ul style="list-style-type: none"> ● 今まで床上50cmも入るなんて50年ぶりです。車も4台水没しました。 ● 大雨すぎて避難するのも困難な場合もある ● 大雨で土砂災害避難するような状況になったのは、福岡県の砂防ダム工事の道路のつくり方が悪いからである。 ● 大雨で動揺している状況で防災係組班長さんより避難報告があり心が和み行動を行いました ● 地域での研修会があったのに参加して必要性を感じました ● 特に意見ありません。世話人の皆様お疲れ様でした。防災リュックセット(33点)備えています(夫帰休) ● 避難された人数等を教えてください ● 避難指示が出たら自分の家庭は守りたいと思います ● 避難所が停電になったら発電機とかはあるのか ● 夫：仕事(朝倉市)、妻：子：母者中(山口県) ● 防災に関して日頃より色々お話しです。実は私、今班長としてアンケートをいただいて集めなくてはいけませんけど、留守の方など戻られて何回か行かなくてはいいんですけど、もう少し日付に余裕をもってください。お願いします。防災は大変大事なことですから、これからは関心を持って気をつけていきたいと思ひます。 ● 当自出かけている市からの避難情報があったので近くの娘の家に避難しました ● もう少し早く避難指示を出してほしかった ● できるだけ早めの避難指示をお願いします ● 外からマイクで災害に関する呼びかけがされていたようですが大きな雨音でかき消され何を伝えているのかわかりませんでした ● ジュモレーションしてレベル3で避難することにしていたが10日夜8時40分に避難指示がでた ● 2項以降は知っていた方の質問
△ 避難所である竹野小学校体育館は、照明・冷暖房の自家発電設備があります。大雨と雷の音で聞き取りにくい場合があります。このような時は、避難などの連絡と考慮いただき、テレビや1階での情報確認をお願いします。また、10の避難状況は、アンケート結果の2、3をご確認ください。なお、竹野小学校体育館、8階半11名、ゆかり学園1階半2人です。大雨で動揺している中、防災係組班長さんから連絡があり、心がなりました。

■ 避難所が開いていなかった。(電気がついていなかった)
<ul style="list-style-type: none"> ● 雨の中、大雨に対する作業中に緊急連絡メールあり。警戒レベル3高齢者等避難開始と思ひ、雨の中作業継続。避難所開設のためその後竹野小学校体育館へ移動。メールが出てから相当時間は経っていたが、避難所の方の問題で相当遅れていた状況。ここ近日、その日はレベル4の避難指示だったことを知る。仮にレベル4であれば避難所開設は遅すぎた。久留米11校区は特にレベル3を早く避難所開設し、レベル4に備えた方が良い。いきなりレベル4では体制が取れないのでは? ● 体育館の前を20時過ぎに通過したが電灯は点いていなかった ● 警戒レベル4発令時点では雷のみがひどく雨は降ってなかったものの災害経験有りのため一旦避難しましたが周りの家はどこも在宅のようでも避難場所の体育館は電気がついておらずまた防災の連絡網の電話がかかってこなかったということもあり大丈夫なのでは、様子を見ようと思ひ帰宅しました ○ “久留米市からの避難指示のあと体育館が開いてなかった。地域の連絡網からも何も指示がないため迷いました”
△ 避難所開設は市の職員が担当しています。レベル3の高齢者等避難情報が発令されると、体育館は自主避難所として開設されます。体育館の電灯は、開設されているとき点灯しています。夜間、駐車場から体育館までの移動が暗く、また段差があるため転倒などの危険性があります。駐車場方向へ照明の設置を強く要望します。(市へ要望D)
■ 要支援者への支援(高齢者を含む)
<ul style="list-style-type: none"> ● 要支援者の不自由な方を避難させるかどうか大変迷いました。もう少し長く降り続いたら避難したかもしれません。 ● 高齢のため車もないもう少し早めの避難の連絡がほしいと思ひました
△ 各自治区、改めて要支援者への対応を検討する必要があります。民生委員、自治会長、支援者さんと呼びかけや避難行動支援の確認をお願いします。
■ 独自避難所(竹野小体育館不安)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難指示が発令された後、実際どれ程の雨量が降っているのか私自身が感じる事が必要でした。何故なら「山しお」直接的理由は降雨量で「警戒レベル4」の意味が具体的に理解出来なからです。それから水平避難はしたくない。 ● そもそも小学校までの移動(横移動)が安全なのか? ● “とろあえす、一時避難の場所(1時間~2時間)を考えるとスーパーマーケット、ラーメン、ドラモリ等他の人の考えも聞いてみたい” ● 竹野小は避難所としては大変寺からは場所的に不適切と思う ● 通行止めがかかった道路を通過して(土砂危険道路)、周辺はレッドゾーンの避難場所に行くこと自体おかし、まともな避難所を作ってほしい ● 土砂災害避難指示が発令された場合、竹野小体育館で大丈夫ですか? ● 避難所になっている小学校の方が土砂災害心配
△ 西側公民館以外にレッドゾーンまたはイエローゾーンの土砂災害警戒区域に指定されています。台風などの1次的避難所としての利用が可能です。今日の異常気象が発生している状況と考えると、新たな避難所が必要です。久大線とお鷹の道間に避難所の設置を検討していく必要があります。また、竹野小学校体育館の避難所に避難希望者全員の避難は難しいと考えます。親戚や知人の家、旅館やホテルのなどへの分散避難をお願いします。(市へ要望D)
■ 自主避難
<ul style="list-style-type: none"> ○ 避難指示が発令されたにもかかわらず地区の連絡がなかったことをとても疑問に思いました何のためのものか！！早めの準備、早めの行動を意識し指示待ちではなく自主的に心をけます” △ 避難の連絡を待つのに避難では状況が悪化している可能性があります。各自で久留米市からの避難情報を収集して、早めの避難をお願いします。携帯電話をお持ちの方はLINEを登録していただくことをお願いします。LINEの登録については、竹野校区コミセンでも行っています。ご相談下さい。
2025/12/12 PAGE2
■ アンケート結果から見えてきたこと
<ul style="list-style-type: none"> ● 各自自治会長さん、調班長・班長さんご協力ありがとうございました。また、緊急の依頼にもかかわらず、75.7%の回答をいただきありがとうございます。また、みなさんの意識と認識及び避難行動には、相違いがあることが見て取れます。具体例の一つに、各自の新しい正確な情報をつかむ対応が求められます。そこで、各自自治区ごとに、説明会が必要であると考えます。内容はR.8.10のアンケート結果の説明と今後の自治区や自治区ごとの自主防災の取組についてです。併せて、避難行動要支援者への対応について確認していくことが求められます。一方、市への要望については早急に提出していく必要があります。(夜間照明、避難先の新設等)併せて、校区自主防災の短期・中期のランニングプランを検討する必要があります。
■ 避難所運営についての課題と要望
<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場から避難所である体育館までの夜間照明が無いため通道の安全が確保できる設備の充実をお願いしたい。 ● レベル4の避難指示発令から竹野小体育館の避難所開設までに時間がかかり過ぎたために改善をお願いしたい。 ● 避難所に車イスの方や脚・腰の悪い方への対応としての簡易ベットを2台以上設置をお願いしたい。 ● 現状、竹野小体育館の男女更衣室が傷み具合になっています。今後の災害リスクを考えた時に、備蓄品を十分に保管できる防災倉庫の設置をお願いします。本来、社会体育として使用している体育館には更衣室が必要と考えます。 ● 体育館での各種表示について、ラミネート加工をした使用をお願いします。避難所開設時、即使用でき利便性が高くなります。 ● 避難所でのパーテーションやファミリーランドの使用基準を明確にしてください。 ● 非常食(アルファ米)の食事の提供がありますが、カセットボンベ式の湯沸かしでは時間がかなり過ぎます。電気が使用できる体育館なので、最低でも2つのポットを備品としてお願いします。乳児等の食事対応にも利用できます。
■ まとめ
<ul style="list-style-type: none"> ● 地震災害への対応も具体的に検討していく必要があります。また、避難所での固りごとの整理も必要です。さらに、竹野校区の5年後を想定した、高齢化や空き家・耕作放棄地、防災対策等総合的な取組みも求められます。

竹野の歴史（富本・三明寺）^(案) ^(音声ガイド)

竹野小学校遺跡

平成15年に発掘調査が実施され、7世紀後半から9世紀までの「古代住居跡」27軒が見つかり、大半に竈（かまど）が付いていた。

注目すべきことは、遺跡から「黒書土器」が2点、「輪の羽口」（ふいごのはぐち）及び「鉄滓」（てつさい）が出土したことです。「黒書土器」は「黒国」と「黒」の文字が書かれていました。8世紀後半（780頃）のもので、

以上のことから、隣接する三明寺の「長者の井戸」にあつたと思われる「竹野郡衙」の役人が住み、鉄製品を作ったものと考えられます。この遺跡の発見で、竹野に「竹野郡衙」があつたことを証明しました。

また、住居を建てるために壊された2つの古墳も見つかりました。「富本1号墳・2号墳」といわれています。筑後地方でも古い部類の古墳で、5世紀後半（480頃）に造られたものです。

古墳を壊して住居地にしたり理由は、新たに住居地を造った集団とは繋がりのない「在地勢力」の古墳だったからだと思われます。律令体制の大和政権とは関係のない人物の古墳だったのでしよう。しかし、「前方後円墳」とされる飛塚神社の古墳の被葬者とは親族的なつながりが考えられます。

大和政権に移行するまで、代々「富本古墳」と「飛塚」の被葬者によって、竹野は統治されていたことが考えられます。



神鈴神社

「福岡県神社誌」に、次のことが記されています。

創立は明らかではない。古来によれば、本村の東南隅に岩窟があり、今の「飛塚」という天満社で、時々、その岩窟の中から光が発していた。

ある夜、にわか地震動し稲光のように輝き始め、その西南山腹に飛び移ってきた。村人が怪しみ、驚いてそこに行ってみると、1つの金鈴（かなね）が岩の上の上に立っていました。

この時に神託があつたので社殿を造営し祀ることにしました。この神社を「神鈴大神」といいます。現在の社殿の所です。

これより村の名を「富許村」（ほこむら）としました

が、古事記に「夜知富許乃加美許止云々（やちほこのかみほこうぬん）」とあるので、畏れおおいというので、訓読みの「とももと」として、表記も「富本」と改めました。

いつの頃かはわかりませんが、その「神鈴」は失われて所在もわからなくなってしまいました。しかし「神霊（みたま）」は奇岩に懸座（おんざ）している」として、唯空殿を造営したといわれています。



笹尾城（下笹尾城）

三明寺村の天満宮の縁起に、「別けて地方民の崇敬く元下笹尾城址に鎮座あり云々」とあります。

「浮羽古文化財保存会誌」によると、「三明寺の天満神社の背後の山に削平地と堀切（ほりきり）空堀」があり、北側の屋敷という台地は居館の跡と思われる」と記されています。

また、「中笹尾城」と「上笹尾城」があつたことも記されています。

「中笹尾城」は大徳寺の「愛宕神社」にあつたとされます。石祠の前面は平地で東北隅は崖となり「山城」の雰囲気があります。なお、この神社は、昔は「井楯神社」の中宮であつて、お祭りでは「井楯権現」からの狼煙（のろし）の合図で直会（なおらい）をはじめてい

たそうです。

「上笹尾城」は、三明寺の愛宕社の先の「仏の坊主」という削平地が想定地とされています。「仏の坊主」は、昔の山岳仏教時代の「寺院跡」ではないかといわれています。

戦国時代には、豊後の「大友宗麟」の攻撃を受けたようです。その時「笹尾城」と一緒に、三明寺の地名となった寺院の「三明寺」と「天満神社」も焼き払われたのでしよう。



	おとな向け	子ども向け	備考
竹野校区の歴史			1. 竹野の古墳 2. 山城と戦国時代 3. 郡衙と長者の井戸 4. 農産物の歴史 5. 空堀の跡 6. 平家伝承の史跡 (約3分)
富本の歴史			1. 竹野小学校遺跡 2. 神鈴神社 (約2分)
三明寺の歴史			1. 三明寺の歴史 2. 菅尾城 (約2分)

竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-

期	江戸	室町	鎌倉	長良・平安	古墳・縄文	弥生
1	竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-	竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-	竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-	竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-	竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-	竹野の遺跡年表-遺跡からわかる竹野の歴史-

竹野校区ウォーキング (防災&歴史まち歩き)

富本 三明寺ルート 約4.5キロ / 約90分

写真(A) 写真(B) 写真(C) 写真(D) 写真(E) 写真(F) 写真(G) 写真(H)

①竹野の目盛 ②飛塚神社 ③宮地蔵神社 ④神鈴神社 ⑤徳間神社 ⑥徳間神社の空堀 ⑦長者の井戸 ⑧王子神社 ⑨八木殿王様

砂防ダム建設現場

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(竹野校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>既存の被害情報やアンケート結果を活用し、地域主体の議論を促進するファシリテーション手法を確立する。</p> <p>地区防災計画策定に向けた論点整理のプロセスを体系化し、他校区へ展開可能な支援モデルとして整理する。</p> <p>住民・自主防災会・大学・支援団体等の多主体連携の場づくりに関する実践的知見を蓄積する。</p> <p>災害事例(他地域含む)を活用した意識啓発手法の有効性を検証する。</p>
事業内容①目標 (参加者側)	<p>校区内の過去災害や最新被害状況を共有し、地域のリスクを具体的に理解する。</p> <p>避難行動に関する課題(移動手段・連絡網・要支援者対応等)を明確化する。</p> <p>校区安心メール登録や災害時マイプラン作成を通じ、自助・共助の具体的な行動につなげる。</p> <p>各自治区単位での防災組織構築や説明会開催に向けた合意形成を図る。</p>
事業内容① 実施内容 A (実施日:12/19)	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>竹野校区の地区防災計画策定に向け、富本公民分館にて会合を実施した。</p> <p>会合ではまず、校区内で過去に発生した土砂災害について、矢野氏より被害状況マップを用いた説明が行われ、地域特性と災害リスクの再確認を行った。続いて、自主防災会より2025年8月10日の大雨被害に関するアンケート結果が共有され、避難時の移動手段や連絡網の課題などが整理された。</p> <p>さらに、校区安心メールおよび災害時マイプランについての説明を行い、参加住民に対し登録・作成の呼びかけを実施した。</p> <p>その後、本事業関係者による話題提供として、YNF 吉田氏が参加者の避難行動意向について手挙げ方式での簡易調査を実施した。九州大学メンバーからは、8月の土石流災害時のニュース映像や能登半島被災地での訓練映像を共有し、事前の検討や訓練の積み重ねが実際の避難行動につながること、計画と訓練の継続の重要性について説明がなされた。</p> <p>会合結果を踏まえ、今後の取り組みとして、各自治区単位での説明会実施、避難行動要支援者への具体的対応策の検討、自治区ごとの防災組織体制の構築等が必要であることを整理した。</p> <p>■成果(提供者/参加者)</p> <p>【提供者側】</p> </div> <div style="flex: 1; vertical-align: top;"> <p>写真・図など</p>    </div> </div>

	<p>校区内の災害履歴と直近被害を具体的に共有することで、8月に被災し死者が出ている地域でもあり、地域リスクへの理解・意識が深まった。</p> <p>避難行動上の課題(移動支援、連絡体制、要支援者対応)が整理され、今後の重点テーマが明確になった。</p> <p>安心メール登録やマイプラン作成の必要性について共通認識が形成された。</p> <p>【参加者側】</p> <p>既存資料(被害マップ・アンケート結果)を活用した議論の進め方について実践的知見を得た。</p> <p>映像資料や簡易意向調査を組み合わせることで、参加者の主体的発言を引き出す手法の有効性を確認できた。</p> <p>地域内の論点を段階的に整理し、地区防災計画策定に向けたプロセス設計の方向性を明確化できた。</p>	 
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>参加者の年齢層や立場により、防災意識や具体的な行動への温度差が見られた。</p> <p>要支援者対応については必要性は共有されたものの、具体的役割分担や実施体制までは踏み込めなかった。</p> <p>各自治区単位での取り組み状況にばらつきがあり、校区全体での統一的推進が難しい状況が確認された。</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>手挙げ方式による簡易調査を行い、参加者自身が「自分事」として考える機会を設けた。</p> <p>他地域の災害映像や訓練事例を提示し、具体的イメージを持てるよう工夫した。</p> <p>今後の行動項目を整理し、段階的に進める方向性を示すことで合意形成を図った。</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>地域独自の被害マップやアンケート結果など、当事者性の高い資料を活用した点。</p> <p>映像資料を活用し、「訓練と計画が実際の避難行動につながる」ことを視覚的に伝えた点。</p> <p>一方向の講義形式ではなく、意向調査や呼びかけを取り入れた参加型の進行とした点。</p>	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>■明らかになった課題(制度・人材・運営体制等)</p> <p>避難行動要支援者支援に関する具体的運用体制が未整備であること。</p> <p>自治区ごとの防災組織体制に差があり、人材の偏在が見られること。</p> <p>若年層の参加促進策が十分でないこと。</p> <p>■今後に向けた計画変更等</p> <p>校区全体会合だけでなく、自治区単位の小規模対話型会合を並行実施する。</p> <p>計画策定と並行して訓練実施計画を組み込み、実践と検証を繰り返す方式へ転換する。</p> <p>防災組織の役割分担を明文化し、段階的に体制整備を進める。</p>	

竹野校区の防災活動を振り返って



竹野校区まちづくり振興会
副会長兼防災リーダー 矢野 井史

R8.1.19

校区の概要

●校区の紹介

人口等：2,404人

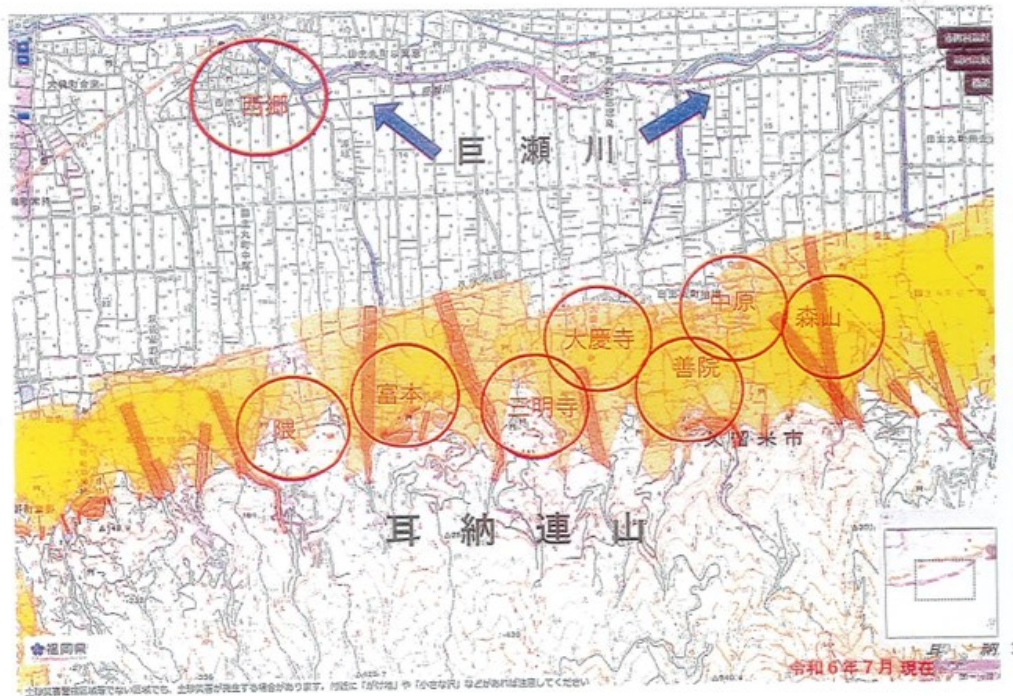
1,044世帯（令和7年2月1日現在）

高齢化率：39.4%

自治会数：8

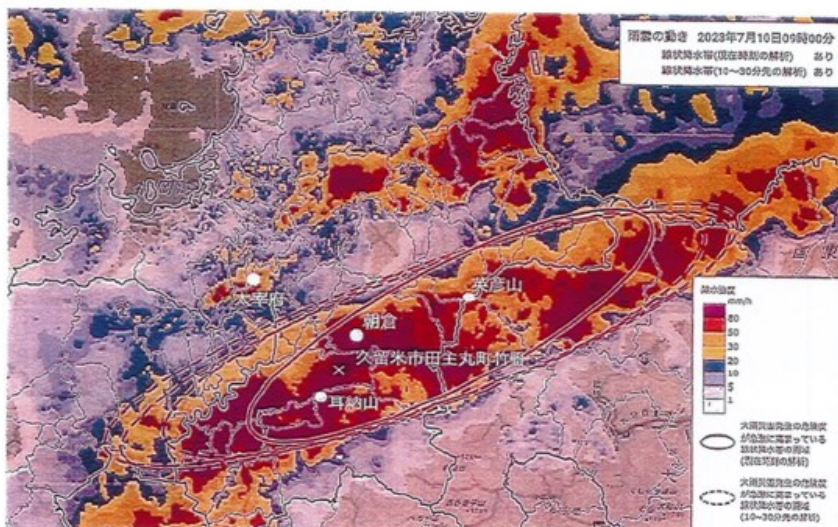
久留米市東部、田主丸町の南西部に位置し、校区の北側沿いには筑後川支流の巨瀬川が流れています。南側沿いには急峻な地形の耳納連山がそびえ立っています。





西日本新聞 朝刊 2023/07/19(水)

雨 2023.4.18

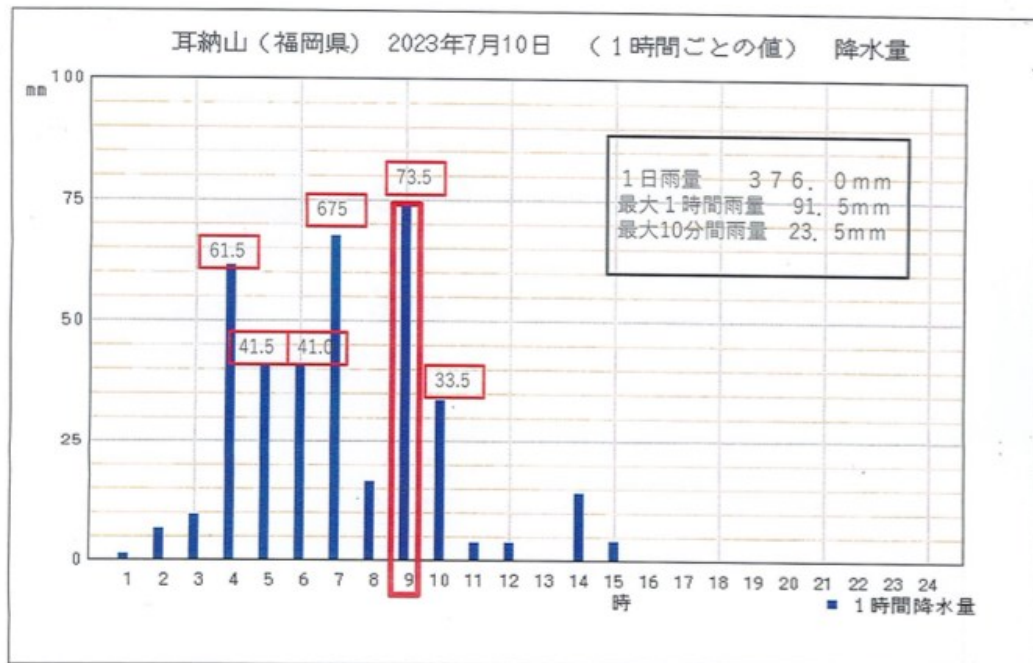


福岡県久留米市田主丸町で土石流が発生した、7月10日朝の雨雲の様子。赤い実線のだ円が線状降水帯で、破線のだ円は最大30分先の予測範囲。白丸はアメダス観測点（気象庁ホームページの画像を基に作成）

アメダス耳納山観測点の雨量データ

雨量	2023年 7月10日の 観測値	以前の 過去最大値 (観測日)	観測値と 過去最大値 の比
3時間	167ミリ (観測史上1位)	151.5ミリ (2019年8月28日)	110%
6時間	316ミリ (同上)	189ミリ (2019年8月28日)	167%
12時間	366.5ミリ (同上)	250ミリ (2009年7月25日)	147%
24時間	402.5ミリ (同上)	392ミリ (2012年7月14日)	103%

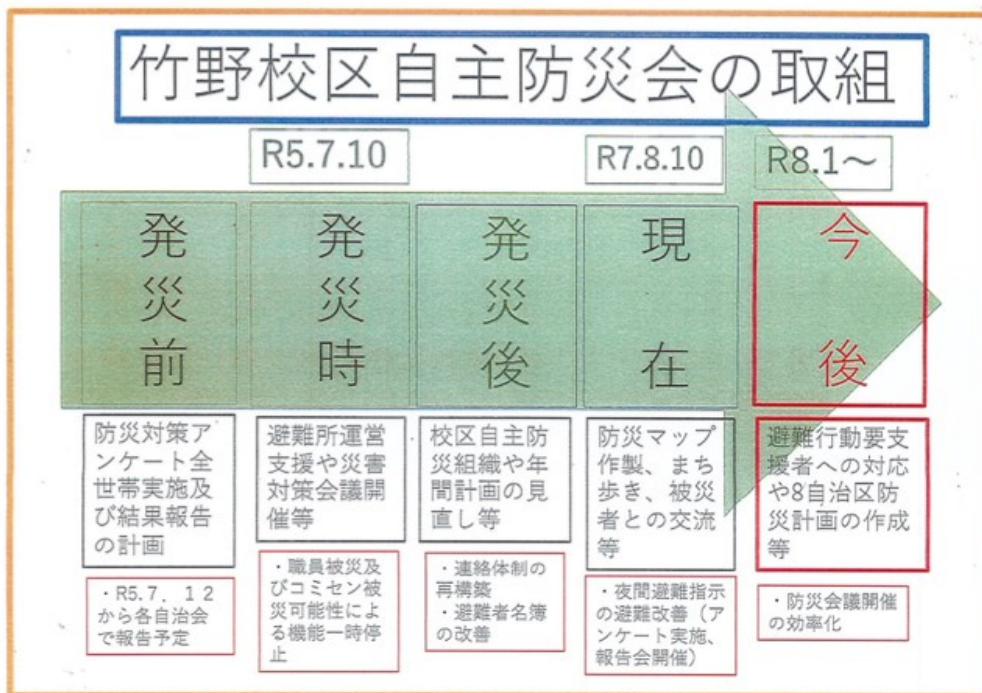
5



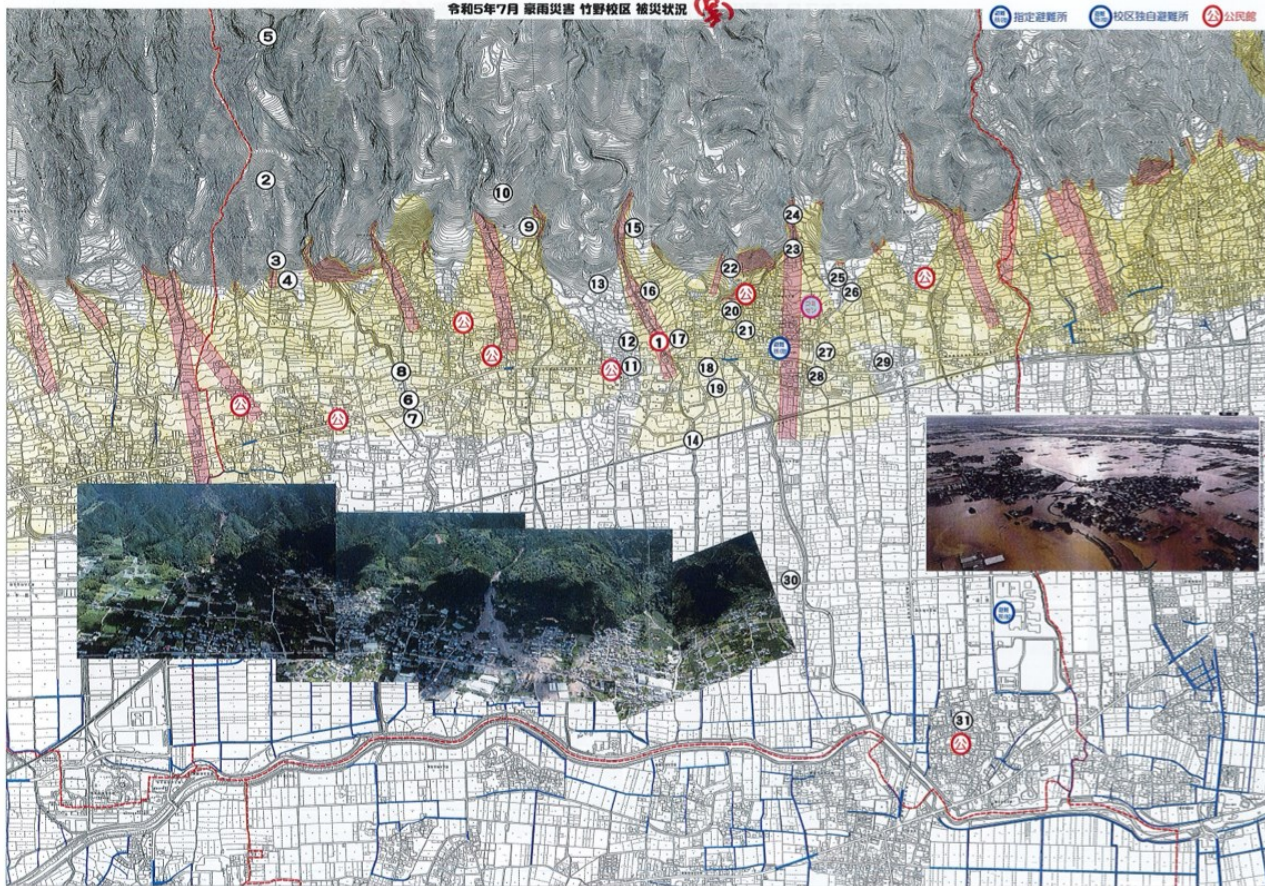
令和5年7月の大雨による災害状況（現状把握分） (7月末現在)

地区	建物破壊 (全壊)	建物破壊 (半壊)	床上浸水(土砂・水を含む)	床下浸水(土砂・水を含む)	土砂災害	河川損壊	道路損壊	その他
森山	1	1		1	6	6	1	
中原					7	2	1	
善院					2	1	1	
大慶寺	0	0	0	2	8	2	4	落石 数箇所
三明寺	3	0	1	5				
富本	5	2	4	5				
隈	0	0	1	0	0	5	4	多数あり
西郷	0	0	20	42				・27 倉庫に浸水
合計	9	3	26	55	23	16	11	

令和5年7月31日現在 報告分のまとめ 7

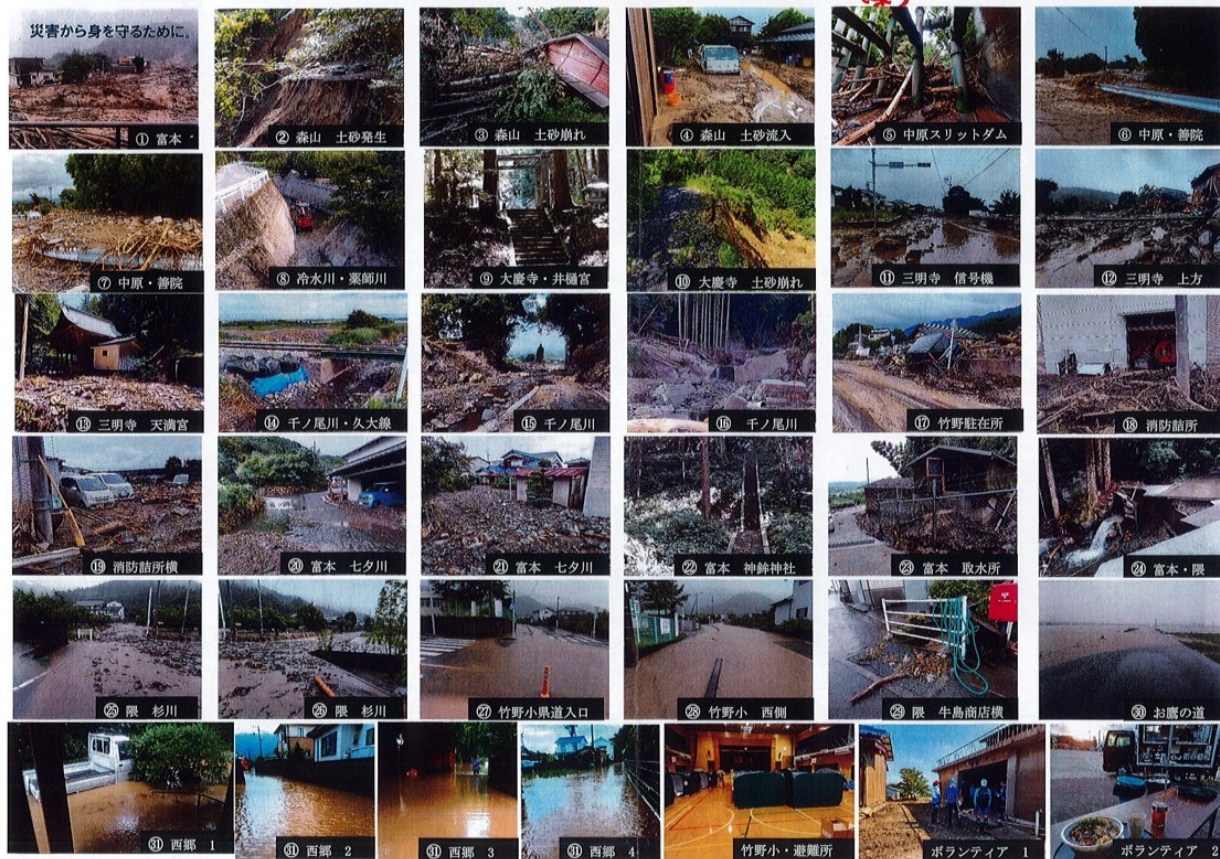


令和5年7月 豪雨災害 竹野校区 被災状況



令和5年7月 豪雨災害 竹野校区自治会 被災状況画像一覧 (全)

2025/10/24



防災に関する竹野区民意識 アンケート調査報告書

(令和5年7月実施 ダイジェスト版)

竹野校区自主防災会

■調査目的

竹野校区の防災対策の現状把握と今後の取組みの参考とするため

■調査の概要

- 調査実施期間 …… 令和4年9月15日～令和4年10月5日
- 調査対象 …… 竹野校区 全世帯 669世帯
- 調査方法 …… 無記名式調査票の配布・回収
- 回収数・率 …… 592件 (88.5%)

自治会区分あり 589件 (88.0%)

年齢区分あり 582件 (87.0%)

■自治会別の回収状況

自治会名	森山	中原	善院	大慶寺	三明寺	富本	隈	西郷	横計
配布世帯数	41	58	74	53	73	114	114	142	669
回収実績	39	57	66	46	57	99	95	133	592
回収率(%)	95.1	98.3	89.2	86.8	78.1	86.8	83.3	93.7	88.5

■年齢別の回答状況

年齢	19歳以下	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	横計
回答数	2	4	14	40	92	173	187	70	582
構成比(%)	0.3	0.7	2.4	6.9	15.8	29.7	32.1	12.0	100.0

■ A 災害対策に関する意識について

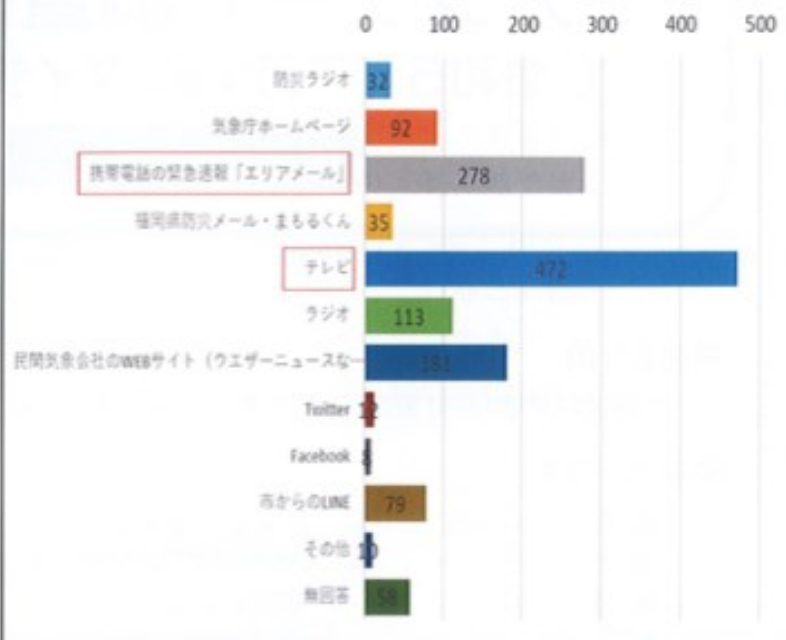
質問 2-C (危険認識)

台風や大雨や地震などの災害情報収集を85%の方がしていると回答がありました。

その中で収集方法が一番多いのはテレビでした。

また情報収集をしない多い理由としては災害が起きたら起きた時だと思っているでした。

【質問 2 (c)】 情報収集の方法を下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)

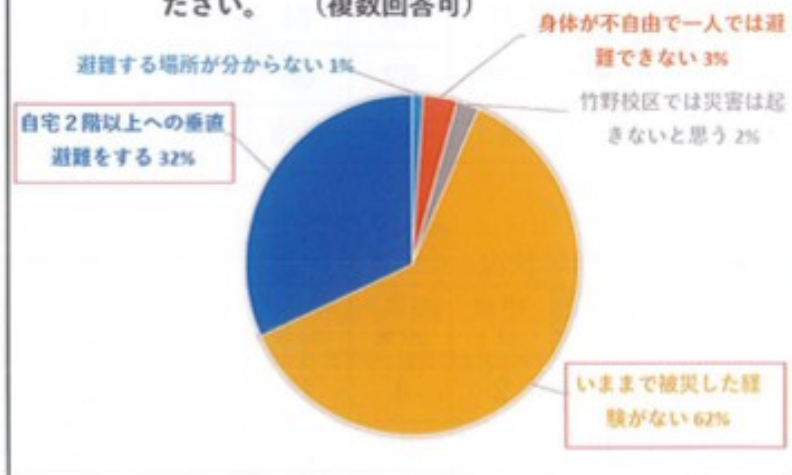


質問 3-C (危険認識)

久留米市からの避難情報に対しては、約80%の方が自宅以外へ避難したことがないでした。

また避難したことがない方の一番多い理由は、被災経験がない62%、自宅の2階以上に垂直避難をするが32%でした。

【質問 3 (c)】 あなたは、自宅以外へ避難しない理由を、下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)

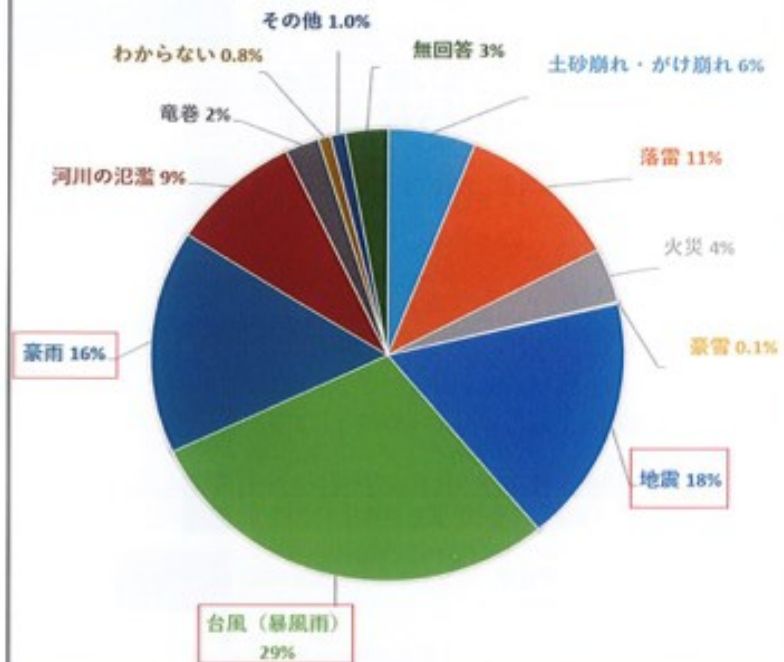


問3-D

(危険認識)

今までの中で危険と感じる災害は台風(暴風雨)が29%、地震が18%、豪雨が16%でした。

【質問3(D)】あなたは、今まで災害によって身近に危険を感じたり、危険と感じる災害はありますか。下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)



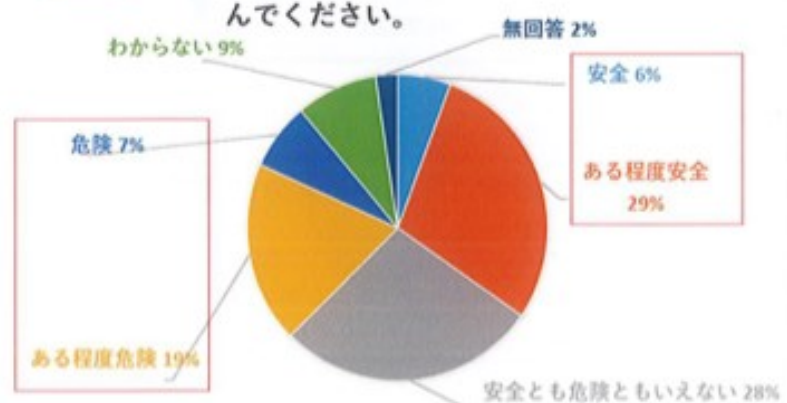
問4

(安全認識)

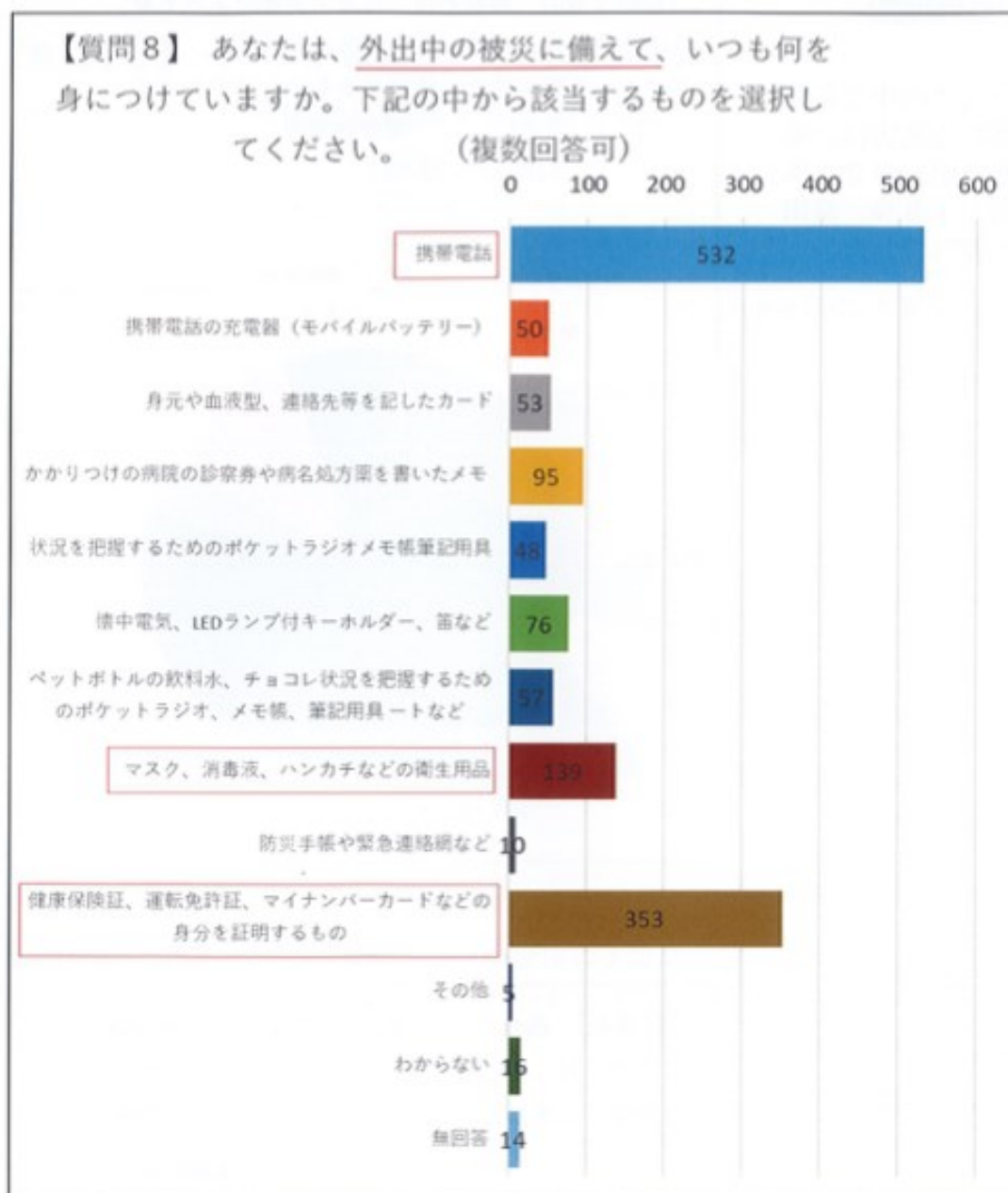
現在住んでいる自治会が災害に対して、安全と感じるは、ある程度も含め35%でした。

また、危険と感じるは、ある程度も含め26%でした。

【質問4】あなたは、あなたの住んでいる自治会は災害に対して安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。下記の中から1つ選んでください。



問8 (外出中の災害対策)



外出中の被災に備えて身につけているものとしての上位3つは、携帯電話、健康保健証・運転免許証など身分を証明するもの、マスク・消毒液などの、衛生用品の順でした。

■ B 地震対策に関する意識について

質問 9

(地震の住宅被害意識)

住んでいる住宅は、ある程度を含め33%が大丈夫と思っている。

逆に、少し危いを含め40%が住んでいる住宅が危いと思っている。

【質問9】 あなたは、地震に対して住んでいる住宅は大丈夫だ（倒壊や損害がない）と思いますか。それとも危いと思いますか。下記の中から1つ選んでください。

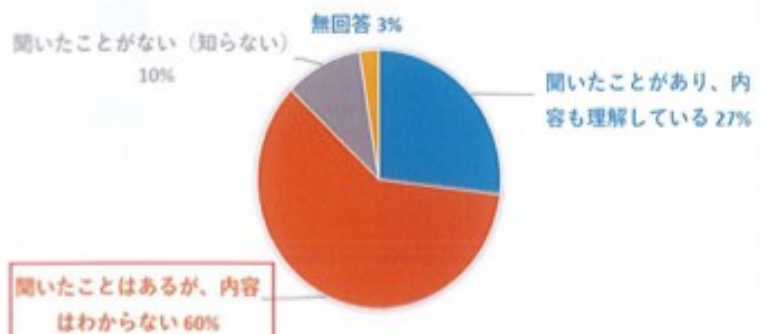


質問 10

(地震の基礎知識)

水縄活断層については、聞いたことがあるが内容は分からない方が60%でした。

【質問10】 あなたは、水縄（みのう）断層帯に関わる知識や情報を聞いたことがありますか。下記の中から1つ選んでください。



問 1 1 (地震への備え)

【質問 1 1】 あなたの家では、地震が起こった場合に備えについてどのような対策をとっていますか。下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)



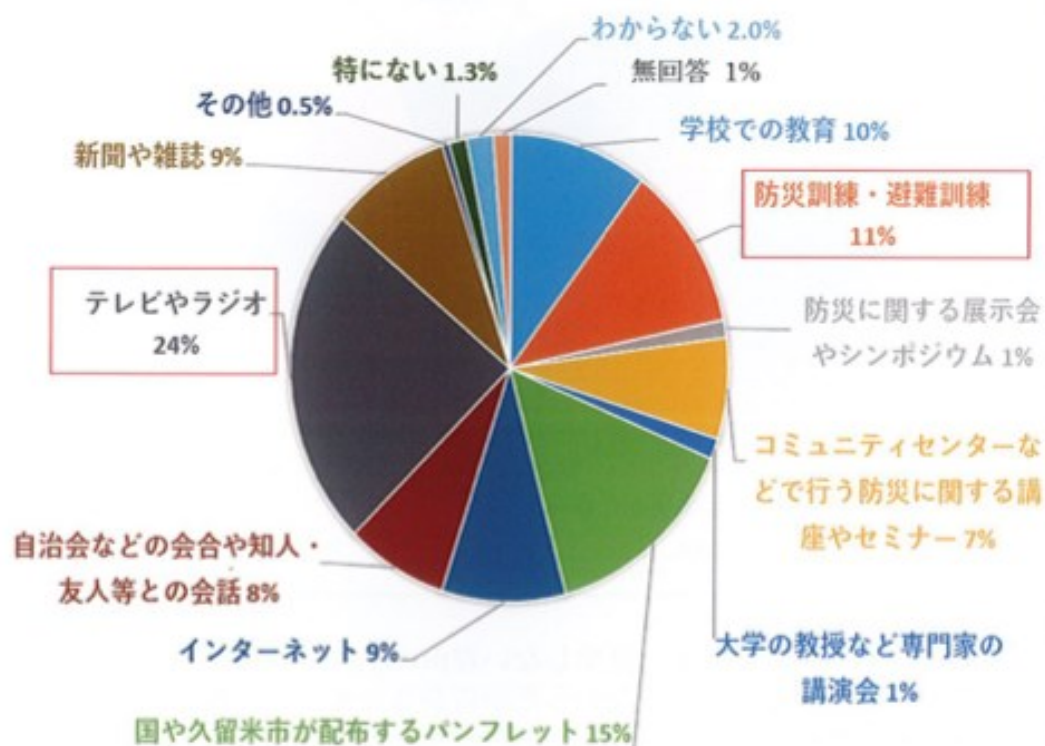
地震の備えとしての上位5つは、火災の早期発見の為、住宅用火災警報器を設置している、スマートフォン・新聞・TV等で防災知識を身に着ける、火災発生のために消火器を準備している、カセットコンロなどの熱源を準備している、重いものは高い所に置かないようにしているでした。

■ C 防災対策に関する意識について

質問 1 2 (防災情報に関する提供先)

【質問 1 2】 あなたは、防災全般に関わる知識や情報を何によって提供されたら良いと思いますか。

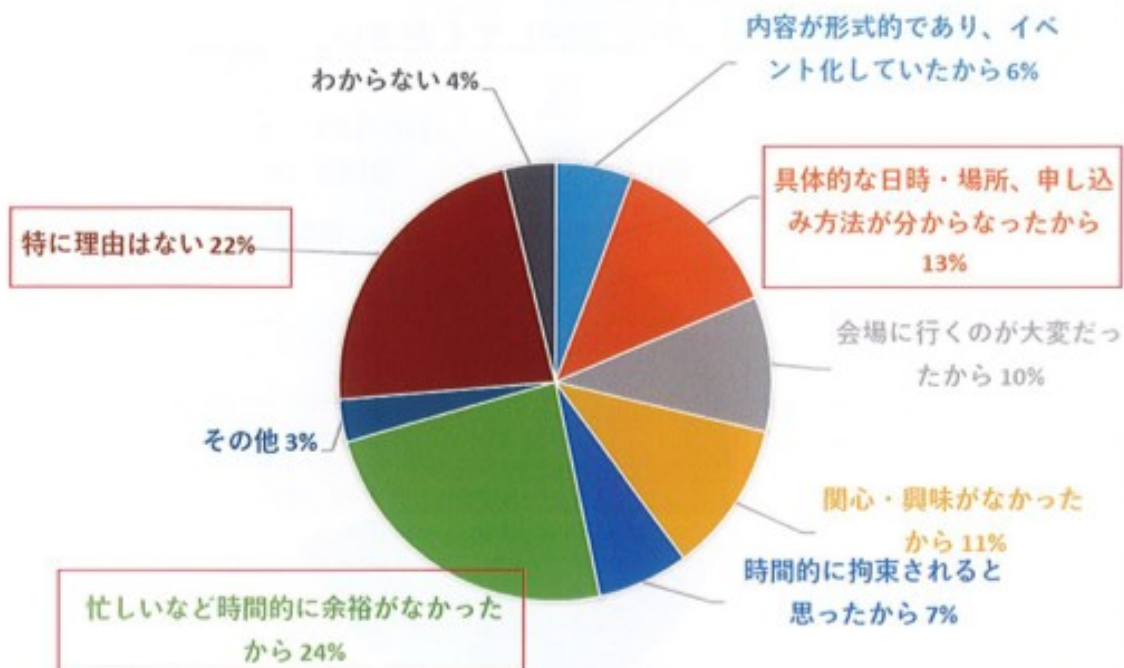
下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)



防災全般に関わる知識や情報の提供先が良いものの上位3つは、テレビやラジオが24%、国や久留米市が配布するパンフレットが15%、防災訓練・避難訓練が11%でした。

質問 1 5 (参加の意識)

【質問 1 5】 イベントに参加、見学しないのはなぜですか。下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)



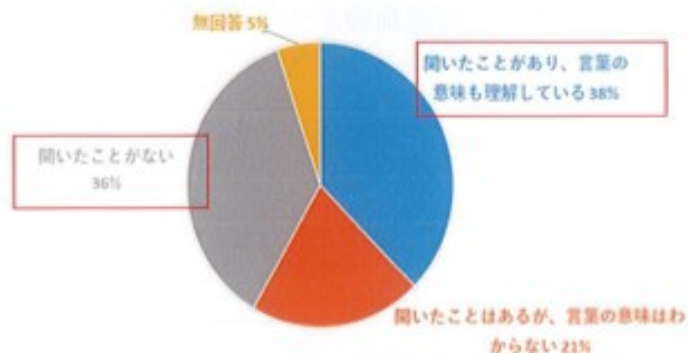
防災イベントに参加・見学しない理由の上位3つは、忙しいなど時間に余裕がなかったからが24%、特に理由はないが22%、具体的な日時・場所、申込方法が分からなかったが13%でした。

質問 1 6
(三助の認知度)

自助・共助・公助という言葉について理解している38%でした。

逆に57%が自助・共助・公助を理解していないでした。

【質問 1 6】 あなたは、防災に関して「自助」、「共助」、「公助」という言葉をご存じですか。下記の中から1つ選んでください。

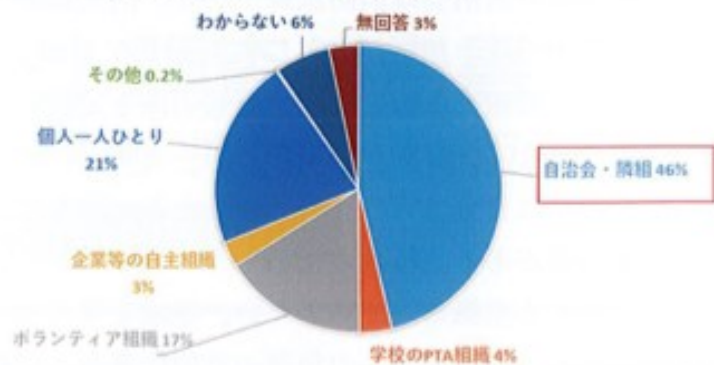


質問 19

(災害時の活動組織)

災害時の地域活動は46%が自治会・隣組が担うべきとの回答でした。

【質問 19】 災害時の行政による活動のほかに、地域活動において役割を担うべきものは何だと思いますか。下記の中から該当するものを選択してください。(複数回答可)



■D 自助・共助の促進のために校区や自治会に期待すること (抜粋)

●組織に関すること

- 防災活動についての訓練を定期的に行った方が良いと思う。(60代)
- 自治会単位に公民館での具体性を持ったセミナーを開催してほしい。
大規模なイベントより身近な場所で行ってほしい(60代)

●自治会の不安・対応

- 簡単に使える連絡網があると良いと思う(50代)
- 自治会で、だれがだれに連絡するとか具体的に実施する事が大切(60代)
- 防災情報の共有と伝達スピードに対し実際の被害の時不安がある(60代)
- 隣組で密に連絡をとりあうことができるのか(70代)
- 連絡体制図の構築(70代)
- 集落単位での避難場所の検討(70代)

●高齢化への不安

- 高齢者のため自助努力に限界がある。共助、公助に期待している(70代)
- 高齢化が進んでおり単身者も増えているので「自助」が難しくなっている(60代)
- 「共助」意識が高いとはいえない、「共助」の意識を高める啓発活動や研修会を実施。(60代)

●その他

- 安全に避難出来ることが大事であるが形ばかりの避難所開設に疑問を感じる（50代）
- 防災意識付けについては、個人の意識高揚も必要なので、形が見える模擬訓練や自治会の消防訓練が必要。消火訓練・避難訓練・地震体験車などを中心に、年中行事として実施する（80代）
- 自治会、隣組での防災訓練、避難訓練を定期的にする。事務的な防災活動ではなく、行動が大事だと思います。（70代）
- 自分の命は自分で守る。自分にできる、できない事を公言できる組織を作る必要がある。行政の指示や「マニュアル」ばかりで動くのではなく、顔が見える組織にしていきたい。地域を守る事へと繋がる。（70代）
- 日頃からの道路愛護等の集落の共同作業などが機能していると、自主防災会も機能すると思う。地域の活動や行事の支援を期待する。
（お宮掃除、農地水の活動、おまつり、神事、空き缶拾い）（60代）

非常時緊急電話連絡先

火災・救急 **119**
(局番なし)
<久留米広域消防本部>
0942-38-5151

警察 **110**
(局番なし)
<久留米警察署>0942-38-0101
<うきは警察署>0943-76-5110

公的機関

久留米市防災対策課	0942-30-9074
田主丸総合支所 地域振興課	0943-72-2111
久留米県土整備事務所	0942-44-5222

【発行・問合せ先】

竹野校区自主防災会

(竹野校区コミュニティセンター内)
〒839-1215 久留米市田主丸町竹野 2134-1
TEL: 0943-72-2387
FAX: 0943-76-9007

令和7年8月10日 大雨被害での 避難行動アンケート調査 結果

- 調査期間 令和7年8月29日～令和7年9月9日
- 調査対象 竹野校区の全世帯 **659世帯**
- 調査方法 無記名式調査票の自治会別に手配布・手回収
- 回収数・率 **499件** (75.7%)

自治会	森山	中原	善院	大慶寺	三明寺	富本	隈	西郷	横計
配布世帯数	40	59	70	54	71	113	112	140	659
回収実績	41	52	35	32	58	96	67	118	499
未回収数	0	7	35	22	13	17	45	22	160
回収率(%)	102.5	88.1	50.0	59.2	81.7	85.0	59.8	84.3	75.7

<目次>

- 1.自治会別の割合・・・P 1
- 2.校区全体の割合・・・P 2～3
- 3.意見のまとめ・・・P 4～6

令和7年9月

竹野校区自主防災会

令和7年8月10日 大雨被害での避難行動アンケート調査（自治会別）

質問項目	回答	回答内容	校区		森山		中原		善院		大慶寺		三明寺		富本		隈		西郷	
			数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
自治会名	1	森山	41	8.2%	41	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自治会名	2	中原	52	10.4%	0	0.0%	52	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自治会名	3	善院	35	7.0%	0	0.0%	0	0.0%	35	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自治会名	4	大慶寺	32	6.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	32	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自治会名	5	三明寺	58	11.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	58	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
自治会名	6	富本	96	19.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	96	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
自治会名	7	隈	67	13.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	67	100.0%	0	0.0%
自治会名	8	西郷	118	23.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	118	100.0%
自治会名		TOTAL	499		41		52		35		32		58		96		67		118	

年齢	1	19歳以下	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
年齢	2	20代	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
年齢	3	30代	11	2.3%	1	2.6%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	2	2.2%	2	3.0%	4	3.4%
年齢	4	40代	32	6.6%	4	10.5%	4	8.0%	1	2.9%	0	0.0%	3	5.4%	4	4.3%	9	13.6%	7	6.0%
年齢	5	50代	65	13.4%	7	18.4%	10	20.0%	8	23.5%	2	6.5%	7	12.5%	9	9.7%	12	18.2%	10	8.6%
年齢	6	60代	128	26.4%	9	23.7%	14	28.0%	9	26.5%	9	29.0%	18	32.1%	26	28.0%	17	25.8%	26	22.4%
年齢	7	70代	174	36.0%	10	26.3%	17	34.0%	14	41.2%	12	38.7%	22	39.3%	34	36.6%	18	27.3%	47	40.5%
年齢	8	80歳以上	73	15.1%	7	18.4%	4	8.0%	2	5.9%	8	25.8%	5	8.9%	17	18.3%	8	12.1%	22	19.0%
年齢		TOTAL	484		38		50		34		31		56		93		66		116	

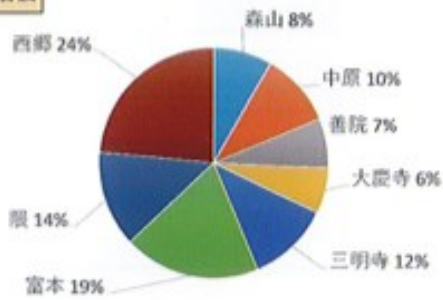
質問1	1	避難指示が発令された事を知っていた	391	78.4%	31	75.6%	38	73.1%	21	68.0%	28	87.5%	53	91.4%	77	80.2%	51	76.1%	92	78.0%
質問1	2	避難指示が発令された事を知らなかった	108	21.6%	10	24.4%	14	26.9%	14	48.0%	4	12.5%	5	8.6%	19	19.8%	16	23.9%	26	22.0%
質問1		TOTAL	499		41		52		35		32		58		96		67		118	

質問2	1	8/10-8/11にかけて避難した	40	8.0%	1	2.4%	2	3.8%	2	5.7%	7	21.9%	14	24.1%	11	11.5%	1	1.5%	2	1.7%
質問2	2	8/10-8/11にかけて避難しなかった	459	92.0%	40	97.6%	50	96.2%	33	94.3%	25	78.1%	44	75.9%	85	88.5%	66	98.5%	116	98.3%
質問2		TOTAL	499		41		52		35		32		58		96		67		118	

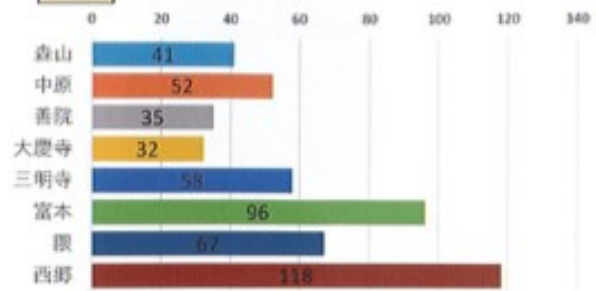
質問3	1	避難された方の避難先 - 自宅の2階	15	37.5%	0	0.0%	2	100.0%	1	50.0%	3	42.9%	3	23.1%	4	36.4%	1	50.0%	1	50.0%
質問3	2	避難された方の避難先 - 自治会公民館	2	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	15.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
質問3	3	避難された方の避難先 - 竹野小体育館	7	17.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	2	15.4%	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%
質問3	4	避難された方の避難先 - ゆうかり学園	1	2.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
質問3	5	避難された方の避難先 - 緑成の里	9	22.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	3	23.1%	4	36.4%	0	0.0%	0	0.0%
質問3	6	避難された方の避難先 - 知人の家	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
質問3	7	避難された方の避難先 - その他	6	15.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	2	15.4%	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%
質問3		TOTAL	40		1		2		2		7		13		11		2		2	

質問4	1	避難しない理由 - 大丈夫だと思ったから	204	34.8%	23	42.6%	17	25.4%	13	31.7%	6	16.7%	13	22.8%	34	29.3%	26	34.2%	72	51.4%
質問4	2	避難しない理由 - 避難しなくて良いと判断したから	192	32.7%	13	24.1%	19	28.4%	17	41.5%	13	36.1%	17	29.8%	44	37.9%	27	35.5%	42	30.0%
質問4	3	避難しない理由 - 避難だったから	67	11.4%	4	7.4%	8	11.9%	4	9.8%	6	16.7%	15	26.3%	18	15.5%	6	7.9%	6	4.3%
質問4	4	避難しない理由 - 避難所が遠いから	31	5.3%	7	13.0%	8	11.9%	3	7.3%	4	11.1%	1	1.8%	1	0.9%	0	0.0%	7	5.0%
質問4	5	避難しない理由 - 避難所までの移動手段がないから	14	2.4%	3	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.3%	2	3.5%	2	1.7%	1	1.3%	3	2.1%
質問4	6	避難しない理由 - その他	79	13.3%	4	7.4%	15	22.4%	4	9.8%	4	11.1%	9	15.8%	17	14.7%	16	21.1%	10	7.1%
質問4		TOTAL	587		54		67		41		36		57		116		76		140	

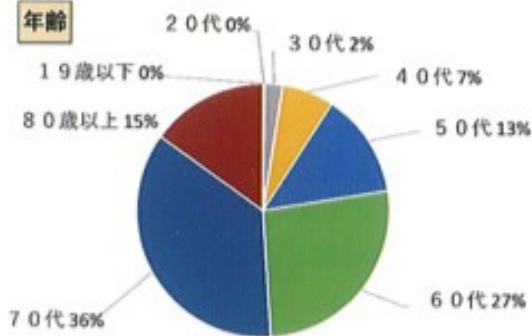
自治会



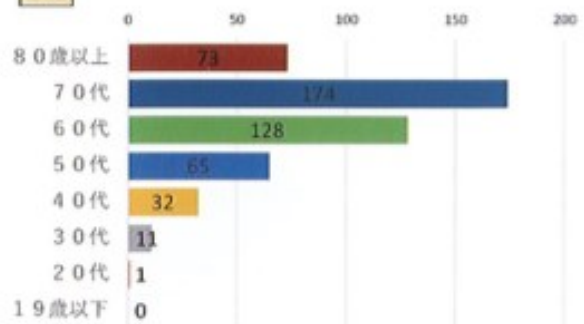
自治会



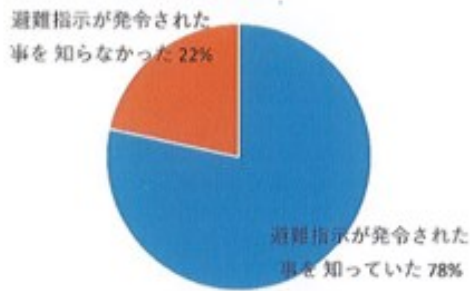
年齢



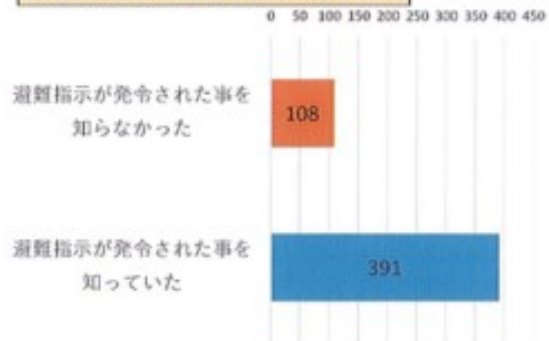
年齢



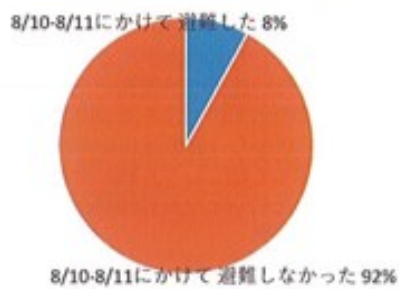
①避難指示が発令された事を知っていましたか？



①避難指示が発令された事を知っていましたか？



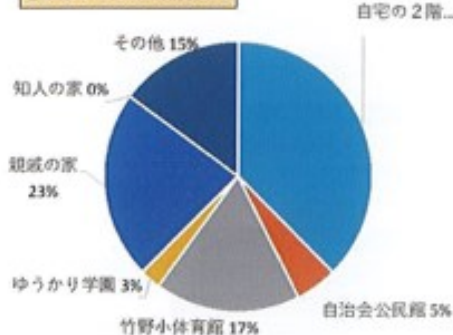
②8月10日-11日にかけて避難されましたか？



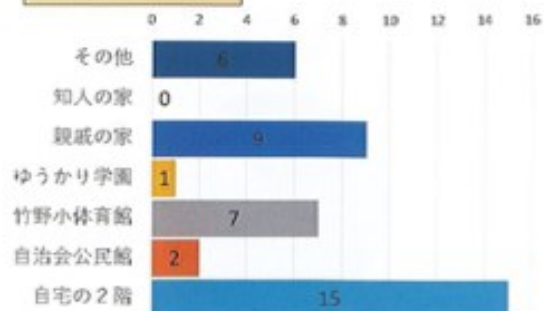
②8月10日-11日にかけて避難されましたか？



③避難された方の避難先？

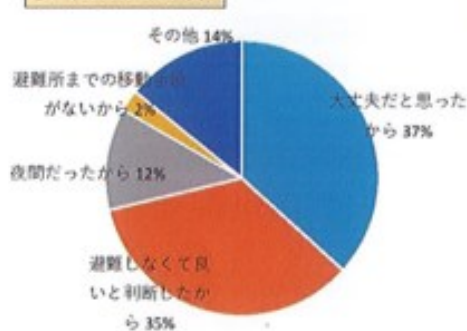


③避難された方の避難先？

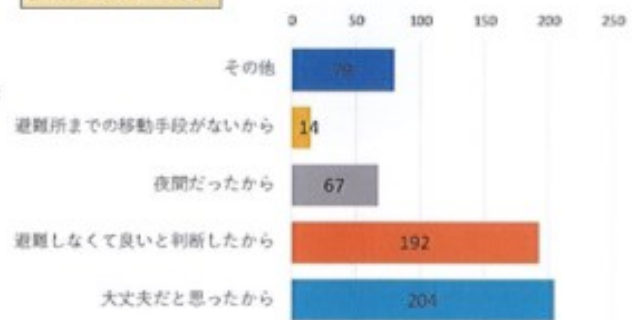


その他の避難先・公民館、自宅の2階、自治会公民館、スーパーの駐車場、別の場所の自宅、仕事で家にいなかったため、実家、娘の家、施設入所

④避難しなかった理由？



④避難しなかった理由？



避難しなかったその他の理由・・・/90代の親がいるため /うちより危険な世帯に優先して避難して欲しいから /コロナだったため /ペットがいるから /まだ引っ越ししていなかった為知りませんでした。 /もう少し様子をみようと思っていた /避難の用意はしていましたが /レベル4だったので荷物だけ準備した /すぐ避難できるように /家にいなかった /家の前の谷の水があまり増えていなかったから /家の前の道路が冠水したら、自宅で垂直避難をする。 /家の方が安全だと判断したから /荷物は4日分位はまとめている /外出して家にいなかったから /外出中だったから /逆に避難所のほうが危険と思った /居なかった /緊急速報メール警戒レベル3高齢者等避難開始と思っていた /空調はないし暑いから /パーテーション(仕切り)くらい作ってほしい /犬をおいていけないので2階に垂直避難していた /県外にいたため /腰痛で移動ができない、避難所で過ごすのがつらい /災害にあわない地域のため /災害対応で出勤したため /仕事のため /指示が出たことを知らなかった /指示が出ていることを知らなかった /施設入所中 /自宅にいなかった /自宅の2階で生活しているため /自宅の方が安全だと判断したため /自宅の方が安全と思ったから /実家の法事のため不在 /重病人がいるため /出かけていた /出かけていたので知らなかった /初めて避難しようと思ったけど何かあったら二階へ避難しようと思った /初盆の準備もあったので /小学校の方が危険と思う /上からの連絡がなかった /竹野小学校開放の知らせもなかった /他の場所にいた /体調の悪い者がいたので /大雨すぎて車に乗るのが大変だった /知らなかった /土砂災害での避難指示だった為、自宅の方が安全だと判断した。 /道中に不安がある /二階に避難すれば良いと判断したから /避難できない状況 /避難指示がなかったから /避難指示に気づかなかった /避難所が隣でした。 /避難所と自宅は隣接していて変わらないと思うから。 /避難所に行くまでが危険 /避難所の方が危険 /避難所より実家が安全だから /避難途中が危険と思ひ、安全じゃないと思うから /分からなかった /別の場所にいた /母が寝てて起こしても動かなかったから /夜の大雨の移動の方が危険 /夜間の避難指示が分かりにくい /様子を見ていた /要支援者が行けるような避難環境でないから /雷がはげしかったから /老令のため夜間の避難は困難

問5 ご意見やご感想がありましたら・・・

- ベットがいる為避難はできにくい・避難所に行くまでに危険な場所を通らなくては行けない 以上の為に避難はしていない
- 2項以降は知っていた方の質問
- 2年前の時も家までは来なかったので大丈夫だと思ったから
- TVやケータイを確認しながら過ごしていた時、会話の中で防災連絡網で連絡があるかと思っていたが、無かったので練習をしても活用できなかつたら、連絡網の意味は無いのでは・・・。
- そもそも小学校までの移動（横移動）が安全なのか？
- “とりあえず、一時避難の場所(1時間～2時間)を考えていますスーパーマーケット、ラムー、ドラモリ等他の人の考えも聞いてみたいです”
- ベット（犬）を飼っている家庭は、どのように（どこに）避難をしたら良いのでしょうか。
- 暗くなってからの避難は危険だと思ったので自宅に居ることを選びました
- 雨の中、大雨に対する作業中に緊急速報メールあり。警戒レベル3高齢者等避難開始と思い、雨の中作業継続。避難所開設の為その後竹野小学校体育館へ移動。メールが出てから相当時間は経っていたが、避難所のカギの問題で相当遅れていた状況。ここ近日、その日はレベル4の避難指示だったことを知る。仮にレベル4であれば避難所開設は遅すぎる。久留米11校区は特にレベル3を早く避難所開設し、レベル4に備えた方が良い。いきなりレベル4では体制が取れないのでは？
- 家の横を流れる谷の水の増水量が大丈夫と判断したから
- 近所の体の不自由な方を避難させるかどうか大変迷いました。もう少し長く降り続いたら避難したかもしれません。
- 今まで床上50cmも入るなんて50年ぶりです。車も4台水没しました。
- 自宅のほうが安全と思うことが多い
- 自分の地域が雨よりもカミナリの方がひどくて避難する程ではないと判断した。防災グループの（自治区の）活動の在り方が難しいですね。
- 体育館の前を20時過ぎに通ったが電灯は点いていなかった
- 大雨すぎて避難するのも困難な場合もある
- 大雨で土砂災害避難するような状況になったのは、福岡県の砂防ダム工事の道路の作り方が悪いからである
- 大雨で動揺している状況で防災隣組班長さんより避難報告があり心が和み行動を行いました
- 大雨水害の場合は、避難するより、自宅2階の方が安全と思います。
- 地域での研修会があったのに参加して必要性を感じました
- 竹野小は避難所としては大慶寺からは場所的に不適切と思う

- 通行止めがかかった道路を通過(土砂危険道路)、周辺はレッドゾーンの避難場所に行くこと自体おかしい。まともな避難所を作ってほしい
- 土砂災害避難指示が発令された場合、竹野小体育館で大丈夫ですか？
- 特に意見ありません。世話人の皆様おつかれ様でした。防災リュックセット (33点) 備えています (夫婦共)
- 避難された人数等を教えてください
- 避難しなかった理由として、避難所は山側にあるため自宅の方が安全だと考えたから。土砂崩れが心配です。
- 避難指示が出たら自分の家庭は守りたいと思います
- 避難指示が発令が夜だった事で、実際どれ程の雨量が降っているのか私自身が感じる事が必要でした。何故なら「山しお」直接的な原因は降雨量で「警戒レベル4」の意味が具体的に理解出来ないからです。それから水平避難はしたくない。
- 避難所が停電になったら発電機とかはあるのか
- 避難所になっている小学校の方が土砂災害が心配
- “避難所まで行く道のりが山からの水で冠水しているところや、雨風でかえって危ないと思う。”
- 避難場所が悪い。(途中の道が悪い) ここの方が安心。
- 夫：仕事中 (朝倉市)、妻・子：帰省中 (山口県)
- 防災に関して日頃より色々お世話です。実は私、今班長してましてアンケートをいただいて集めなくてははいけませんけど、留守の方など居られて何回か行かなくてははいけませんので、もう少し日付に余裕をもって下さい。お願いします。防災は大変大事な事ですから、これからは関心を持って気を付けていきたいと思います。
- 防災マップで確認して、自宅が安全だと判断しました
- 令和5年の大雨災害を基準に考えて行動しています。
- 当日出かけていて市からの避難情報があったので近くの娘の家に避難しました
- “避難指示が発令されたことを知ったのは娘の携帯に久留米市からの連絡が入り知りました 竹野校区の連絡網はありませんでした”
- もう少し早く避難指示を出してほしかった
- できるだけ早めの避難指示をお願いします
- 連絡網からの指示はなかった
- 外からマイクで災害に関する呼びかけがされていたようですが大きな雨音でかきけされ何を伝えているのかわかりませんでした
- 1時間ほどでおさまるようだったので避難しませんでした。夜間の雨は決断が難しい

- 警戒レベル 4 発令時点では雷のみがひどく雨は降っていなかったものの災害経験有りのため一旦避難しましたが周りの家はどこも在宅のようで避難場所の体育館は電気がついておらずまた防災の連絡網の電話がかかってこなかったということもあり大丈夫なのでは..様子を見ようと思い帰宅しました
- 高齢のため車もないしもう少し早めの避難の連絡がほしいと思いました
- シュミレーションしてレベル3で避難することになっていたが10日夜8時40分に避難指示がでた
- “久留米市からの避難指示のあと体育館が開いてなかった 地域の連絡網から何も指示がないため迷いました”
- 避難指示が発令されたにもかかわらず地区の連絡がなかったことをとても疑問に思いました何のためのものなのか！！早めの準備、早めの行動を意識し指示待ちではなく自主的に心をかけます”
- 今回のことでもっと自分から動いていくことを感じました

※ 問5については、校区自主防災会にて協議し、お知らせして行きます。

■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(安武校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ1回以上の開催 ・参加者20名以上の確保 ・具体的行動案を10項目以上抽出 <p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区防災計画策定に向けた論点整理の枠組みを提示する ・「あるものを活かす(ブリコラージュ)」視点の導入 ・日常時／非常時の両面から地域防災を構造化する手法を確立 ・地域資源の見える化手法の実践的検証
事業内容①目標 (参加者側)	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的行動案の複数抽出 ・3日分の食料・水備蓄の必要性を理解する世帯の増加 ・避難所まで歩けない住民の把握 <p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日常時からの備え」が重要であるという意識の醸成 ・要支援者確認と協力体制構築の必要性の共有 ・避難場所を自ら確認し、家族と共有する行動変容 ・「100点を目指す防災」ではなく「部分点を積み重ねる防災」への意識転換
事業内容① 実施内容 A (実施日:1/6)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>これまで地域で積み重ねてきた防災訓練、情報共有活動、地域密着型の見守り活動等を振り返り、「既に地域にある防災の種(人材・企業・施設・つながり)」を確認した。その上で、日常時と非常時の違い、安武校区に予想される50cm浸水を想定した具体的行動、高齢化率を踏まえた支援体制、受け入れ体制の在り方などをテーマに、地区防災計画の基本的な考え方を共有した。</p> <p>特に、「あるものでなんとかする(ブリコラージュ)」「モチはモチ屋(専門家との連携)」「早期行動」という視点を提示し、完璧を目指すのではなく、今ある資源を活かしながら早めに動く重要性を確認した。</p> <p>その後のグループワークでは、日常時と非常時それぞれの行動を具体化した。</p> <p>日常時としては、防災知識と意識の醸成、市役所との情報共有のための教育・訓練、小学校やコミュニティセンターとの連携、企業とのつながりづくり、近所の人数把</p> <p style="text-align: right;">写真・図など</p>   

	<p>握、要支援者の確認と協力体制の構築などが挙げられた。</p> <p>非常時としては、要支援者の安否確認、安全な避難場所の早期判断、家族が安全に避難できる場所への移動、避難所生活の想定体験、自宅被害の確認と写真記録、生徒の安全確保などを整理した。</p> <p>また、「玄関先」「2階」「さんぽ」といった身近な生活動線の中でできる防災行動についても議論し、防災を特別なものではなく、日常の延長線上で捉える視点を共有する機会となった。</p> <p>■成果(提供者)</p> <p>地域の議論が抽象論に留まらず、具体的行動レベルまで落とし込まれた。</p> <p>日常時・非常時の整理、人材の見える化、協力体制の具体化という計画化に向けた重要な論点整理が進んだ。</p> <p>既存活動を基盤にした計画化支援のプロセス設計について実践的知見を得ることができた。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>これまでの活動を再確認することで、自分たちの地域資源(人材・企業・施設・つながり)への気づきが生まれた。</p> <p>また、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3日分の食料備蓄 ・避難リュックの準備 ・避難場所の事前確認 ・家族や親戚の連絡先整理 <p>など、具体的な行動に落とし込める論点が整理された。</p>	    
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要支援者情報の具体化が十分に進まなかった ・協力体制の役割分担が曖昧なままの部分があった ・「大丈夫」という正常性バイアスが一部に見られた ・制度上の制約(個人情報共有)に対する理解不足 <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的議論を避け、「50cm 浸水」など具体想定を提示 ・避難所で過ごしてみる等、体験型視点を導入 ・「100点ではなく部分点」という考え方を共有 ・地域資源の見える化を進めることで役割意識を醸成 	

<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常時／非常時を分けて構造化 ・高齢化率や地域特性を踏まえた議論設定 ・「できること」から始める前向き設計 ・専門家任せにせず地域主体で考える進行 ・防災を「不安」ではなく「コミュニティ形成」と捉える視点提示
<p>事業内容① 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区防災計画への具体的落とし込み作業が未完了 ・要支援者台帳の整理と共有ルール整備 ・役割分担の明確化と人材の見える化 ・企業・学校との正式な連携体制構築 ・避難所運営の具体マニュアル作成 ・訓練の定期化計画の策定 ・市役所との情報共有フローの明文化 ・家族単位での備蓄率向上施策の具体化

■事業内容


事業内容① 地区防災計画ワークショップ(金丸校区)	
<p>事業内容①目標 (提供者側)</p>	<p>【定量目標】</p> <p>地区防災計画策定に向けた基礎資料(既存取組・課題・今後の方向性)を整理する 若年層・医療関係者など新たな主体との接点を創出する</p> <p>【定性目標】</p> <p>既存の地域防災活動を「計画」として体系化するプロセスを確立する 地域内の「防災の種」を可視化し、具体的活動へとつなげる支援手法を蓄積する 住民主体の議論を引き出すファシリテーション力の向上</p>
<p>事業内容①目標 (参加者側)</p>	<p>【定量目標】</p> <p>参加者の8割以上が「地区防災計画の意義を理解できた」と回答する 今後実施可能な具体的活動案を複数抽出する 若年層や多様な立場の参加促進に向けた方向性を整理する</p> <p>【定性目標】</p> <p>既存の防災活動を再認識し、自信と継続意欲を高める 平時からのつながりづくりの重要性を共有する 「できることから始める」という主体的意識の醸成</p>
<p>事業内容① 実施内容 A (実施日:1/30)</p>	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>金丸校区コミュニティセンターにて、地区防災計画作成に向けたワークショップを開催した</p> <p>冒頭、犬童事務局長より、防災情報伝達訓練、図上訓練、自主防災プロジェクト会議等、これまで続けてきた取組と現状課題について説明があった。続いて弊学チームより、地区防災計画の基本的な考え方を共有し、「地域にある防災の種を見つけ、育て、具体的な活動へとつなげていく」という視点を提示した。</p> <p>後半はグループワークを実施し、「今後どのような活動ができるか」をテーマに意見交換を行った。平時からの関係づくりや、若い世代・仕事世代が参加しやすい仕組みづくり、医療関係者との連携などの方向性が挙げられたほか、備蓄品を実際に使用する体験型訓練や171災害用伝言ダイヤルの活用訓練など、具体的な実践案も提示された。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>これまでの活動の積み重ねを改めて確認し、金丸校区が既に持っている強みを共有することができた。また、地区防災計画は「新しいことを始める」だけでなく、「既存の取組を整理・発展させる」ものであるとの理解が深</p>

写真・図など



	<p>まった。</p> <p>さらに、議論は抽象論にとどまらず、具体的な行動案が複数抽出され、参加の裾野を広げる必要性についても共通認識が形成された。これにより、次の一歩に向けた優先事項の整理が進んだ。</p> <p>■成果(提供者)</p> <p>既存活動が豊富な地域における計画化支援の進め方について実践的知見を得ることができた。活動の棚卸しから計画へとつなぐプロセス設計の有効性を確認するとともに、地域内で議論が深まり、計画策定に向けた論点整理が進んだ。あわせて、今後優先して具体化すべきテーマが明確になった。</p>	 
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>若年層や現役世代の参加が限定的であった</p> <p>医療関係者との具体的な連携方法がまだ構想段階にとどまっている</p> <p>抽出された活動案をどの順序で実施するかの優先順位整理が十分でなかった</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>参加しやすい時間帯や方法(短時間開催・オンライン活用等)の検討を開始</p> <p>医療関係者との接点づくりを次回以降の具体的なアクションとして整理</p> <p>出された意見を事務局側で整理し、次回会合で優先順位付けを行う方針とした</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の防災活動を否定するのではなく「積み重ねを活かす」姿勢で進行した ・ 抽象論に終わらないよう、具体的な行動イメージを問う設計とした ・ 参加者同士の対話時間を十分に確保し、主体的な発言を促した 	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>■中間報告時点での残タスク</p> <p>抽出された活動案の優先順位付け</p> <p>地区防災計画への文章化・構造化作業</p> <p>医療関係者や若年層との具体的連携調整</p> <p>■明らかになった課題</p> <p>現役世代の参加促進に向けた仕組み設計</p> <p>多主体連携を継続的に支える運営体制の強化</p> <p>既存事業と新規取組の整理・役割分担の明確化</p> <p>■今後に向けた計画変更等</p> <p>体験型・実践型訓練を早期に実施し、計画を具体化する方向へ転換</p> <p>小規模分散型の対話機会を増やし、参加の裾野拡大を図る</p> <p>成果を見える化し、地域内で共有する仕組みを整備する</p>	

金丸校区
防災ワーキング
(金丸コミュニティーセンター)
1月30日(金)




校区の防災・防犯対策について
「現状と課題」

金丸校区 まちづくり委員会
事務局長 大庭 隆久

自己紹介

- ・5/15(2008) 北有漢出身、久留米出身
- ・元駐米自衛官(中隊隊長、大佐退任)
- ・主な任務⇒ 防犯課/防犯副課(7/03)
(勤務地: 久留米・津城・戸塚・米原)
- ・災害派遣活動



- ・自漢・・・西澤医療福祉大学(大川市)教務課
- ・現在・・・R6年4月より、金丸校区コミセン
- ・趣味・・・釣り

* 金丸校区における
防災・防犯の現状

- ・1 自主防災(自治会)組織の育成・活動等
- ・2 防災・健康ウォーキングの開催
- ・3 安全見守り活動(パトロール等)の実施
- ・4 街頭防犯カメラによる監視等(コミセン/小学校周辺)

自主防災組織の現状(概観)その2

- ・ 不測事態発生時の避難所への移動について
 避難所(ゴミセン)は常に利用したいが、自力避難可能
 段階に支障がある方、・・・ゴミセンでは確保がある
 コレセンでの対応がある方、・・・この場合は同避難所へ
 避難事項(要)
 ・ 常に立退が必要となる、避難所までの距離がある方に対し
 ては、「道のり目録」等を渡し、上での対応を協議することが
 望ましい。
 ・ 特に、緊急避難所が避難する場所は「避難所」ではなく
 「避難所」ではない。

昨年の事例紹介



- ・ 昨年8月29日 『台風直撃』 避難者約1,000
 前日(8/28) 18:30頃、近区民の方よりゴミセンに電話あり、
 避難所(ゴミセン)に避難したいけど、雨が来てないから
 ・ 翌日の9時から避難所開放予定を伝達
 段が不自由なので、のからはタメなかなの避難所
 指定所を指定した。久留米市のほか、(ゴミセンは避難所)
 ・ 避難所は、避難所指定はゴミセンではない。



校区内指定避難所受入れ可能数 (久留米市計)

① 会丸校区コミュニティセンター	100名
② 会丸小学校	300名
③ 大谷会館	500名
④ 西町集会所	50名

5 金丸コミュニティセンター防災備蓄品一覧
 ※ R7年度購入物品

1	防災保箱色印	3箱(1)	
2	防災食(缶詰めパン)	36缶(2食入り)	3年保存
3	防災食(ドライおにぎり)	200個	5年保存
4	備蓄水	200本(500ml)	5年保存
5	防災毛布	20枚(2人用)	5年保存
		30枚(3人用)	
6	折り畳みマット	20枚	
7	ストレッチマット	10枚	
8	非常用照明(充電式)	2機	

2 防災・健康ウォーキングについて

開催日時：2月22(金) 10:00~12:00
 開催場所：小田原市南町金丸コミュセン

(参加内容)
 距離・・・約2.4km
 コース・・・金丸小～小田原駅前
 健康チェック(入館前実施)
 健康出し息車(お楽しみくじあり)
 防災備蓄品展示(コミュセン)



3 安全見守り活動

(学童見守り)
 (自転車宅間内等)
 (登下校時)
 (自転車道等)



4 (街頭防犯カメラによる監視等 (小学校周辺) (館内))

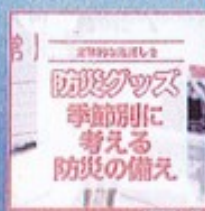


5. その他(コミセン内における防災対策等)


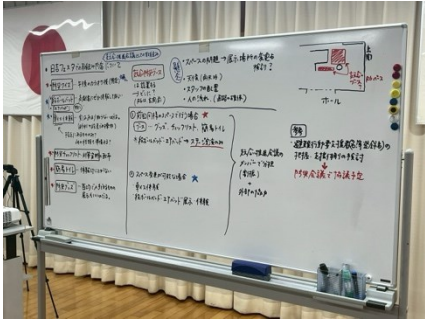
- ・ 屋内共有室に対して、避難経路の確保
(独自利用は別途表示)
- ・ 子どもサークル(学童)に併しては、実際に避難訓練を実施
- ・ 防災イベント開催時には、避難経路(非常口)を黄色テープ等で
表示し、黄色の旗も活用
- ・ コミセンは小規模なため、防災訓練の経路と重複している為、
スムーズな避難経路(非常口)確保が重要
- ・ 防災訓練(アサヒ「まもるくん」のダウンロード(保存資料))
の活用も考えています




ご質問等ありませんか！



■事業内容

事業内容① 地区防災計画ワークショップ(日吉校区)	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>〔定量目標〕</p> <p>校区の既存防災活動の棚卸し項目を 10 項目以上整理する</p> <p>計画化に向けた優先検討テーマを 3 項目以上抽出する</p> <p>校区特性(高層マンション、人口構成等)に基づく具体課題を明文化する</p> <p>〔定性目標〕</p> <p>「既存活動の整理→具体化→計画化」へとつなぐ支援プロセスの実践知を蓄積する</p> <p>都市型校区(高層住宅地域)における防災課題整理手法の知見を得る</p> <p>地域主体で議論が深まるファシリテーション手法を確立する</p>
事業内容①目標 (参加者側)	<p>〔定量目標〕</p> <p>災害時課題(備蓄・高層住宅対応・要支援者支援等)を具体論点として 5 項目以上整理</p> <p>実践につながる具体行動案を 3 案以上抽出</p> <p>今後検討すべき優先テーマを明確化</p> <p>〔定性目標〕</p> <p>備蓄や既存取組を「持っている資源」として再認識する</p> <p>校区特性を踏まえた現実的な防災課題への理解を深める</p> <p>日常の活動・イベントと防災を接続する視点を持つ</p>
事業内容① 実施内容 A (実施日:1/16)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>日吉校区会長および関係者との打ち合わせ形式で、地区防災計画作成に向けた現状整理と課題抽出を行った。</p> <p>これまでの備蓄整備や地域活動の積み重ねを出発点とし、校区の実態に即した課題を可視化した。</p> <p>備蓄については、発電機等が実際に稼働可能な状態にあるか、試運転や定期的な確認が必要であることを共有し、「保有している」から「使える状態にある」への転換を議論した。</p> <p>また、高層マンションが多い校区特性を踏まえ、停電時の階段昇降や物資運搬の課題について具体的な意見交換を行った。</p> <p>避難行動要支援者名簿については、現在把握を進め始めた段階であり、登録のハードルを下げる説明資料の整備や、日頃からの関係性づくりの必要性が議論された。</p> <p>さらに、防災リーダー・防災士の連携と組織化の方向性、日吉フェスタ等のイベントで体験型防災を展開する案など、既存活動を活かした具体化策を検討した。</p>
	<p>写真・図など</p>  

	<p>■成果(提供者) 都市型校区における高層住宅特有の課題や、備蓄運用の実効性確保に関する論点整理の実践知を得た。既存活動が充実している地域において、課題を一段深掘りし具体化へ導く支援プロセスの有効性を確認できた。</p> <p>■成果(参加者) これまでの取組の蓄積を再確認し、日吉校区が持つ防災基盤を共有することができた。備蓄や名簿整備を「形だけでなく実効性あるものにする」という視点が生まれ、抽象的な計画論ではなく、具体的な実践案の抽出へと議論が進んだ。校区特性を踏まえた優先課題が整理され、次の一手が明確になった。</p>	
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 備蓄や名簿整備が進んでいる一方で、実効性検証(試運転・運用訓練)が十分でない 要支援者名簿への登録に心理的ハードルがある 高層住宅特有の課題が具体的行動計画に落とし込まれていない</p> <p>■乗り越えた方法 「実際に使えるか」という問いで議論を具体化 名簿登録の目的やメリットを整理し、説明資料作成の必要性を共有 校区イベントと連動した実践機会を提案し、具体化の方向性を示した</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の取組を否定せず、「積み重ねを活かす」姿勢で議論を展開 ・ 校区特性(高層マンション)に焦点を当て、現実的課題から議論を深めた ・ 計画論に終始せず、「試運転」「イベント活用」など具体行動へ接続 	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>■明らかになった課題(制度・人材・運営体制等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高層住宅対応に特化した運営マニュアルの未整備 ・ 名簿登録に対する心理的抵抗への対応不足 ・ 防災人材の可視化と組織化が未整理 <p>■今後に向けた計画変更・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備蓄品(発電機等)の試運転計画の具体化 ・ 避難行動要支援者名簿登録促進のための説明資料作成 ・ 防災リーダー・防災士の連携体制案の整理 ・ イベント(例:日吉フェスタ)を活用した体験型防災の導入 ・ 備蓄・電源運用の実践訓練を計画に組み込む ・ 平時の関係性づくりを地区防災計画の柱の一つとして明文化 	

2025
久留米市コミュニティ防災教育推進協議会

地区防災計画の基本解説

～みんなで作る地区防災計画～

杉山 高志 (九州大学 大学院人間環境学研究院)

sugiyama.takashi.294@m.kyushu-u.ac.jp

自己紹介

- ・九州大学 大学院人間環境学研究院 都市・建築学部門 准教授
- ・博士 (情報学) : 京都大学防災研究所・非常勤講師、福岡大学工学部・非常勤講師を兼務
- ・社会心理学の観点から地域防災の推進に関する研究を行う。特に、住民の主体性をふまえた防災活動や災害時要配慮者を対象とした避難訓練、ICTを活用した防災活動の手法の開発などを研究している
- ・高知県黒潮町や静岡県沼津市、宮崎県宮崎市、福岡県久留米市などで地域住民や行政、学校、企業と連携して、津波や地震、土砂豪雨防災のアクションリサーチに取り組む
- ・地区防災計画学会・幹事、宮崎県防災会議地震専門部会・専門委員、土佐清水市事前復興まちづくり計画庁内検討委員会・アドバイザー、高知県立大方高等学校・コンソーシアム委員などを務めている

1

2

本日の流れ

(1) 地区防災計画の基本解説

～みんながでつくる地区防災計画～

(2) 校区の「これまで」

～平時・災害時の活動のふりかえり～

(3) 校区の「これから」

～これからの課題の話し合い～

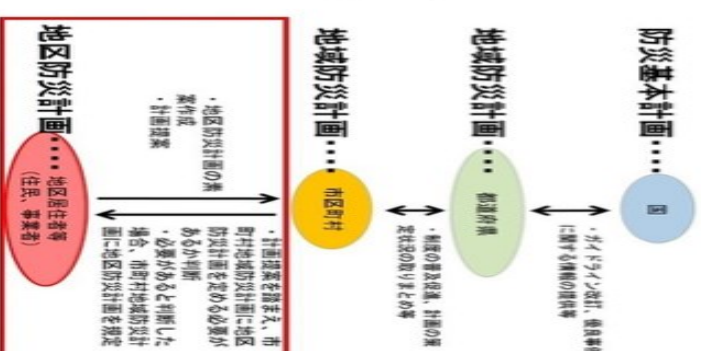
(1) 地区防災計画の基本解説

✓地区防災計画とは、「防災基本計画」
「地域防災計画」にならぶ防災計画の
1つで、**東日本大震災以降に新たに作
られた制度**

✓どこでも、誰でも、いかにようにも作れる
防災計画

✓これまでの行政計画とは一線画す画期的
な概念の計画

✓形式も特に定めはない



<https://www.citysaijoh.com/infocenter/11687>

(1) 地区防災計画の基本解説

- ✓ 「地区防災計画」をめぐって、様々な誤解が生じています

地区防災計画の4つの誤解とポイント

- ✓ 「地区防災計画」を作ることの目的は、**人的・物的被害を減らすこと**
- ✓ その原点に立脚して、右の4つの「誤解とポイント」をまとめました

- ✓ 「地区防災計画」のキレナイ計画書を作ることでありませんが、**明文化することでこれまでの成果と課題を整理**できます

■地区防災計画は行政が行うことではありません。

行政から住民へと防災の思い手を届ける、小さなことでも良いので、**住民**主体で向かとりていくこと、それが地区防災計画です。行政はその手助け役です。

■地区防災計画は計画書を作ることではありません。

計画書やマニュアルなど書類を作ることが目的ではなく、住民の視点、地区の特徴を活かした活動を実際に行うことが地区防災計画です。

■地区防災計画はどの地区でも一冊ではありません。

「お隣では津波避難訓練をしているからうちでも…」ではなく、自分の地区の特徴を生かして、自分の地区にしかない「オウコウ」の活動を作りだす！

■地区防災計画は一度きりで終わりではありません。

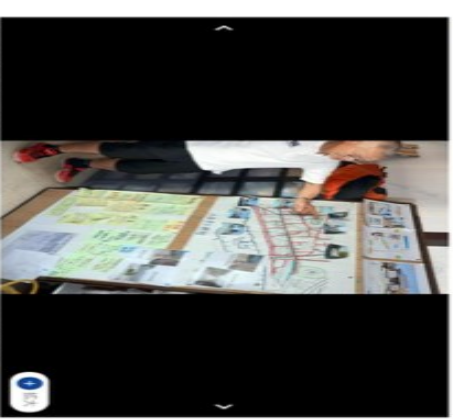
地区防災計画とは、一度何かを實施し終わりでなく、「計画→実施→見直し」を繰り返して、改善を繰り返しながら長期継続していくものです。

(1) 地区防災計画の基本解説

熊本豪雨で命守った「地区防災計画」 元警官ら経験生かし選抜誘導 人吉市上新町

2016/7/25(金) 19:59(更新済)

総合編 熊本豪雨 (2016) | 熊本県 | 熊本市 | 防災



■「地区」「地域」防災計画の関係

「地区防災計画」

自治会町内会
兼 自主防災組織など

- 避難判断、避難所運営など平常時/発災時/災害時など各段階の計画をまとめる
- 危険箇所や避難所などを明示した「防災マップ」を作成

自治会などが地区防災計画を自治体に提案。必要に応じて地域防災計画に盛り込まれる

市町村の「地域防災計画」

<https://www.nishinippon.co.jp/ken/1231556/>

(1) 地区防災計画の基本解説

地区防災計画のつくり方：ものづくりの2つの方法

「①冷蔵庫をみて何をつくるか考える」

プリコラーージュ



地域の素材
得意な方法

あるもので何とかわする

「②レシピを入手し、それに従って料理をつくる」

エンジニアリング版



科学知識—設計—必要が道具・もの—組み立て

(1) 地区防災計画の基本解説

(1) 地区防災計画の基本解説

～みんなで作る地区防災計画～

(2) 宮ノ陣の「これまで」

～平時・災害時の活動のふりかえり～

(3) 宮ノ陣の「これから」

～これからの課題の話し合い～

プリコラーージュ
防災の“種”さがし

トップページ > 防災・防災 > 防災 > 自主防災組織・地区防災計画 > 地区防災計画

令和4年度・5年度地区防災計画作成への取組（京成北、京成南、大曽根北）

令和4年度・5年度地区防災計画作成への取組（京成北、京成南、大曽根北）

申請 更新日：2024年1月15日

令和4年度の取組

【京成北・京成南・大曽根北合同】第1回「勉強会」

令和4年1月7日（曜日）、八潮大センターにおいて、南側の自主防災組織（京成南地区防犯会、京成南地区防犯会、大曽根北地区防犯会）の取組を打ち出し、「地区防災計画作成」を開催しました。

東京大学建築研究所・特別研究員の高山先生から、「地区防災計画について」講義いただきました。

その際、2回に分かれ、自分たちのまちやエリアを分析していただき、災害が起きた際の避難、役に立つことや備えになる備品を出し合い、連絡のやりとりを確認することができました。

講演

- ・地区防災計画は人命・財産被害を減らすために住民主体での取り組みで、計画を作成することが目的ではなく、計画に基づいた活動を定期的に実施、継続することが大事である。
- ・正誤は多く、大それた考え方を真意と誤解があるが、情報から自分たちでできることを学びたいという気持ちで聞いてほしい。



高山先生

地区防災計画

全国自主防災組織協議会（自主防災組織）の成立を支援します。

全国自主防災組織協議会加盟団体（自主防災組織）

全国自主防災組織協議会加盟団体

全国自主防災組織協議会加盟団体

全国自主防災組織協議会加盟団体

全国自主防災組織協議会加盟団体

全国自主防災組織協議会加盟団体

全国自主防災組織協議会加盟団体

このページを見ている人はこんなページも見ています

各団体の概要

京成南 地区防災計画

●対象とする区域：

京成南地区防犯会 区域

●対象者：

京成南地区防犯会の組織で活動する全ての人員



令和6年3月 第1版

団体名：京成南地区防犯会

1. 地区の概要

(1) 地区の特性

①自主防災組織の区域の状況

・面積：277.48㎡（自主防災組織協議会）（令和6年2月現在）

・人口：約40人（令和6年2月現在）

・世帯の総数：4人（自主防災組織協議会）（令和6年2月現在）

・一時避難の全世帯数：3世帯（自主防災組織協議会）

地域	小学校
地域	小学校

・災害発生時で仮設の一時避難先となる場所（自主防災組織協議会）

地域	小学校
地域	小学校

・安全・危険箇所の土地調査（面積）は 約 1.3×1.8 m

・安全・危険箇所の水深・道幅（道幅4m×水深1.0m）は 約 0.5×1.0 m

と調査されている

・団員：令和6年3月現在で70%の団員が住宅に設置されている避難用防災用品

備えについて、避難用品の数は 6箱・（約）全世帯で50%以上70%未満、避難用品の種類は（約）17種類・（約）1・（約）1・（約）1が準備されています。

・「4割」程度は、大規模な地震に備えられた避難用品が、避難用品の備えについて、当該の避難用品は 0.5m以上3m未満（一部3m以上5m未満）、避難用品の種類は 168 種類（7日間）が準備されています。

訓練内容	訓練実施日											
	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
地区別の避難訓練												
正副消防隊長の消防本部をセンターに設置												
各自防炎班ごとに消防隊長が安全確認												
消防隊員伝達報告訓練												
各隊長は消防隊長本部に報告・任務指示受け回すこと												
地区別伝達報告訓練(消防班別等)												
竹之本をセンター消防班別伝達訓練												
心得養生法												
AED活用訓練												
避難火口訓練												
消火器使用の心得火口訓練												
消火器使用の心得火口訓練												
撤去支援(仮退出訓練)												
避難訓練の立ち入り・立ち上がり検査(自主防炎)												

訓練内容	訓練実施日											
	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
地区別の避難訓練												
正副消防隊長の消防本部をセンターに設置	8/31	9/1	7・9/1	7・9/1	8/1	7・9/1	8/1	7・9/1	8/1	7・9/1	8/1	8/1
各自防炎班ごとに消防隊長が安全確認	8/31	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1
消防隊員伝達報告訓練												
各隊長は消防隊長本部に報告・任務指示受け回すこと	8/31	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1	9/1
地区別伝達報告訓練(消防班別等)												
竹之本をセンター消防班別伝達訓練		0			0			0				0
心得養生法			0			0			0			0
AED活用訓練					0			0				0
避難火口訓練												
消火器使用の心得火口訓練	8/31	0		0		0		0		0		0
消火器使用の心得火口訓練	8/31	0		0		0		0		0		0
撤去支援(仮退出訓練)												
避難訓練の立ち入り・立ち上がり検査(自主防炎)	4/13	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1	4/9/1
1日複数訓練(仮退出訓練)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

訓練内容	訓練実施日												
	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	
炎災予防の避難訓練													
正副自治会長・副会長・委員・幹事・役員等による防火訓練													
全戸別荘・分譲・集合住宅等による防火訓練													
消防団による避難訓練													
各町会・自治会・学区・本町・二丁目・三丁目等による防火訓練													
消防団による避難訓練 (消防団指導)													
防火安全委員による避難訓練													
心臓蘇生法													
AEDの活用訓練													
避難訓練													
消防団による訓練													
消防団による訓練・火災出火訓練													
消防団による訓練・火災出火訓練													
消防団による訓練 (消防団指導)													
消防団による訓練・火災出火訓練													

訓練内容	訓練実施日												
	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	
炎災予防の避難訓練													
正副自治会長・副会長・委員・幹事・役員等による防火訓練	8/31	8/1	7・8/1	7・8/2	8/1	7・8/1	8/1	7・8/1	8/1	7・8/1	8/1	7・8/1	
全戸別荘・分譲・集合住宅等による防火訓練	8/31	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	
消防団による避難訓練													
各町会・自治会・学区・本町・二丁目・三丁目等による防火訓練	8/31	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	8/1	
消防団による避難訓練 (消防団指導)													
防火安全委員による避難訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
心臓蘇生法		0			0			0			0		
AEDの活用訓練					0			0			0		
避難訓練													
消防団による訓練													
消防団による訓練・火災出火訓練	8/31	0		0		0		0		0		0	
消防団による訓練・火災出火訓練	8/31	0		0		0		0		0		0	
消防団による訓練 (消防団指導)													
消防団による訓練・火災出火訓練・AED	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	4/13	
消防団による訓練 (消防団指導)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

本日の流れ

(1) 地区防災計画の基本解説

～みんなで作る地区防災計画～

(2) 校区の「これまで」

～平時・災害時の活動のふりかえり～

(3) 校区の「これから」

～これからの課題の話し合い～

27

本日の流れ

(1) 地区防災計画の基本解説

～みんなで作る地区防災計画～

(2) 校区の「これまで」

～平時・災害時の活動のふりかえり～

(3) 校区の「これから」

～これからの課題の話し合い～

28

まとめ～地区防災計画の大事なポイント～

100点満点の防災をすることは

できないけれども

何かしなけば0点

29

まとめ～地区防災計画の大事なポイント～

食欲は

食べているうちにかいてくる

防災も

やっているうちにかいてくる

30

■事業内容




事業内容②:避難訓練(障害者対象)	
事業内容②目標 (提供者側)	視覚障害者に対応した避難訓練の方法・ノウハウを蓄積する さわるハザードマップなど教材作成・運用の知見を整理し、今後の実施に活かす 災害時における多様な参加者の意見や行動パターンを収集・分析し、普及・改善に反映する
事業内容②目標 (参加者側)	視覚障害者など、多様な立場での避難行動や情報取得の方法を理解 災害時の自らの行動や周囲への協力について考えるきっかけを得る さわるハザードマップを通じて、地域の危険箇所や避難先について共通理解を深める
事業内容② 実施内容 A (実施日:12/7)	<p>(実施日:2025年12月7日)</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>会場:子育て交流プラザくるるん 参加者:視覚障害のある当事者と支援者</p> <p>「さわるハザードマップ作り」のワークショップを実施 地図を触りながら、自宅・避難所・目印となる建物や場所を確認 指定避難所以外の避難先や小規模な川など地域の「生きた情報」を共有 地図を共通の媒体とし、日常生活や災害時の困りごとなども話し合い</p> <p>■成果(提供者/参加者)</p> <p>【提供者側】 障害者視点の情報整理や地図活用のノウハウを蓄積 避難訓練や防災教材作成の改善点・工夫点を把握</p> <p>【参加者側】 視覚障害者が触覚で把握できる避難情報の理解を深める 災害時の行動の選択肢や生活上の配慮点を学ぶ 地域の危険箇所や避難先に関する情報を共有し、共通理解を得る</p>
事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>会場情報の事前確認不足により、施設名や設備の確認が不十分 初めて参加する障害者当事者にとって、地図の使い方の理解に時間を要した</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>当日現地を訪問し、必要な設備や配置を調整 支援者が個別にサポートし、触覚による地図理解を補助</p>
事業内容②を実施する上で工夫した点	<p>地図を共通媒体として使用し、視覚障害者と健常者の対話を促進 日常生活の困りごとや地域情報も共有する時間を確保 ワークショップ形式で参加者が主体的に意見を出せる環境を整備</p>

写真・図など







事業内容② 残課題等	施設や会場に応じた事前確認の徹底 さわるハザードマップの精度向上と地域全体への普及 外国人参加者への言語・情報サポート方法の検討 災害時の支援体制・人材配置の計画策定
---------------	--

■事業内容

事業内容②:防災教育プログラム(子ども・親子防災)	
事業内容②目標 (提供者側)	子ども・親子向けの体験型防災教育プログラムの実践知を蓄積する 「作る・比べる・持ち帰る」構成による、防災を自分ごと化する手法を検証する 学校・地域行事(土曜塾)と連携した防災教育モデルを構築する
事業内容②目標 (参加者側)	災害時に必要な備え(明かり・トイレ)について、体験を通して理解する 防災を家庭に持ち帰り、親子で話し合うきっかけを得る 「自分の身を守るためにできること」を考える視点を育む
事業内容② 実施内容 A (実施日:11/29)	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>子ども向け防災ワークショップ(LED ランタン・簡易トイレ) (実施日:2025年11月29日)</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>大城校区で開催された「土曜塾 防災イベント」に参加し、子ども 51 名を対象に体験型防災ワークショップを実施した。</p> <p>LED ライトとペットボトルを使ったランタン作りでは、水あり・水なしを比較し、光の広がり方や明るさの違いを体感してもらった。</p> <p>続いて、災害時に重要となるトイレ確保について説明し、家庭で備えとして活用できる簡易トイレを制作・持ち帰ってもらった。</p> <p>■成果</p> <p>【参加者側】 災害時の「明かり」「トイレ」の重要性を、体験を通して理解できた 作成した防災用品を家庭に持ち帰ることで、防災を身近なものとして捉えるきっかけとなった</p> <p>【提供者側】 子ども向けには「比較」「体験」「持ち帰り」が理解促進に有効であることを確認できた 土曜塾との連携により、多くの子どもに防災教育を届ける手法を蓄積でき</p> </div> <div style="flex: 1; vertical-align: top;"> <p>写真・図など</p>    </div> </div>
事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>防災の背景説明を簡潔にしないと、子どもの集中が続かない場面があった 親の参加度に差があり、家庭内での共有度合いにばらつきが生じる可能性がある</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>説明を最小限にし、「見て・触って・比べる」体験を中心に進行した 持ち帰り品を通じて、家庭での会話につながる導線確保した</p>

事業内容②を実施する上で工夫した点	難しい防災知識ではなく、身近な材料を使った体験型プログラムとした 完成品を持ち帰れる構成とし、家庭内での防災意識の波及を意識した
事業内容② 残課題等	親子参加型としての関わり方を、より意図的に設計する必要がある 年齢差に応じたプログラム難易度の調整が今後の課題である 単発で終わらず、継続的な学びにつながる仕組みづくりを検討する必要がある

■事業内容

事業内容②:防災教育プログラム(防災クエスト「キッズ防災士になろう！」)	
事業内容②目標 (提供者側)	子ども・親子向けの体験型防災教育プログラムの実践知を蓄積する 「自助・共助」を体験的に学ぶ防災教育モデルを検証する 学校・地域行事(土曜塾)と連携した防災教育モデルを構築する
事業内容②目標 (参加者側)	災害時に命を守るための行動や備えについて理解する 防災を「知識」ではなく「自分ごと」として捉える視点をもつ 地域の一員として、防災・減災に関わろうとする意識を育む
事業内容② 実施内容 A (実施日:1/24)	<p>防災クエスト「キッズ防災士になろう！」</p> <p>実施日:2026年1月24日(土)10:00~11:30</p> <p>実施場所:荘島校区コミュニティセンター(和室・屋外)</p> <p>対象:小学生(学年混合) 約10名</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>荘島校区コミュニティセンターにて、小学生を対象とした体験型防災教育プログラム「防災クエスト『キッズ防災士になろう！』」を実施し、「自分ごと」として防災を捉えることを重視して、以下の流れで活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションにて、防災が特別な人のものではなく、自分にもできる行動があることを共有 ・災害の種類や災害情報について、専門用語を避けた短時間の講義を実施 ・自助の学びとして、防災マップ作りや持ち出しバッグチェックを行い、自分や家族の行動を具体的に考える活動を実施 ・共助の学びとして、避難所を想定したゲーム形式のワークを行い、思いやりや役割分担について話合う ・防災スキル体験として、火おこし体験および水ろ過体験を行い、非常時に役立つ基本的な技術を体験 ・最後にふりかえりと認定式を行い、学びを言語化して締めくくった <p>■成果</p> <p>【参加者側】</p> <p>災害時の行動や備えについて、体験を通して具体的に理解することができた</p> <p>「自分にもできる役割がある」という認識を持ち、防災を前向きに捉える姿が見られた</p> <p>家族と防災について話し合うきっかけを得ることができた</p> <p>【提供者側】</p> <p>防災教育においては、短い講義と体験活動を組み合わせる構成が有効であることを確認できた</p>
	<p>写真・図など</p>    

	<p>自助・共助を分けて体験させることで、子どもが防災を多面的に理解しやすくなることが分かった</p> <p>少人数・学年混合での実施が、意見交流を促進することを確認できた</p>	
事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>防災に関する背景説明が長くなると、子どもの集中が続きにくい場面があった</p> <p>学年差により、活動の理解度や発言量に差が生じる場面が見られた</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>説明は最小限にし、「考える・選ぶ・話す」体験を中心に進化した</p> <p>正解を求めるのではなく、「なぜそう考えたのか」を聞き取る関わりを意識した</p>	
事業内容②を実施する上で工夫した点	<p>専門的な防災知識ではなく、身近な地域や生活を題材にした内容とした</p> <p>ゲーム形式や体験活動を多く取り入れ、楽しさと学びの両立を図った</p> <p>子どもを「未来の被災者」ではなく「未来の支え手」として扱う視点を大切にしたい</p>	
事業内容② 残課題等	<p>年齢差に応じた活動難易度の調整が今後の課題である</p> <p>単発の体験にとどまらず、継続的な防災学習につながる仕組みづくりが必要である</p> <p>家庭や地域とより強く接続するプログラム設計を検討する必要がある</p>	

プログラム活動計画書

プログラム名: 防災クエスト「キッズ防災士になろう！」

目的: 児童が防災・減災に関する学習および体験活動を通して、以下の力を身につけることを目的とする。

あわせて、将来にわたり社会で主体的に行動し、地域に貢献できる人材の育成を目指す。

1. 災害時において自らおよび家族の命を守るため適切な避難行動をとるための知識と行動について知る。
2. 防災に関する課題について、自ら学び・考え・主体的に判断し行動するとともに他者と話し合いながら問題解決する力を身につける。
3. 自らを地域社会の一員として捉え、地域と関わりながら防災・減災に働きかけようとする態度を育む。

主な活動場所: 荘島校区コミュニティセンター（和室、外）

所要時間: 約 90 分（1/24(土)10:00～11:30）

対象: 小学生（学年混合を想定）10 名程度

子ども準備するもの: 水筒、筆記用具

活動内容・カリキュラム:

- ①オリエンテーション
- ②講義: 災害の仕組み・災害情報について
- ③自助: 防災マップ作り、持ち出しバッグチェック
- ④共助: 避難所を考えるゲーム
- ⑤防災スキル体験
- ⑥まとめ・ふりかえり

活動の共通認識

●全体を通して大切にしたいこと(指導者向け)

- ・教えずぎない、怖がらせない、でも「自分ごと」にはする
- ・子どもを“未来の被災者”ではなく“未来の支え手”として扱う
- ・楽しい体験 ≠ 学びのつながりを大切にする。

●安全管理・配慮事項

- ・火おこし体験等の実技については、指導者が必ず立ち会い、安全管理を徹底する。
- ・児童の理解度に配慮し、専門用語は使わず、図や具体例を用いて説明する。
- ・全員が意見を出しやすいよう、少人数グループでの活動を基本とする。


●キッズ防災士育成について

- ・終了後にキッズ防災士認定書を発行し、2/14(土)にお手伝いに来てくれた子には防災士の名札を渡す
- ・子どもを“未来の被災者”ではなく“未来の支え手”として扱う

時間(場所)	子どもたちの活動	スタッフの動き	備考
9:00 (コミセン)		準備、全体確認	
9:40 (和室)	・受付 ・時間まで待機	受付開始、子どもの対応と受付 名札をつける(テーブルに呼ばれたい名前)	トイレや水飲みは各自
10:00~ (和室)	オリエンテーション(5分) ・「防災」は特別な人だけのものではなく、自分にもできることがあると理解する。 ・今日のゴールが「正解を覚える」ではなく、考えて、話して、行動できるようにすることだと知る。	オリエンテーション:担当() ・自己紹介 ・プログラムの目的や流れを説明し、「キッズ防災士」として学ぶ意義を共有する。参加児童が安心して活動に取り組めるよう、簡単な導入を行う。	
10:05~ (和室)	講義:災害の仕組み・災害情報(10分) ・災害には種類があり起こり方が違うこと、災害は突然ではなく、前ぶれ(情報)があることが多い、情報を知ること、命を守る行動が早くなることを知る。	講義:災害の仕組み・災害情報:担当() ・地震・風水害・土砂災害など、身近な災害の仕組みについて分かりやすく解説する。また、警報・注意報やハザードマップなどの災害情報について紹介し、「情報を知ることが命を守る行動につながる」ことを学ぶ。	・ワークシート配布
10:15~ (和室)	自助:防災マップ作り(10分) ・荘島の地図に避難所をマークし、自宅からのルートや危険な箇所を考える。 ・避難は「家族と一緒に考えること」だと理解する。 ・自分の住んでいる地域に危険と安全の両方があることを知る。 自助:持ち出しバッグチェック(10分) ・非常時に何を持ち出すかを選んで理由を考えるワークをする。 ・「物」だけでなく、人の動き(役割分担)が大切で自分の年齢でも役割を持つことを理解する。	自助:防災マップ作り:担当() ・自分の家や地域を想定しどこに避難するのか、どの道を通るのが安全かを考え、防災マップとしてまとめる活動。 自助:持ち出しバッグチェック:担当() ・非常持ち出し袋に入れる物について考えるワークをさせる。あわせて、家庭内で「誰が何をするか」という役割分担についても考え、災害時に備える視点を伝える。	・ワークシート配布 ・自分自身の行動を具体的にイメージすることで、自助の意識を高める。 ・「正しい」ではなく「なぜそう考えたか」を聞いて深める。
10:35~ (和室)	休憩(5分) 水分補給	休憩 ・水分補給	トイレや水飲みは各自

10:40～ (和室)	<p>共助：避難所を考えるゲーム（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で起こり得るさまざまな状況が「テーマ」として提示され、それに対して必要な避難所の役割や設備を組み合わせて考えるゲーム形式の活動を行う。また、知識の組み合わせだけでなく、自分にできる思いやりの行動みんなが安心して過ごすための工夫を自由に提案し、参加者同士で話し合う。 	<p>共助：避難所を考えるゲーム：担当（ ）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①テーマが書かれているカードを1枚出す ②課題解決のために場所・ものであったらいいなと思うカードを1枚ずつ選ばせる ③自分ができるものでこうしたらいいかなと考えた思いやりや行動を一言ずつ話させる ④アドバイスや事例などを簡単に話すということをくりかえす。 <p>・手があいているスタッフは外の準備、確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート配布 ・避難所では「困る人」がたくさんいる、助ける方法は、物だけでなく行動や声かけもある、人によって困りごとが違うことなどを知る。
11:55～ (外)	<p>休憩・移動（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水分補給後に移動 	<p>休憩・移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水分補給後に移動 	<p>トイレや水飲みは各自</p>
11:05～ (外)	<p>防災スキル体験（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火おこし体験：マッチ棒やファイヤースターターを使い、火を起こす体験を行う。 ・水ろ過体験：安全な水を確保するための方法を学び簡易的な水ろ過を実際に体験する。 ・時間になったら和室に移動 	<p>防災スキル体験：担当（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に火おこしと水のろ過を体験させる。 ・両方の説明を行い、やってみたいところに移動させ体験させる。（途中で場所移動可） ・火おこしはアルミ皿の中にティッシュを入れて火をつけさせる 	<p>安全に配慮しながら、非常時に役立つ基本的な知識と技術を学ぶ。</p> <p>雨の場合は水ろ過のみをブルーシートをひいて和室で行う。</p>
11:20～ (和室)	<p>まとめ・ふりかえり（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想・アンケートの記入を行う。 ・活動を振り返り、「学んだこと」を言葉にして締めくくる。 	<p>まとめ・ふりかえり：担当（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想・アンケートの記入 ・感想交流 ・草場さん、鬼尾さんから一言 	<p>感想・アンケート用紙の配布</p>
～11:30	<p>閉会式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定書をもらう。 ・事務連絡の確認 ・全体写真撮影 ・片付けして解散 	<p>閉会式：担当（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キッズ防災士認定書の配布 ・今後の防災クエスト（2月14日の運営のお手伝い）への協力依頼 ・全体写真撮影 ・終了の挨拶 ・片付け 	

■事業内容

事業内容②:防災教育プログラム(楽しく体験して学ぼう!「防災クエスト」)	
事業内容②目標 (提供者側)	子ども・親子向けの体験型防災教育プログラムの実践知を蓄積する ブース型・スタンプラリー形式による防災教育モデルを検証する 「キッズ防災士」が活躍する学び合い型防災教育の手法を構築する 学校・地域行事(土曜塾)と連携した防災教育モデルを構築する
事業内容②目標 (参加者側)	災害時に必要な行動や備えについて、体験を通して理解する 防災を「知る」だけでなく、「考え、行動する」ものとして捉える 地域の中で助け合う防災・減災の視点を育む
事業内容② 実施内容 B (実施日:2/14)	<p>楽しく体験して学ぼう!「防災クエスト」</p> <p>実施日:2026年2月14日(土)15:00~17:00</p> <p>実施場所:荘島小学校(体育館・校庭)</p> <p>対象:小学生以下(親子)、小学生、地域住民 人数:130名程度</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>荘島小学校を会場に、親子および小学生を対象とした体験型防災イベント「楽しく体験して学ぼう!防災クエスト」を実施した。</p> <p>会場内には複数の防災体験ブースを設置し、参加者はスタンプラリー形式で各ブースを巡りながら、防災に関する体験活動に取り組んだ。主な体験内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボール迷路を避難経路に見立てた防災クイズ体験 ・防災マップ作りによる、地域の避難所や危険箇所への理解 ・非常時持ち出しバッグや防災グッズの展示見学 ・簡易避難所の再現展示(一般・要配慮者の違いの比較) ・避難所カードゲームや防災グッズ作り等の共助体験 ・火おこし体験、水のろ過体験、救急救命(簡易 AED)体験 ・地震体験車・消防車展示、炊き出し体験 <p>また、1月24日の防災クエストで認定された「キッズ防災士」が一部ブースの案内補助を担当し、子ども同士の学び合いが生まれる運営とした。</p> <p>■成果</p> <p>【参加者側】</p> <p>防災に関する知識を、遊びや体験を通して自然に身につけることができた</p> <p>避難行動や備えについて、自分や家族の行動を考えるきっかけとなった</p> <p>年齢の異なる子ども同士の関わりを通して、助け合いの意識が育まれた</p> <p>【提供者側】</p>
	<p>写真・図など</p>    

	<p>スタンプラリー形式により、参加者が主体的に体験へ取り組む様子が見られた</p> <p>キッズ防災士が関わることで、学びが一方向にならず、子ども同士の対話が促進された</p> <p>大規模会場におけるブース型防災教育の運営手法を蓄積することができた</p>	
事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <p>年齢層が幅広く、一部の体験では理解度に差が生じた</p> <p>来場者数が多く、ブースによっては待ち時間が発生した</p> <p>■乗り越えた方法</p> <p>小学生以下の児童には見学のみで参加できるブースを設け、無理なく体験できる構成とした</p> <p>スタッフおよびキッズ防災士が柔軟に声かけを行い、滞留の調整を行った</p>	
事業内容②を実施する上で工夫した点	<p>難しい防災知識ではなく、体を動かしながら学べる体験を中心に構成した</p> <p>防災を難しいものにせず、楽しく前向きに学べる雰囲気づくりを重視した</p> <p>子どもを「未来の被災者」ではなく「未来の支え手」として扱う視点を徹底した</p>	
事業内容② 残課題等	<p>年齢や理解度に応じた体験内容のさらなる段階化が必要である</p> <p>単発イベントにとどまらず、継続的な防災学習につながる導線づくりが課題である</p> <p>家庭や地域と連動した防災教育への発展を検討する必要がある</p>	

2026年2月14日

スケジュール

内閣府の皆様による視察については、防災クエストの実施に先立ち、久留米市内における「小さな拠点」をテーマに、本業に加えた+αの取組を行っている事業所を中心にご案内する予定としております。

地域に根ざした事業の実際の運営状況や、多様な主体が関わる拠点づくりの現場をご覧いただきたいと思います。また、活動の一つでもある防災クエストにご参加いただきます。

(スケジュール)

10:00 JR久留米駅にお迎え

～久留米市内の小さな拠点本業+α事業所周り～

10:30 みんなのサロン SORA
<https://minnano-sora.com>

12:30 (昼食) からいち久留米店
<https://hongyo-project.com/base/karaichi/>

14:30 ぷらっと、荘島
<https://hongyo-project.com/base/puratto/>

15:00 防災クエスト (荘島小学校)

17:00 JR久留米駅にお送り

プログラム活動計画書

プログラム名; 楽しく体験して学ぼう!「防災クエスト」

目的; 児童が防災・減災に関する学習および体験活動を通して、以下の力を身につけることを目的とする。

あわせて、将来にわたり社会で主体的に行動し、地域に貢献できる人材の育成を目指す。

1. 災害時において自らおよび家族の命を守るため適切な避難行動をとるための知識と行動について知る。
2. 防災に関する課題について、自ら学び・考え・主体的に判断し行動するとともに他者と話し合いながら問題解決する力を身につける。
3. 自らを地域社会の一員として捉え、地域と関わりながら防災・減災に働きかけようとする態度を育む。

主な活動場所; 荘島小学校 (体育館、校庭)

所要時間; 約 120 分 (2/14(土)15:00~17:00) ※チラシ記載 15:00~16:45

対象; 小学生以下 (親子)、小学生

活動内容・カリキュラム;

会場内に複数の防災体験ブースを設置し、児童がスタンプラリー形式で順に体験する。

体験を通して「知る → 考える → 行動する → 誰かに伝える」を実感する構成で、一部ブースでは、事前に認定された「キッズ防災士」が案内補助を担当し、児童同士の学び合いを取り入れる。

活動の共通認識

●全体を通して大切にしたいこと(指導者向け)

- ・教えずぎない、怖がらせない、でも「自分ごと」にはする
- ・子どもを“未来の被災者”ではなく“未来の支え手”として扱う
- ・楽しい体験 * 学びのつながりを大切にする。

●安全管理・配慮事項

- ・火おこし体験等の実技については、指導者が必ず立ち会い、安全管理を徹底する。
- ・児童の理解度に配慮し、専門用語は使わず、図や具体例を用いて説明する。
- ・全員が意見を出しやすいよう、少人数グループでの活動を基本とする。

●キッズ防災士育成について

- ・1/24(土)のキッズ防災士から、2/14(土)にお手伝いに来てくれた子には防災士の名札を渡す

※駐車場確認

※コミセンチラシ配布

※基本的に担当者が道具等を確認・用意しておく

時間(場所)	子どもたちの活動	スタッフの動き	備考
13:00 (体育館)		<ul style="list-style-type: none"> ・準備、全体集合 ・食材切り出し・片付け(家庭科室) ※家庭科室での切り出しは衛生上OKか? ・防災関係の車両案内:担当() 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からボランティアを募集する ・受付は銀杏の木前 雨の場合は児童玄関 ・トイレは体育館
14:30 (体育館)	キッズ防災士:担当()	運営で全体確認 <ul style="list-style-type: none"> ・受付:スタンプラリーの台紙・水配布、ゴミ袋設置、救護セット、参加人数カウント 	
15:00~ (体育館) 16:45 過ぎに人を見て撤収作業を進める	ダンボール迷路+防災クイズ <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールで作った迷路を「避難経路」に見立てて通過 ・迷路の途中にあるクイズを解きながら進みスタッフに答えを伝えてサインをもらう。 防災マップ作り <ul style="list-style-type: none"> ・簡略化した地域マップに避難所と危険箇所を印をつける。 ・作り終わったらスタッフに見せてサインをもらう。 非常時持ち出しバッグチェック+展示 <ul style="list-style-type: none"> ・実物の非常持ち出しバッグを見る。 ・カードやイラストを使って「入れる/入れない」を考えるワークをする。 ・作り終わったらスタッフかキッズ防災士に見せてサインをもらう。 避難所再現展示+避難所を考えるゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・簡易避難所を再現したのを見る。(段ボールベッド、簡易トイレ、仕切り等) ・一般と要配慮者(高齢者・乳幼児・障がいのある人)を見比べる。 ・テーマカードを使った避難所ゲームを行い、自分の意見をスタッフかキッズ防災士に伝えてサインをもらう。(小学生以上) 救急救命体験(簡易AED) <ul style="list-style-type: none"> ・人形を使った簡易AED体験をする。 ・体験後、スタッフにサインをもらう。 	ダンボール迷路+防災クイズ:担当() <ul style="list-style-type: none"> ・クイズは〇× ・子どもがクイズの答えを伝えてきて正解の場合は台紙にサインする。 防災マップ作り:担当() <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップを持ってきた子どもの台紙にサインする。 ・自宅を書かせることはしない、家で保護者と話す材料にする。 非常時持ち出しバッグチェック+展示:担当() <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの台紙にサインする。 ・時間があればなぜそれを入れたのかを聞いてみる。防災は物だけでなく「人の動き」が重要で、年齢に応じた役割があることに気づかせる。 避難所再現展示+避難所を考えるゲーム:担当() <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えがある子どもの台紙にサインする。 ・小学生以下は展示見学でサインする。 ・困っている人に気づく視点が大切、思いやりの行動も立派な防災行動だということに気づかせる。 救急救命体験(簡易AED):担当(新荘さん) <ul style="list-style-type: none"> ・体験後、子どもの台紙にサインする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷路の入口に説明をつける。 ・机と椅子を出して場所をつくり説明をつける。 ・机と椅子を出して場所をつくり説明をつける。 ※レンタル可能か? ・簡易避難所を設置する。 ※レンタル可能か? ・机と椅子を出して場所をつくり説明をつける。 ・机と椅子を出して場所をつくり説明をつける。

<p>15:00～ (校庭)</p> <p>16:45 過ぎに人を見て撤収作業を進める</p>	<p>水のろ過体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な水を確保するための方法を学び簡易的な水のろ過を実際に体験する。 ・体験後、スタッフにサインをもらう <p>火おこし体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチ棒やファイヤースターターを使い、火を起こす体験を行う。 ・体験後、スタッフにサインをもらう 	<p>水のろ過体験：担当（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験後、子どもの台紙にサインする。 ・飲める水と飲めない水がある、工夫することで命を守れることを体験を通して伝える。 <p>火おこし体験：担当（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験後、子どもの台紙にサインする。 ・火おこしはアルミ皿の中にティッシュを入れて火をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サインする時に見本と正しい知識を伝える。 ・雨の場合はなし ・安全に配慮しながら、非常時に役立つ基本的な知識と技術を伝える。 ・雨の場合はなし
<p>15:00～ (校庭)</p> <p>16:45 過ぎに人を見て撤収作業を進める</p>	<p>炊き出し(豚汁)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリー完了後、炊き出しをもらって食べる。 	<p>炊き出し(豚汁)：担当（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタンプラリー完了者に提供。 ・アレルギー表示は行っておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想・アンケートを実施。(QRコード、紙) ・雨の場合はテントを張る ・受付の近くに配置
<p>17:00～ (体育館) (校庭)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズ防災士：担当（ ） <p>片付け</p> <p>※17:00 までの下校</p>	<p>片付け：最終確認（ ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館：机椅子、トイレ掃除、モップ掛け ・校庭：テント回収、ゴミ拾い ・家庭科室：水切りまで ・防災関係の車両案内：担当（ ） ・終わり次第全体集合、解散 	<p>アンケート協力お願い 後日、オンラインでふりかえり</p>

■事業内容

事業内容②:防災教育プログラム(炊き出し講座)		
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な地域環境・設備条件に応じた炊き出し運営ノウハウを蓄積する ・高温時・長時間提供・大量調理など、災害時に想定されるリスクへの対応力を高める ・LP ガス・非常用発電機など、地域インフラを活用した実践的訓練モデルを構築する ・地域住民・学生・企業・行政など、多主体協働による炊き出し体制の確立 ・住民主体の運営モデル(役割分担・調理指導・衛生管理)の標準化 ・不確実な状況下での意思決定・オペレーション構築力の向上 	
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に必要な「自助・共助」の理解を深め、地域での役割を自覚する ・大鍋調理・衛生管理・火力調整など、炊き出しに必要な実践スキルを習得する ・多世代・多文化協働を通じた地域コミュニティ力の向上 ・災害時の限られた資源での調理(寄付食材活用等)を体験し、応用力を高める ・行政設備(LP ガスバルク供給システム等)の理解を深め、地域防災力を強化する ・学生にとっては、企画・運営・改善のプロセスを学ぶ実践教育の機会となる 	
事業内容① 実施内容 A (実施日:10/26)	<p>篠山校区炊き出し(第1回)</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>篠山小学校にて地域社協と協働し、住民提供の食材を用いてカレー250食を炊き出し。住民主体の調理体制を構築し、白米の炊飯方法を「エバト方式」に変更</p> <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供者側:高温下での温度管理ノウハウを獲得。住民主体運営のモデルを確立 ・参加者側:調理技術の習得、地域連携の強化、役割分担の経験値向上 	<p>写真・図など</p> <p>別紙添付</p>
事業内容① 実施内容 B (実施日:11/16)	<p>かなマルシェ(金丸校区)(第2回)</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>地域住民と協働し200食を提供。調理・販売の大部分を住民が担当し、提供者は見守り役に徹した</p> <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供者側:住民主体運営の成熟度を確認 ・参加者側:調理・販売の実践経験を獲得し、地域の協働意識が向上 	<p>写真・図など</p> <p>別紙添付</p>

<p>事業内容① 実施内容 C (実施日:11/23)</p>	<p>旧青峰小学校「わっしょい 2025」(第 3 回) ■具体的な取り組み内容 中学生ボランティアやネパール出身の元カレー店経営者と協働し、カレー 200 食を提供 ■成果 ・提供者側:多文化・多主体協働の運営モデルを確立 ・参加者側:専門知識を学び、地域外の人材との協働経験を獲得</p>	<p>写真・図など 別紙添付</p>
<p>事業内容① 実施内容 D (実施日:12/4)</p>	<p>久留米ガス炊き出し訓練(第 4 回) ■具体的な取り組み内容 LP ガスを使用した炊き出し訓練を実施し、社員昼食として 100 食を提供。ラグビーチーム関係者も視察 ■成果 ・提供者側:LP ガス使用時の火力・分量調整の知見を蓄積 ・参加者側(企業):災害時の炊き出し運営の理解が深まり、企業防災力が向上</p>	<p>写真・図など 別紙添付</p>
<p>事業内容① 実施内容 E (実施日:10/26)</p>	<p>竹野校区(第 5 回) ■具体的な取り組み内容 住民主体の防災炊き出しとして 145 食を提供 男性住民や子どもが積極的に参加し、多世代協働を実現 ■成果 ・提供者側:長時間開催時の衛生管理・提供方法(プッシュ型)のノウハウを獲得 ・参加者側:地域の防災意識が向上し、子どもを含む多世代の役割参加が促進</p>	<p>写真・図など 別紙添付</p>
<p>事業内容① 実施内容 F (実施日:10/26)</p>	<p>くるめウス(第 6 回) ■具体的な取り組み内容 学生主体で寄付食材を活用したパエリア炊き出しを実施 不確実な状況下での即興的オペレーションを構築 ■成果 ・提供者側:不確実性への対応力・意思決定力が向上 ・参加者側(学生):企画・調理・運営の全工程を経験し、災害対応力が向上</p>	<p>写真・図など 別紙添付</p>

<p>事業内容① 実施内容 G (実施日:10/26)</p>	<p>みずま総合支所(第7回)</p> <p>■具体的な取り組み内容 災害対応型LPガスバルク供給システムと非常用発電機を活用し、行政・企業・市民団体の三者合同訓練を実施。100食を提供。</p> <p>■成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提供者側:行政設備を活用した実践的訓練モデルを確立 ・参加者側(行政):設備操作の理解が深まり、災害対応力が向上 	<p>写真・図など</p> <p>別紙添付</p>
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温下でのカレー腐敗リスク ・事前準備数の不足・需要予測の難しさ ・後片付けに住民・職員が関われないケース ・学生企画の不在・備品不足などの運営トラブル ・LPガス使用時の火力調整・分量見積もりの難しさ ・長時間開催時の衛生管理と在庫管理 ・容器サイズ・数量のミスマッチ <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鍋の移動・日陰確保・短時間提供などの温度管理強化 ・放送・拡声器による迅速な配布促進 ・プッシュ型配食で長時間提供の衛生リスクを軽減 ・予備備品・釣銭セットの投入で運営を継続 ・追加火入れ・蒸らし工程の調整で品質を確保 ・予行練習で分量を再計算し、本番に反映 ・住民・学生・企業・行政の役割を明確化し、協働体制を強化 	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の運営を徹底し、提供者は「支援・見守り役」に徹する ・多文化・多世代の協働を促す仕組みを導入 ・災害時を想定し、あえて不確実な状況での調理・運営を実施 ・LPガス・発電機など、地域インフラを活用した実践的訓練を組み込む ・役割分担(ご飯・カレー・福神漬け等)を明確化し、混乱を防止 ・防災講話を組み込み、単なる炊き出しで終わらせない教育型プログラムへ発展 ・記念撮影や交流時間を設け、参加者の連帯感を醸成 	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>■明らかになった課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温・長時間提供時の衛生管理体制の強化 ・需要予測の精度向上と、提供終了時間までの在庫維持 ・後片付けを含む住民・職員の役割分担の明確化 ・LPガス設備の運搬・設置体制の確立(専門業者依存からの段階的自立) 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・外部団体との連携時の備品仕様・数量の事前照合フローの整備 ・特殊設備(LP ガスバルク供給システム)の操作スキル継承 ・地域ごとの設備差を踏まえた独自の炊き出し体制構築 ■今後に向けた計画変更 ・事前調査・参加者数予測の仕組みを導入し、食数計画を精緻化 ・住民・学生・企業・行政の役割分担を標準化した「炊き出し運営マニュアル」を作成 ・設備の有無に応じた複数の炊き出しモデル(LP ガス型／薪型／移動式ガス型)を整備 ・事前照合チェックリストを作成し、備品・資材のミスマッチを防止 ・後片付けまで含めた「完全版オペレーションフロー」を構築 ・高温期の衛生管理マニュアルを強化し、温度管理の基準を明確化事前参加把握の仕組み導入 <p>季節別運営マニュアル作成</p> <p>地域リーダー育成型講座への発展</p>
--	---

1. 10/26 篠山校区

4. 12/4 久留米ガス



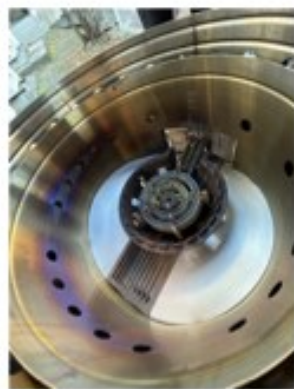
5. 12/20 竹野校区



6. 12/21 くるめウス



7. 1/14 みずま総合支所




事業内容②:避難訓練(防災講座(専門家))

<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<p>専門的知見を活かした思考型防災教育(判断・意思決定)の実践手法を蓄積する 学校現場と連携した防災講座の運営ノウハウを整理する ワークショップ形式による参加型防災教育の効果を検証する</p>	
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<p>地震災害を「自分事」として捉え、事前に考える姿勢を身につける 災害時に正解のない判断を迫られる場面があることを理解する 他者の考えを知り、多様な視点から判断する力を養う</p>	
<p>事業内容② 実施内容 A (実施日:12/5)</p>	<p>防災講座(クロスロード・ワークショップ) (実施日:2025年12月5日)</p> <p>■具体的な取り組み内容 久留米市立諏訪中学校において、防災学習の一環として、地震災害をテーマにした「クロスロード」を用いたワークショップを実施した。 東日本大震災から15年という節目を踏まえ、災害を実感しにくい世代に対し、災害時の判断や選択を疑似体験する機会を提供した。 提示された事例に対して「YES/NO」で意思表示を行い、その理由を共有しながら、生徒同士および教員も交えた意見交換を行った。</p> <p>■成果</p> <p>【参加者側】 災害時には明確な正解がない判断が求められることを理解するきっかけとなった 自分とは異なる考え方や立場に触れ、判断の多様性を学ぶことができた</p> <p>【提供者側】 中学生を対象とした思考型防災教育において、クロスロード手法が有効であることを確認できた 教員参加型とすることで、多角的な視点を引き出す運営方法の知見が得られた</p>	<p>写真・図など</p> 
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 災害経験のない世代に対し、災害の切迫感をどう伝えるかが課題となった 限られた時間の中で、十分に意見を深めきれない場面があった</p> <p>■乗り越えた方法 実際に起こり得る具体的な場面設定を用い、想像しやすい構成とした 全体発表と小グループ討議を組み合わせ、発言機会の確保を図った</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>正解を示すのではなく、「考えるプロセス」を重視した進行とした</p>	

	生徒だけでなく教員も参加する形式とし、視点の広がりを意識した
事業内容② 残課題等	<p>学年や発達段階に応じた問いの難易度調整が今後の課題である</p> <p>単発で終わらず、継続的な防災学習につなげる仕組みづくりが必要である</p> <p>学校側との役割分担や実施体制の整理を進める必要がある</p>

■事業内容




事業内容②:避難訓練(防災講座(専門家))	
事業内容②目標 (提供者側)	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学 6 年生を対象に 1 回以上の防災講座を実施 ・ワークシート回収率 100% ・児童全員が「守りたい大切なもの」と「守る方法」を 1 つ以上記述 <p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「未来へのメモワール」の実践知の蓄積 ・価値起点型(What の前に Why)の防災教育モデルの確立 ・学校連携型防災教育プログラムの実施ノウハウ蓄積 ・写真使用・個人情報配慮を含む運営体制の標準化
事業内容②目標 (参加者側)	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童全員が「大切なもの」を 1 つ以上明確化 ・具体的な備え(持ち出し袋準備・家族との話し合い等)を各家庭で 1 つ以上実践 <p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために防災をするのか」を主体的に理解する ・日常生活と災害リスクを結びつけて考えられるようになる ・家族との防災対話のきっかけを創出する ・防災を“知識”ではなく“価値を守る行動”として捉える視点を育む
事業内容② 実施内容 B (実施日:1/19)	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>防災講座</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>金丸小学校 6 年生を対象に、高知県等で実施されている防災教育プログラム「未来へのメモワール」を実施した。</p> <p>本講座は「ふだん」「まさか」「もしも」の 3 つのキーワードを軸に構成し、災害で失いたくない「大切なもの」を自分の生活から見つけ、その守り方を具体化することを目標とした。</p> <p>まず「ふだん」を振り返る活動として、日常生活の内容を書き出すワークを実施。次に「まさか」を知る活動として、失いたくないものとその理由を整理した。「ふだん」の中にある大切なものを把握することが備えの出発点であることを共有した。</p> <p>最後に「もしも」を考える活動として、「まさか」を「もしも」に変える視点から、災害時に何をどう守るかを具体化するワークを実施した。</p> <p>児童からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペット用持ち出し袋の準備 </div> <div style="flex: 1; vertical-align: top;"> <p>写真・図など</p>  </div> </div>

	<p>・予備バッテリーの準備 など、生活実感に根ざした具体的な備えが挙げられた。 本講座では、防災知識の詰め込みではなく、「なぜ防災をするのか」という原点に立ち戻る設計とした。 技術偏重型ではなく、</p> <p>・価値→行動 という順序で構成し、防災マニア化を目的とせず、「守りたいもののために何をするか」を考える構造を重視した。 写真については、金丸小学校樋口先生に確認の上、個人情報に配慮したもののみ共有している。</p> <p>■成果</p> <p>【参加者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「防災＝命を守る」だけでなく、「大切なものを守る行動」として再定義できた。 ・家族と話し合おうと思う、備えを始めようと思う等、行動意欲の向上が確認できた。 ・「夜ご飯が当たり前で食べられるとは限らない」といった日常の価値への気づきが生まれた。 ・日常の延長線上で災害を捉える思考が育まれた。 <p>【提供者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値起点型防災教育の実践モデルを地域で展開できた。 ・学校現場で実施可能なプログラム構成の検証ができた。 ・児童の発言から、主体的思考を引き出す設計の有効性を確認できた。 ・親子波及型防災教育の可能性を実証できた。 	 
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への直接的な波及効果の測定が未実施 ・講座後の行動変容の追跡ができていない ・防災キャンプ形式への発展までは至っていない <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で話し合うことを促す設計とした ・具体行動を書き出すワークを実施し行動化を促進 ・学校との事前調整により円滑な実施体制を整備 	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識よりも価値観に焦点を当てた構成 ・「ふだん→まさか→もしも」という理解しやすい構造 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活実感に即した具体例の共有 ・否定しない対話型進行 ・写真共有における個人情報配慮の徹底
<p>事業内容② 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座後の家庭内実践状況のフォローアップ未実施 ・保護者向け説明資料の整備が必要 ・親子防災キャンプ形式への発展設計が未完了 ・継続実施のための学校側との年間連携計画未策定 ・効果測定指標(行動変容・備蓄実施率等)の設定が必要 <p>【今後の計画変更・発展案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子合同ワークショップの実施 ・防災キャンプ形式での体験型学習導入 ・家庭用「未来へのメモワール」ワークシート作成 ・継続的学校連携プログラム化

■事業内容

事業内容②:避難訓練(防災講座(専門家))	
事業内容②目標 (提供者側)	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘した防災講演会を1回以上実施 ・中学生を対象とした対面形式の防災教育機会を創出 ・講演後の質疑応答時間を確保し双方向性を担保 <p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災体験を基軸とした実践的防災教育モデルの検証 ・学校との連携体制の強化 ・「伝承型防災教育」の地域展開ノウハウの蓄積 ・避難行動の本質を伝える教育プログラムの充実
事業内容②目標 (参加者側)	<p>【定量目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演を通じて具体的な避難行動の重要性を理解する ・質疑応答を通じ主体的に防災について考える機会を持つ <p>【定性目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の実体験を通して災害を「自分事」として捉える ・「てんでんこ」の教えの意味を理解し、即時避難の重要性を認識する ・今後の避難訓練の意義を再確認する ・命を守る判断の重みを実感する
事業内容② 実施内容 B (実施日:2/6)	<p>防災講座</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>岩手県釜石市より川崎杏樹氏を招聘し、東日本大震災津波を中学2年生で経験された当時の体験について講演を実施した。</p> <p>講演では、津波発生時の避難の状況やその時の判断、実際の写真を交えながら約45分間お話しいただいた。</p> <p>特に、岩手県に伝わる「てんでんこ(家族も各自が一刻も早く高台へ逃げる)」という教えについて紹介があり、この教えが多くの命を救ったことが共有された。</p> <p>講演後には生徒からの質問もあり、体験に基づく具体的な対話が行われた。</p> <p>本講演は、オンラインではなく対面で実施することにより、講師の言葉や表情、空気感を直接感じられる環境を整えた。</p> <p>被災経験者の語りを通じ、教科書の知識では伝わりにくい「その瞬間の判断」や「迷い」「恐怖」を共有することができた。</p> <p style="text-align: right;">写真・図など</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">    </div>

	<p>■成果</p> <p>【参加者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実体験に基づく話を対面で聴くことで、災害をより現実的に捉えることができた。 ・「てんでんこ」の意味を通じて、迷わず避難する重要性を理解した。 ・今後の避難訓練の意義や本気度について再認識する機会となった。 ・防災を知識としてではなく「命を守る判断」として考える契機となった。 <p>【提供者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地と学校を直接つなぐ教育機会を創出できた。 ・対面型伝承教育の有効性を確認できた。 ・学校現場における避難訓練の質向上につながる示唆を得た。 ・外部講師招聘に関する調整・運営ノウハウを蓄積できた。 	  
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演後の継続的な振り返りプログラムが未実施 ・家庭への波及効果の把握ができていない ・単発講演にとどまり、体験型学習との接続が十分ではな <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の時間を確保し双方向性を担保した ・学校側と事前調整を行い、講演の意図を共有した ・今後の避難訓練に活かすことを前提に実施した 	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被災体験を直接伝える対面形式を採用 ・写真を活用し具体性を高めた ・中学生世代に近い当時の体験談を共有することで共感性を高めた ・「てんでんこ」という明確なキーワードで避難原則を伝えた 	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講演後の振り返りワークの導入が未実施 ・家庭や地域への波及測定が未実施 ・体験型プログラム(キャンプ・避難体験)との接続設計が必要 ・継続的な伝承教育の年間計画未策定 <p>【今後の計画変更・発展案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演+避難シミュレーションのセット化 ・「てんでんこ」をテーマにした校内ワークショップの実施 ・親子向け講演・対話の機会創出 ・避難訓練の質的評価指標の導入 	

■事業内容

事業内容④:成果整理・普及	
事業内容④目標 (提供者側)	<p>コンソーシアムやワークショップの運営を通じ、成果整理・普及に関するノウハウを蓄積する 他地域・他校区事例を整理し、自団体の防災教育・福祉連携の改善点を把握する 成果を文書化・報告し、地域や関係機関への普及・共有の方法を確立する</p>
事業内容④目標 (参加者側)	<p>地域防災に関する学びや気づきを整理し、他の住民や関係者に伝える力を向上させる 防災×福祉の視点を日常の活動や地域の取り組みに活かす意識を醸成する 学んだ内容を地域内で共有し、防災活動や協働の実践に繋げる</p>
事業内容④ 実施内容 A (実施日:11/4)	<p>(実施日:2025年11月4日)</p> <p>■具体的な取り組み内容 会場:久留米シティプラザ 参加者:久留米市関係者、地域包括支援センター、介護・福祉事業者等 株式会社「かんがえる防災」高木敏行氏による他地域の自主防災組織や机上訓練事例の紹介 九州大学 杉山先生による地区防災計画の位置づけ解説 「クロスロード」ワークショップの実施(災害時の判断・選択体験) 参加者間で福祉や避難、電力・排せ環境などの課題について質疑・ディスカッション 自主防災組織と行政の連携方法の検討</p> <p>■成果(提供者/参加者)</p> <p>【提供者側】 コンソーシアム運営やワークショップの進行ノウハウを蓄積 地域課題の抽出・整理方法を確立</p> <p>【参加者側】 災害時の福祉課題や日常防災活動の重要性を理解 クロスロード体験による意思決定の多様性理解 地域・組織間連携の必要性を認識</p>
	<p>写真・図など</p> 
事業内容④ 実施内容 B (実施日:12/10)	<p>(実施日:2025年12月10日)</p> <p>■具体的な取り組み内容 会場:久留米シティプラザ(ハイブリッド形式) 参加者:地域住民、行政、福祉関係者、学校関係者、企業、市民団体等(約50名) 福知山公立大学 大門大朗氏による「デイサービス避難」事例報告 竹野校区まちづくり振興会副会長 矢野氏による地域防災リーダー事例報告 九州大学 杉山高志先生によるディスカッション:「自分の立場でできること」をテーマに意見交換</p>

	<p>高齢者見守りの仕組み化 福祉・学校・企業・行政の連携 日常の助け合いの土壌づくり</p> <p>■成果(提供者/参加者)</p> <p>【提供者側】 成果の整理と共有方法を確立 他地域・他校区事例の知見を整理し、今後の普及活動に活かす</p> <p>【参加者側】 日常生活の延長としての避難訓練の重要性を理解 災害時の支援対象(高齢者・医療的ケア・子ども等)の課題認識を向上 地域住民や関係機関の協働の重要性を理解 学んだ内容を地域内で共有する意識を醸成</p>	
<p>事業内容④ 実施内容 C (実施日:1/13)</p>	<p>(実施日:2026年1月13日)</p> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>官民コンソーシアムの会合に参加し、事業所 BCP に関する報告および、ミーツ株式会社 成田智哉氏による「共助型困りごと解決プラットフォーム」の事例発表を拝聴した。</p> <p>特に以下の観点について整理・検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所 BCP の実効性と地域連携の必要性 ・LINE 等を活用した共助型プラットフォームの仕組み ・アナログな地域課題をデジタル化し可視化する意義 ・「まちづくり as a Service」という概念 ・平時のつながりが有事の防災対応力を高めるという考え方 <p>会全体を通して、「いかに繋がっていくか」というコンソーシアムのキーワードを軸に、有意義な報告および議論が展開された。</p> <p>参加内容を内部共有資料として整理し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自団体の防災教育事業との接続点 ・地域連携強化に向けた示唆 ・デジタル活用の可能性 <p>を抽出し、今後の事業計画へ反映するための検討材料とした。</p> <p>■成果(提供者側)</p> <p>本会への参加を通じて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災を単体事業として捉えるのではなく、「交通・福祉・防災を横断する地域共生社会 DX」という視点を獲 	<p>写真・図など</p>    

	<p>得した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所 BCP を地域ネットワークの中で位置づける重要性を再認識した ・共助型プラットフォームという具体的モデルを参考に、自団体事業への応用可能性を整理できた <p>結果として、成果整理および今後の事業展開に向けた方向性の明確化につながった。</p> <p>■成果(参加者側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・官民・企業・地域団体が横断的に議論する場の意義が共有された ・共助型プラットフォームという具体事例により、「繋がり」の設計が防災力向上につながることへの理解が深まった ・単なる災害対応ではなく、平時からの関係構築の重要性が明確になった 	  
<p>事業内容④を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人数参加による意見共有の時間不足 ・初参加者には災害体験が少なく、具体的議論が難しい場面があった ・先進事例のスケール(北海道厚真町等)と自地域の規模・制度環境との差異をどのように整理するかが課題となった ・共助型モデルをそのまま導入するのではなく、地域特性に応じた再設計が必要であることが明らかになった <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事例や道具を提示して理解促進 ・ファシリテーターによるディスカッションの発言機会の均等 ・事例を「そのまま導入するモデル」としてではなく、「考え方・構造を学ぶ事例」として整理 ・仕組み・思想・連携方法の抽出に重点を置き、自団体への応用可能性を再検討した 	
<p>事業内容④を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果整理・普及に向け、記録・文書化を重視 ・クロスロードワークや事例紹介により参加者の理解を促進 ・ディスカッション時間を十分確保し、多様な意見を収集 ・手話通訳を配置することで、聴覚障害の方が参加することができた ・単なる聴講で終わらせず、「自団体の防災教育事業とどう接続するか」という視点で参加した ・事業所 BCP、共助、DX、地域連携というキーワードを横断的に整理した ・「平時の共助が有事の防災につながる」という構造に着目し、自事業の位置づけを再確認した 	
<p>事業内容④ 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム成果を地域防災計画や日常活動に反映する方法の検討 ・災害時福祉支援の具体策(電力、排泄、介護等)の整理 ・成果の地域・関係機関への継続的な普及 ・制度・人材・運営体制の整備、地域間連携の強化 	

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中間報告時点での残タスク ・事業所 BCP と地域連携の具体的接続モデルの整理 ・共助型プラットフォーム活用可能性の検討 ・成果の外部発信方法の検討 ■ 明らかになった課題(制度・人材・運営体制等) ・地域内の情報共有基盤の不足 ・デジタル活用に対応できる人材の確保 ・官民間の継続的対話の場の構築 ・単年度事業に終わらせない継続体制の確立 ■ 今後に向けた計画変更 ・防災教育事業を「炊き出し」や「講演」に限定せず、地域連携モデルの検討まで拡張する ・平時のつながりづくりを意識したプログラム設計へ転換 ・コンソーシアムで得た知見を事業報告書や次年度計画に反映する
--	---